Copyright © 2015 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

ViewCreator for IM-Workflow 連携ガイド

- 1. 改訂情報
- 2. はじめに
  - 2.1. 本書の目的
  - 2.2. 対象読者
  - 2.3. 本書の構成
  - 2.4. 本書の設定
- 3. ViewCreator / IM-Workflow を連携する
  - 3.1. サンプル1 特定のフローの完了案件一覧を作成する
  - 3.2. サンプル2 フロー別の滞留案件の一覧を作成する
  - 3.3. サンプル3 ユーザ別の滞留案件の一覧を作成する
  - 3.4. サンプル4 処理対象者が不在の案件一覧を作成する
  - 3.5. サンプル5 月別の案件推移グラフを作成する
- 4. ViewCreator / IM-BIS を連携する
  - 4.1. サンプル6 BAM情報からノード別の平均作業時間の一覧を作成する
  - 4.2. サンプル7 BAM情報から担当者別の平均作業時間の一覧を作成する
  - 4.3. サンプル8 BAM情報から月別の平均作業時間の一覧を作成する
- 5. ViewCreator / IM-FormaDesigner を連携する
  - 5.1. サンプル9 Formaアプリの登録データの一覧を作成する
- 6. 付録
  - 6.1. ViewCreator の設定データダウンロード
  - 6.2. IM-BIS のフローの案件データのテーブル情報を確認する
  - 6.3. アプリケーションのテーブル情報を確認する
  - 6.4. IM-Workflow の詳細画面への遷移URL
  - 6.5. IM-BIS の履歴画面への遷移URL

改訂情報

変更年月日	変更内容
2015-04-01	初版
2015-12-01	第2版 下記を変更・追加しました。 ▪ 「 *IM-Workflow の詳細画面への遷移URL* 」にワークフローの詳細画面への遷移可能な権限の説明を追加しました。 ▪ 「 *IM-BIS の履歴画面への遷移URL* 」にワークフローの詳細画面への遷移可能な権限の説明を追加しました。

本書の目的

本書は ViewCreator / IM-Workflow / IM-FormaDesigner / IM-BIS の連携、活用方法について、サンプルを用いて説明します。

> コラム
>
> 本書で説明する連携方法、およびサンプルは活用方法の1つとして提示させて頂いております。
> 連携方法、サンプル、及びサンプルのカスタマイズに関する問い合わせに関しては、回答できかねますのでご了承願います。

> コラム
>
> 本書で説明する連携方法、およびサンプルは未完了案件20万件、完了案件20万件のデータが存在する想定で、動作を確認しています。
> ただし、パフォーマンスに関しては環境等の違いがあるため、保証するものではありません。
> 必ずお客様の検証環境で検証のうえ、利用してください。

対象読者

本書は、IM-Workflow など各種アプリケーションのデータを ViewCreatorから一覧を作成する活用例を紹介しております。
本書での活用例は、「 ViewCreator 」「 IM-Workflow 」「 IM-FormaDesigner 」「 IM-BIS 」に関する基本操作を理解していることを前提としています。
各種アプリケーションの基本操作に関しては、関連ドキュメントを参照するようにしてください。

- ViewCreator 管理者操作ガイド
- IM-Workflow 管理者操作ガイド
- IM-FormaDesigner 作成者操作ガイド
- IM-BIS 業務管理者操作ガイド

本書の構成

- *ViewCreator / IM-Workflow を連携する*

  ViewCreator 、 IM-Workflow を連携して活用する方法をご紹介します。

- *ViewCreator / IM-BIS を連携する*

  ViewCreator 、 IM-BIS を連携して活用する方法をご紹介します。

- *ViewCreator / IM-FormaDesigner を連携する*

  ViewCreator 、 IM-FormaDesigner を連携して活用する方法をご紹介します。

- *付録*

  サンプルの ViewCreator の設定データとサンプル作成手順の補足情報をまとめています。

本書の設定

本書では、以下の設定の環境を前提として説明しております。

- intra-mart Accel Platform 2015 Spring （Advanced Edition）
- IM-FormaDesigner for Accel Platform 2015 Spring
- IM-BIS for Accel Platform 2015 Spring

ViewCreator / IM-Workflow を連携する

ViewCreator / IM-Workflow を連携して活用する方法をご紹介します。

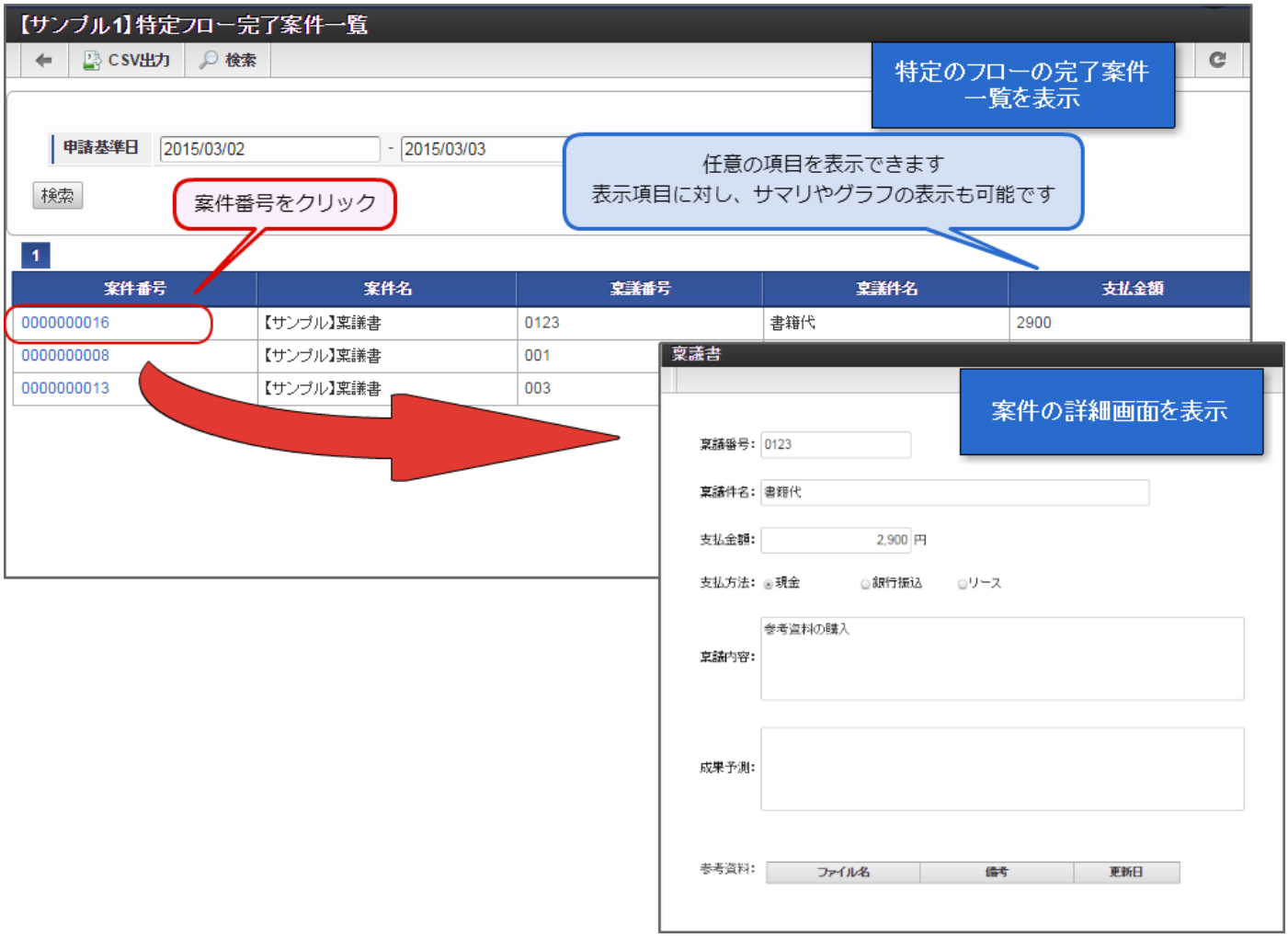
サンプル1 特定のフローの完了案件一覧を作成する

IM-Workflow の特定のフローに対し、完了案件一覧を作成します。

- このサンプルについて
- このサンプルでできること
- このサンプルで参照するテーブルの情報
- クエリを作成する
- リスト集計画面を作成する

このサンプルについて

このサンプルでは、 IM-Workflow と IM-FormaDesigner で作成した特定のフローに対する完了案件の一覧を ViewCreator で作成します。
作成した一覧の項目に、ワークフローの案件へのリンクを設定すると、リンクから案件の詳細画面を表示することができます。
本項では、Formaアプリケーションのサンプルとして登録されている「【サンプル】稟議書」のフローを例として、完了案件の一覧を作成します。



このサンプルでできること

- ViewCreator から IM-Workflow の詳細画面を表示するリンクを張ることができるようになります。
- IM-Workflow の特定のフローに対し、任意項目を表示し、サマリやグラフの表示ができるようになります。

コラム

サマリ集計やグラフ集計の詳細な設定方法は、「 ViewCreator 管理者操作ガイド 」を参照ください。

このサンプルで参照するテーブルの情報

このサンプルで利用するテーブルの情報を説明します。

- アプリケーションのテーブル（imfr_ut_%アプリケーションID%）
  メインフォームに配置した画面アイテムの入力データを格納するテーブルです。
  案件毎に1レコード作成されます。

カラム	説明
データ登録ID（insert_id）	ユーザコンテンツ側が案件を一意に特定するためのIDです。 完了案件テーブルのユーザデータIDと結合するカラムとなります。
画面アイテム入力値 （imfr_ud_%フィールド識別ID%）	各画面アイテムにて入力、もしくは選択された値を保持します。

- 完了案件テーブル（imw_t_cpl_matter）
  完了案件情報を格納するテーブルです。
  案件毎に1レコード作成されます。

カラム	説明
システム案件 ID（system_matter_id）	ワークフロー側が案件を一意に特定するためのIDです。
ユーザデータID（insert_id）	ユーザコンテンツ側が案件を一意に特定するためのID です。 アプリケーションのテーブルのユーザデータIDと結合するカラムとなります。
案件番号（matter_number）	画面、帳票でユーザが案件を識別するためのIDです。
申請基準日（apply_base_date）	ワークフローが処理を行う際の基準日です。

コラム

アプリケーションのテーブル名の確認方法は、「 *アプリケーションのテーブル情報を確認する* 」を参照ください。

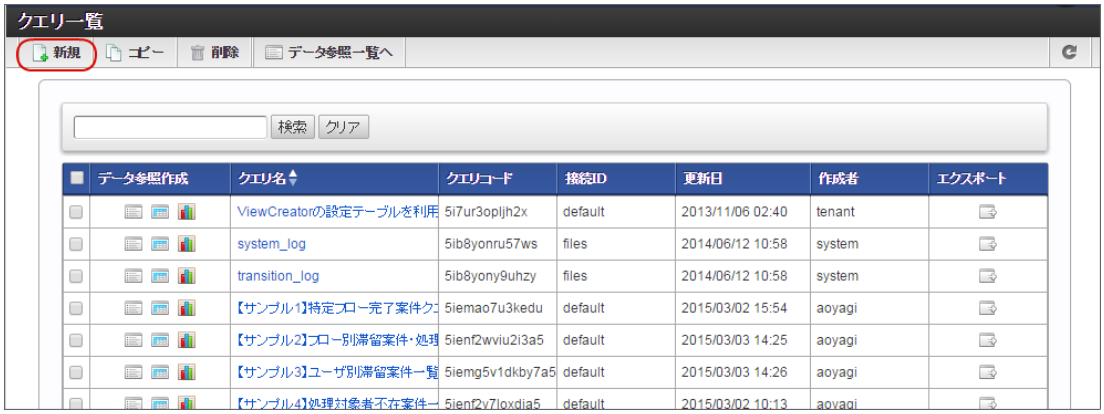
コラム

IM-Workflow のテーブル定義情報の詳細は、「 IM-Workflow テーブル定義書 」を参照ください。

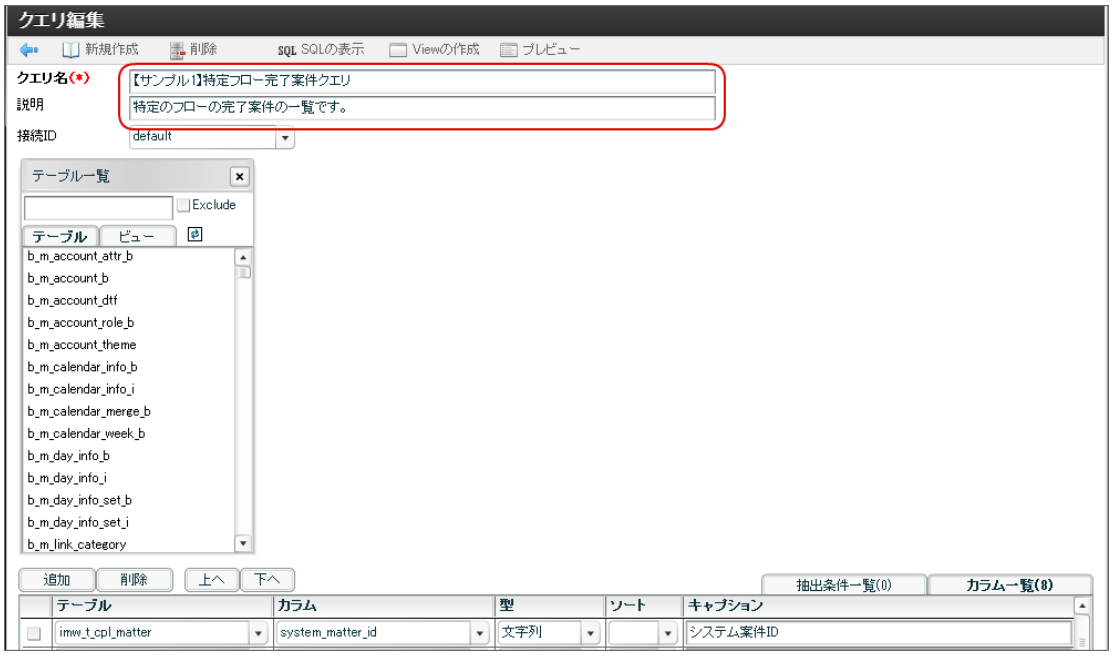
クエリを作成する

IM-Workflow の特定のフローの完了案件に対応するクエリを作成します。

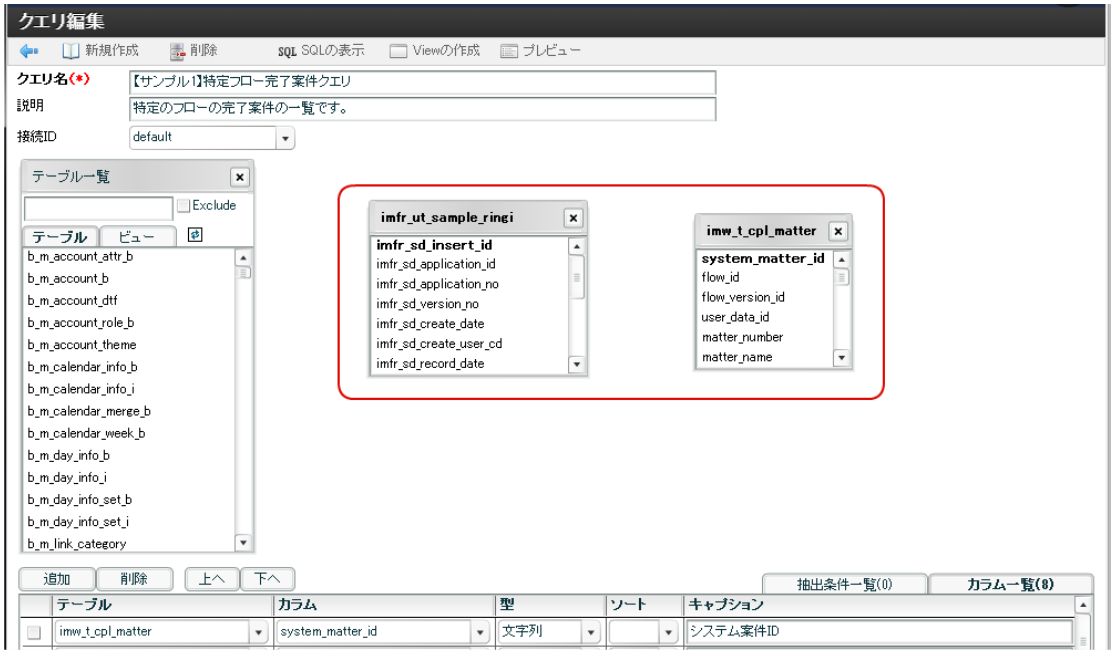
1. サイトマップ→「ViewCreator」→「クエリ一覧」をクリックします。
2. 「クエリ一覧」で「新規」をクリックします。



3. 「クエリ名」、「説明」を入力します。

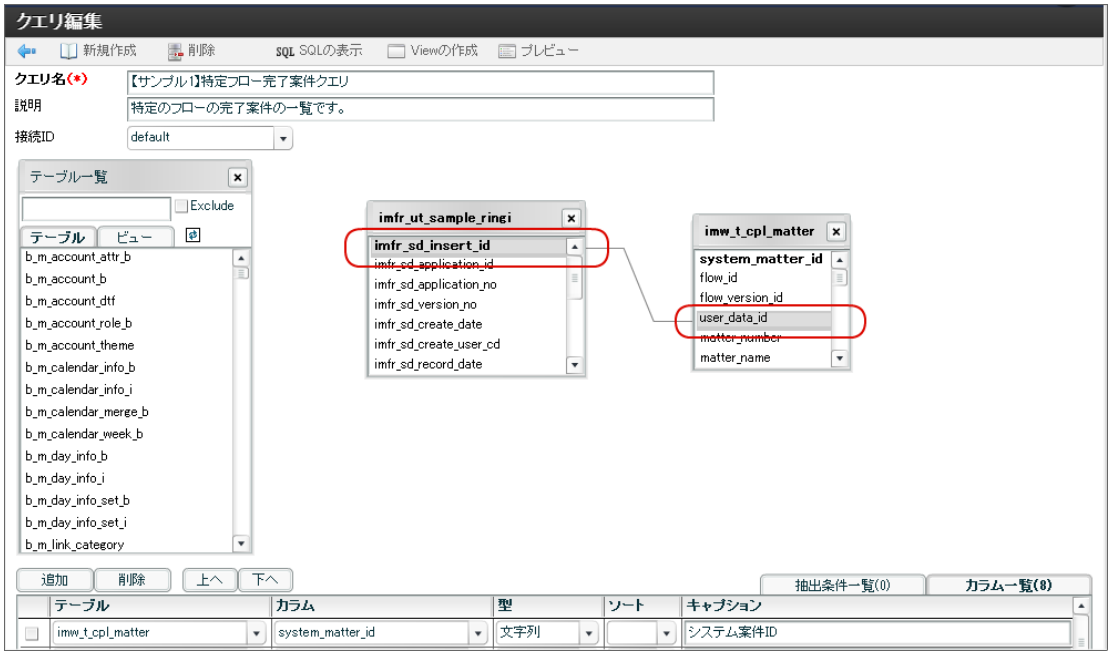


4. 「テーブル一覧」から下記のテーブルを検索し、テーブルをドラッグして右側に配置します。
   - imfr_ut_sample_ringi
   - imw_t_cpl_matter

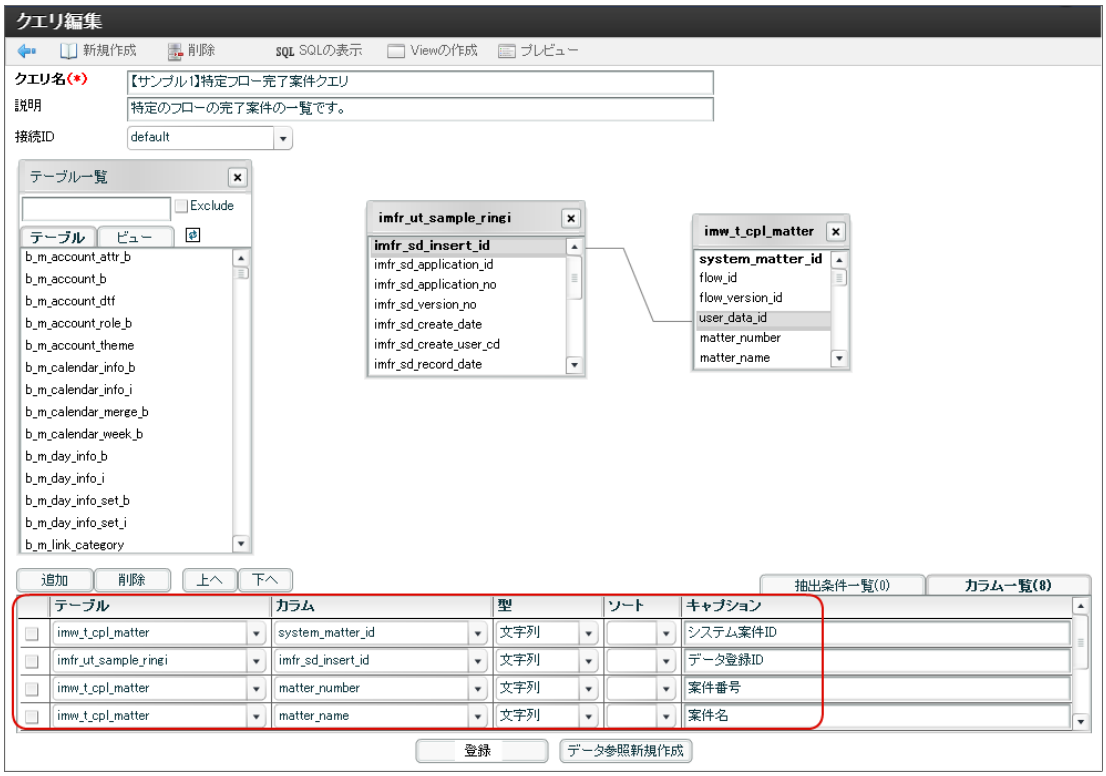


5. 配置したテーブルを下記の通りに結合します。
   - imfr_ut_sample_ringi、imw_t_cpl_matter
     - データ登録ID（imfr_sd_insert_id）

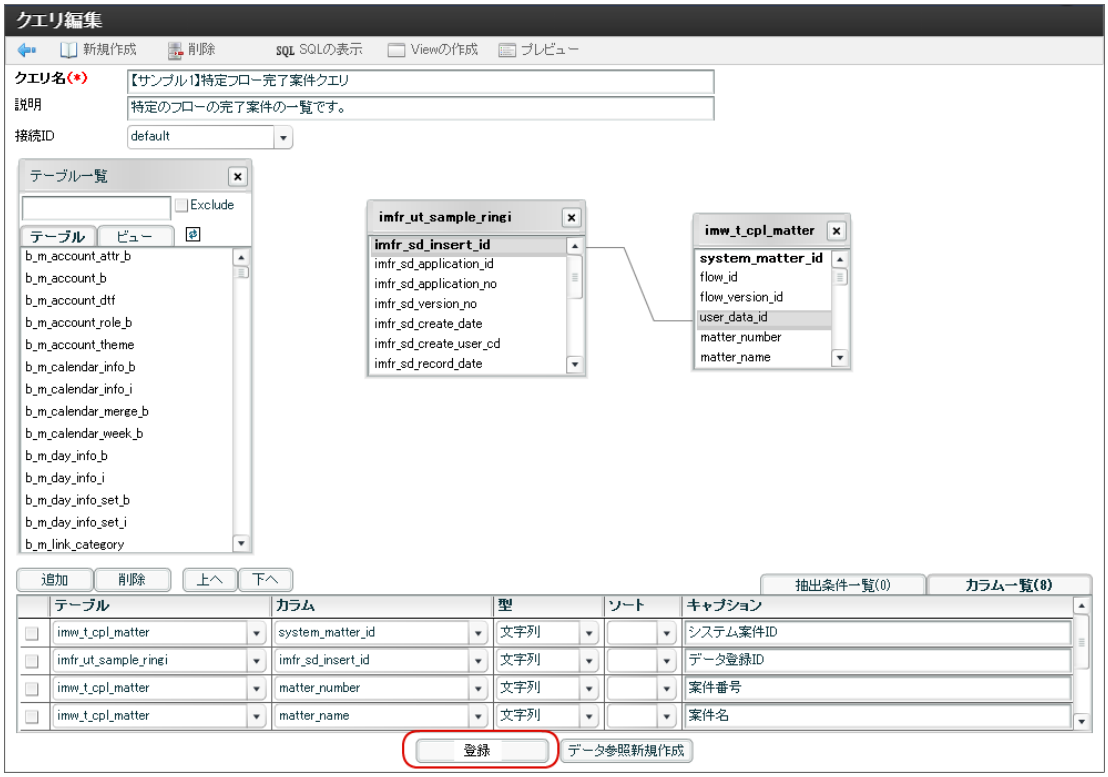
- ユーザデータID（user_data_id）



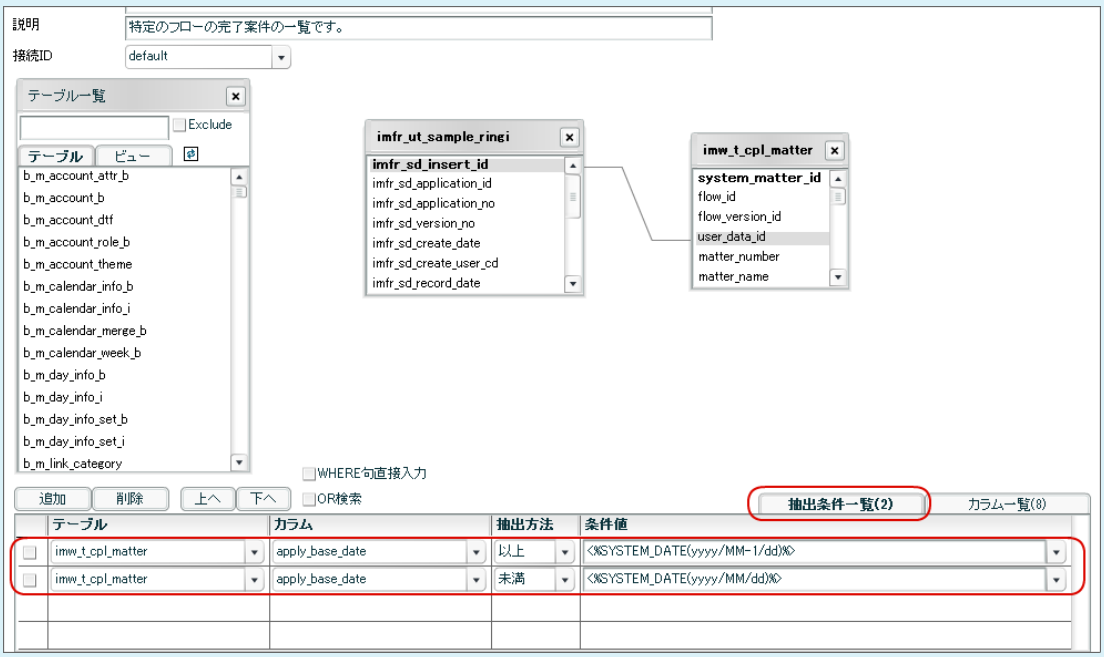
6. 「カラム一覧」に各テーブルから下記のカラムを追加します。
一覧画面に表示するカラム名を変更したい場合には、キャプションに表示したい名称を設定します。
   - imfr_ut_sample_ringi
     - データ登録ID（imfr_sd_insert_id）
     - その他に一覧に表示したい項目に対応する入力項目のカラム
   - imw_t_cpl_matter
     - システム案件ID（system_matter_id）
     - 案件番号（matter_number）
     - 案件名（matter_name）
     - 申請基準日（apply_base_date）



7. 追加が終わったら「登録」をクリックします。



8. 以上で、リスト集計のベースとなるクエリが作成できました。

> **コラム**
>
> 案件数が多くリスト集計の表示に時間がかかる場合は、抽出条件を設定することで改善する可能性があります。
> 「抽出条件一覧」で申請基準日を条件に追加すると、リストに表示する案件のデータ数を制限することができます。
> また、申請基準日を条件に追加して改善しない場合、該当カラムにインデックスの設定を検討してください。
>
> 
>

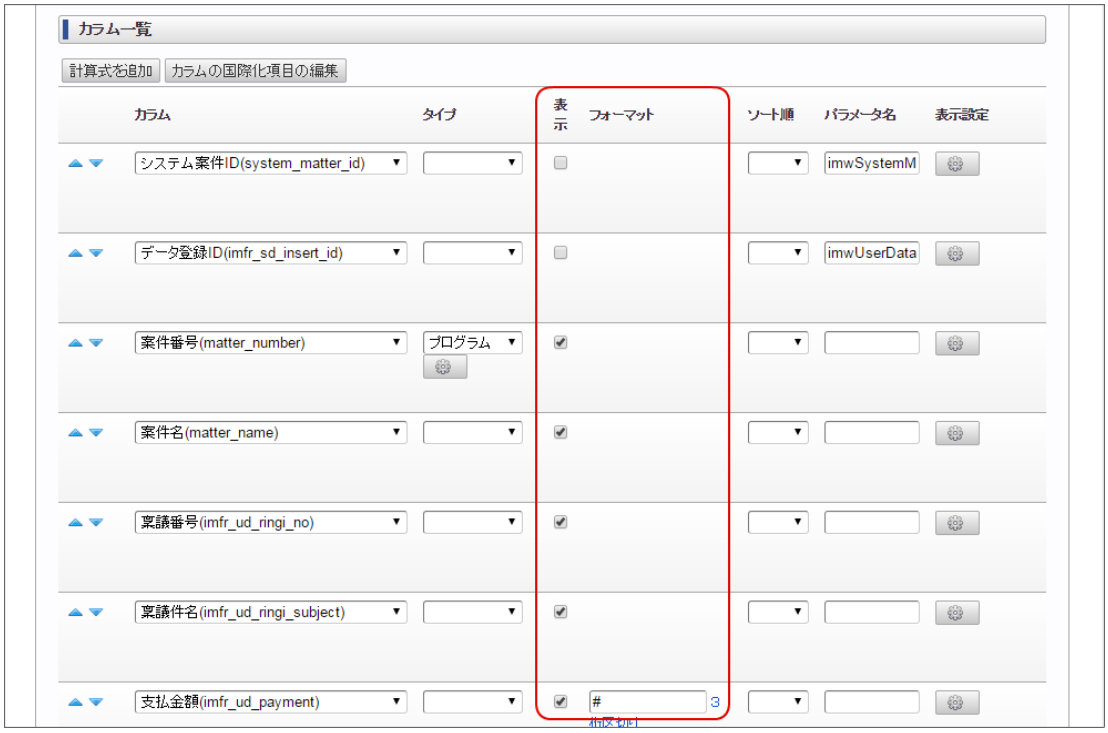
リスト集計画面を作成する

作成したクエリから「リスト集計」を作成します。
リストに表示する項目から IM-Workflow の詳細画面を表示できるように、リンクを設定します。

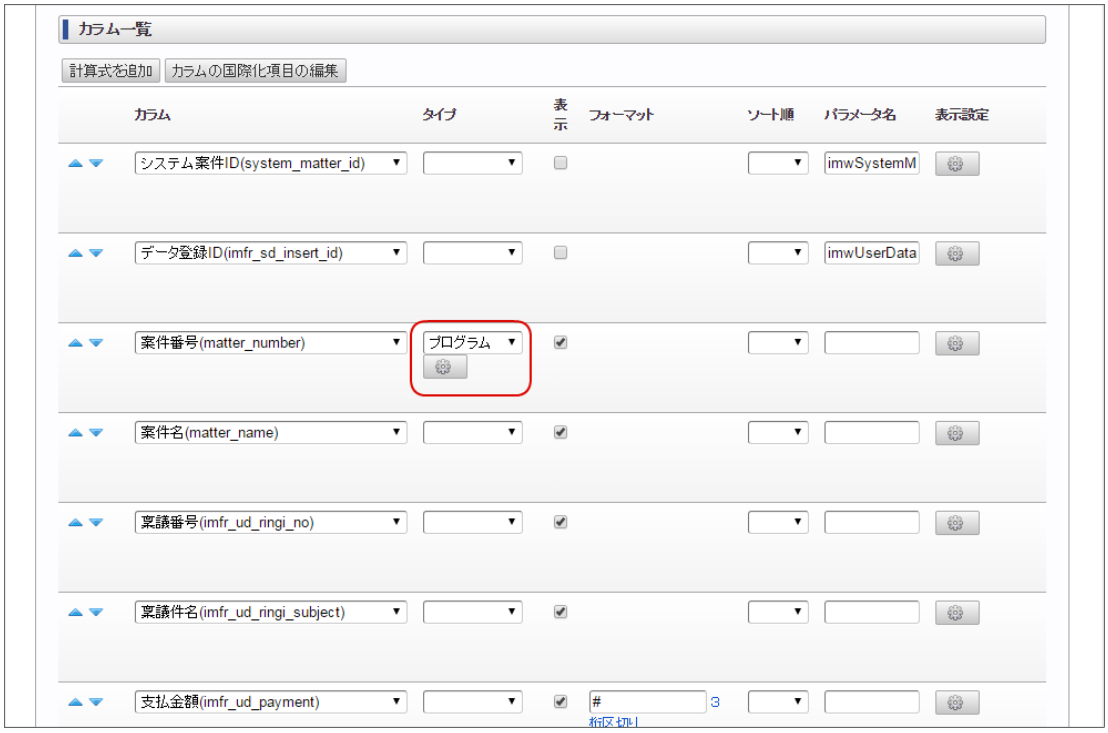
1. クエリが登録された後に、「登録」（更新）の右の「データ参照新規作成」をクリックします。

2. データ参照名などの情報を入力します。

3. 一覧に表示する項目を設定するために、表示したい項目の表示のチェックボックスをオンにします。
また、数値や日付項目のフォーマットを「フォーマット」で設定します。

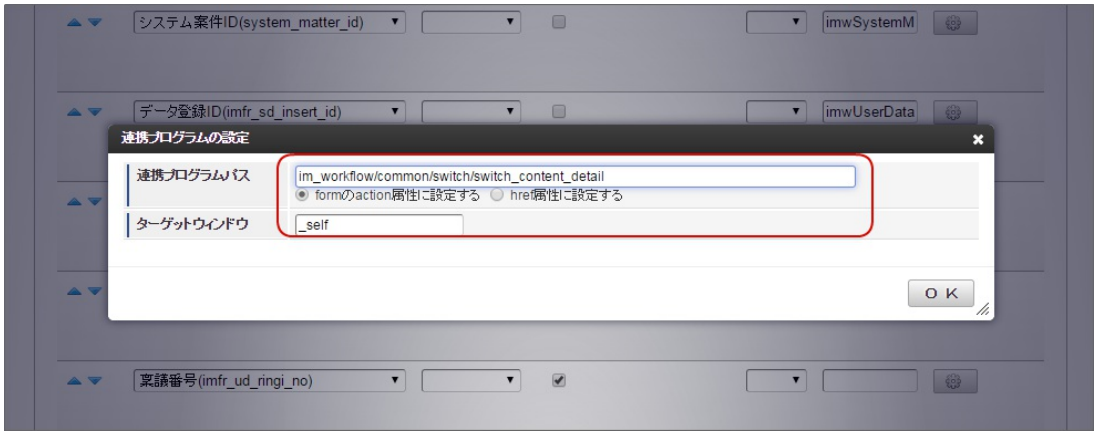


4. 案件番号のカラム「matter_number」から案件の詳細画面を表示できるように、リンクを設定します。
リンクを設定するために「matter_number」のタイプを「プログラム」に変更します。



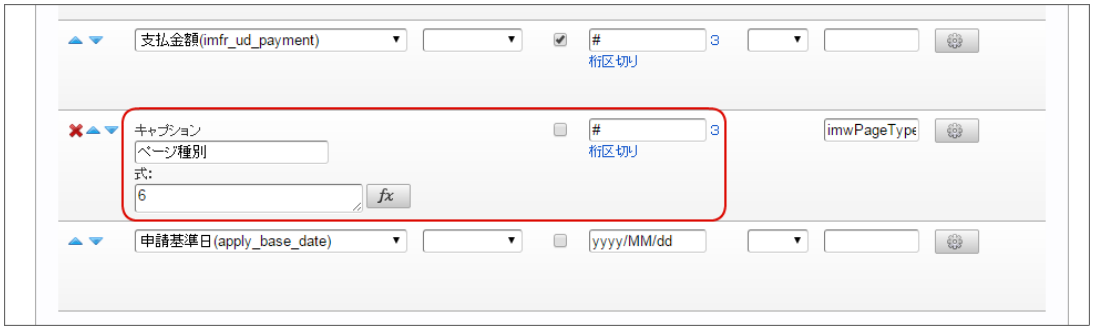
5. リンク先として、 IM-Workflow の詳細画面を呼び出すためのパスを設定します。

「 」をクリックし、連携プログラムパスにリンクする IM-Workflow の画面のパスを入力し、「OK」をクリックします。

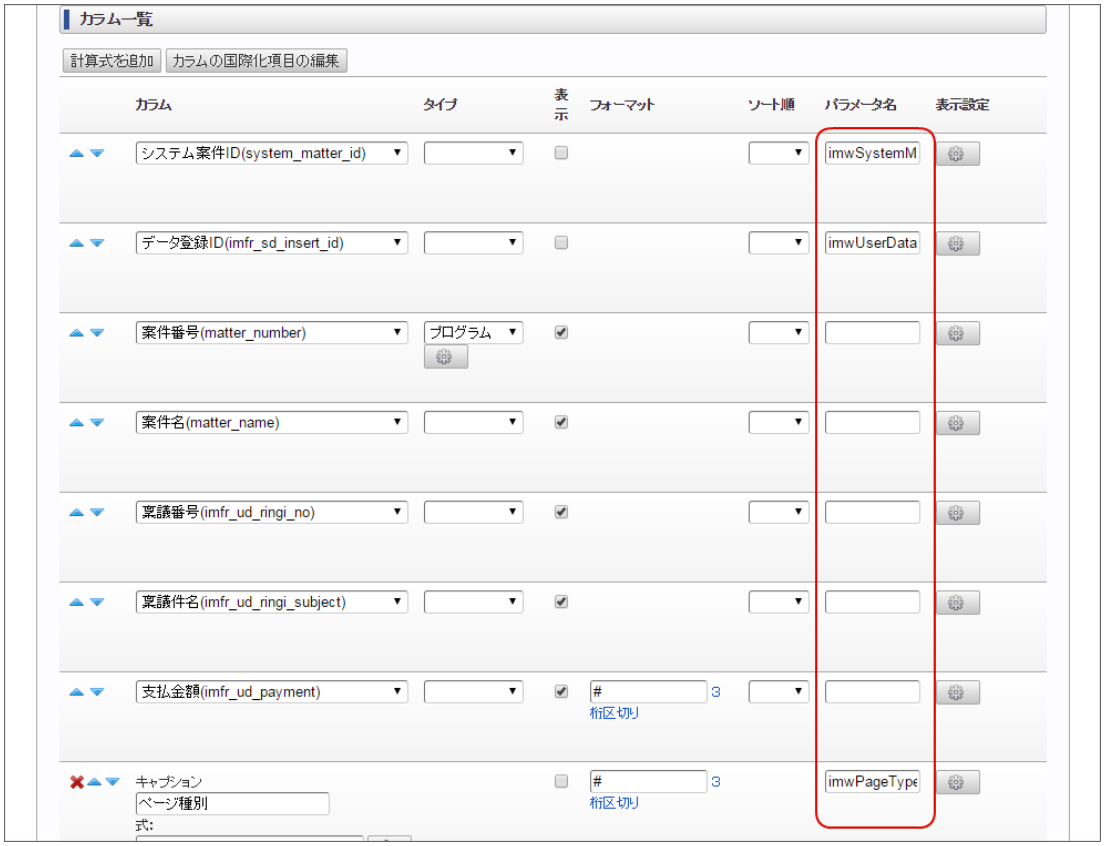


設定する画面	連携プログラムパス
詳細画面	im_workflow/common/switch/switch_content_detail

6. リクエストパラメータとして、連携先のプログラムへ渡すパラメータを設定します。
リクエストパラメータに固定値を追加するため、「計算式を追加」をクリックし、下図のように設定します。



7. パラメータ名を以下の通りに設定します。

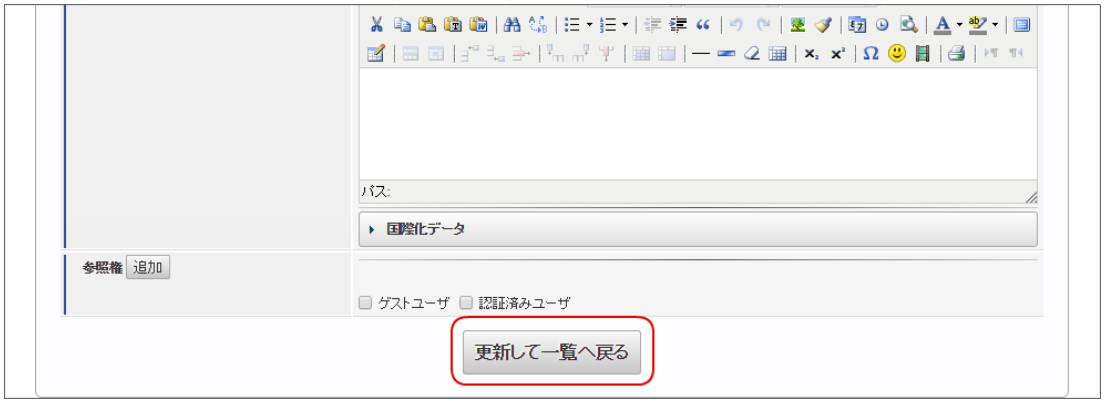


カラム	設定値
システム案件ID（system_matter_id）	imwSystemMatterId
データ登録ID（imfr_sd_insert_id）	imwUserDataId
ページ種別	imwPageType

> **コラム**
>
> IM-Workflow の詳細画面へのリンクの詳細は、「*IM-Workflow の詳細画面への遷移URL*」を参照ください。

8. 一覧で自由に申請基準日の期間を設定して、表示する案件を検索できるように「検索設定」を以下のように設定します。

9. 「登録して一覧へ戻る」をクリックして、リスト集計画面（データ参照）を保存します。



10. 以上で、リスト集計画面の作成が完了しました。

> コラム
>
> 作成した画面の参照権限の設定方法は、「 ViewCreator 管理者操作ガイド - 参照権の設定 」を参照ください。

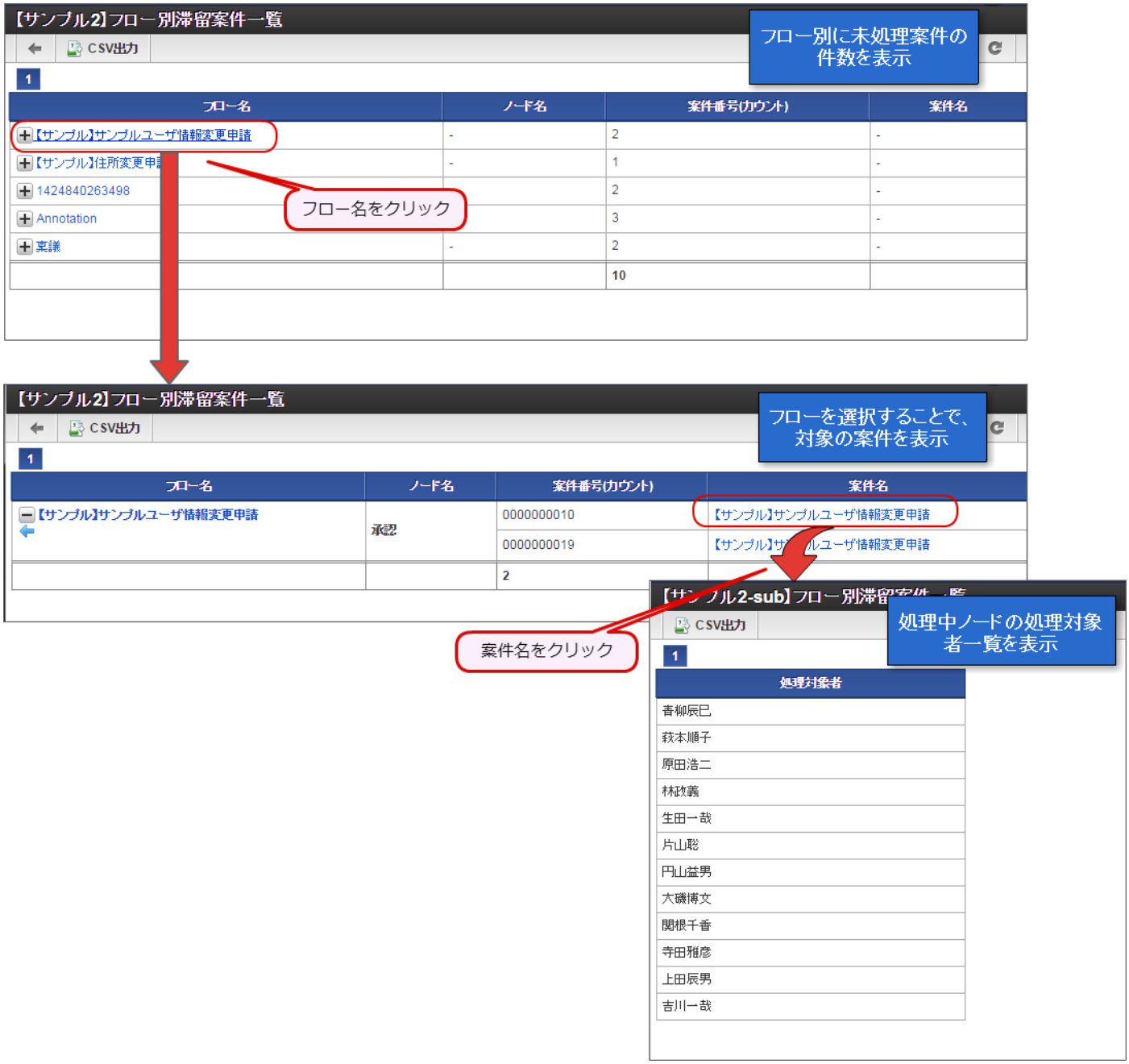
サンプル2 フロー別の滞留案件の一覧を作成する

IM-Workflow のフロー別に、滞留案件の一覧を作成します。

- このサンプルについて
- このサンプルでできること
- このサンプルで参照するテーブルの情報
- クエリを作成する（メイン画面）
- クエリを作成する（リンク先画面）
- リスト集計画面を作成する（リンク先画面）
- リスト集計画面を作成する（メイン画面）

このサンプルについて

このサンプルでは、1週間以上処理が実行されていない案件の一覧を ViewCreator で作成します。
作成した一覧の項目にリンクを設定し、リンクから処理対象者の一覧を表示します。



このサンプルでできること

- ViewCreator で作成した画面へのリンクを張ることができます。

このサンプルで参照するテーブルの情報

このサンプルで利用するテーブルの情報を説明します。

- 未完了案件未完了タスクテーブル（imw_t_actv_task）
  次に処理するワークフローのタスクが格納されるテーブルです。
  処理待ちとなっているノードのタスクの情報が登録されます。
  IM-Workflow の処理は、差戻後の承認のように、同一ノードに対して複数回処理することができます。
  タスクテーブルには、ノード上で行われた処理がタスクとして登録されます。

カラム	説明
システム案件ID（system_matter_id）	ワークフロー側が案件を一意に特定するためのIDです。
ノードID（node_id）	ノードを一意に特定するためのIDです。
開始日（start_date）	タスクが登録された日時です。

- 未完了案件テーブル（imw_t_actv_matter）
  未完了案件情報を格納するテーブルです。
  案件毎に1レコード作成されます。
  作成されたレコードは、案件が完了すると削除され、完了案件テーブル（imw_t_cpl_matter）に対応するレコードが作成されます。

カラム	説明
システム案件ID（system_matter_id）	ワークフロー側が案件を一意に特定するためのIDです。
フローID（flow_id）	フロー定義を一意に特定するためのIDです。
ユーザデータID（insert_id）	ユーザコンテンツ側が案件を一意に特定するためのID です。 アプリケーションのテーブルのユーザデータIDと結合するカラムとなります。
案件番号（matter_number）	画面、帳票でユーザが案件を識別するためのIDです。
申請基準日（apply_base_date）	ワークフローが処理を行う際の基準日です。

- 未完了案件案件ロケールテーブル（imw_t_actv_matter_locale）
  ロケール毎に保持する情報を格納するテーブルです。
  申請時点でロケール毎に1レコード作成されます。
  フロー名を取得するために利用します。

カラム	説明
システム案件ID（system_matter_id）	ワークフロー側が案件を一意に特定するためのIDです。
ロケールID（locale_id）	ロケールを一意に特定するためのID です。
フロー名（flow_name）	フロー名です。

- 未完了案件タスク処理対象者テーブル（imw_t_actv_executable_user）
  処理対象者情報を格納するテーブルです。
  未完了案件未完了タスクテーブルで処理待ちとなっているタスクに対する処理対象者情報が格納されます。

カラム	説明
システム案件ID（system_matter_id）	ワークフロー側が案件を一意に特定するためのIDです。
ノードID（node_id）	ノードを一意に特定するためのIDです。
ロケールID（locale_id）	ロケールを一意に特定するためのID です。
権限者名（auth_user_name）	処理対象者名です。

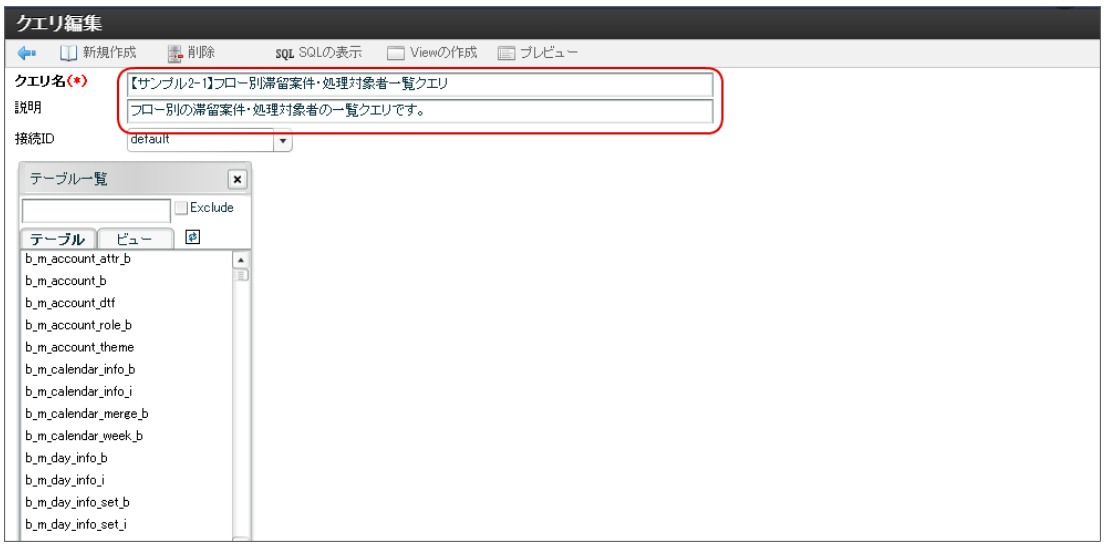
> **コラム**
> テーブル定義情報の詳細は、「 IM-Workflow テーブル定義書 」を参照ください。

クエリを作成する（メイン画面）

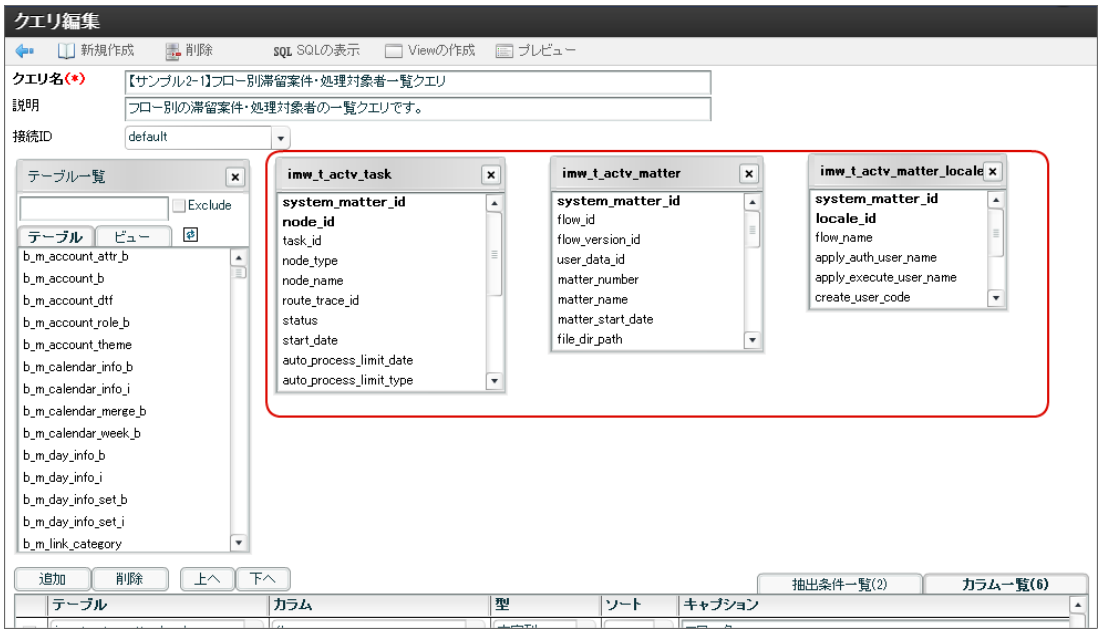
メイン画面となる IM-Workflow の未完了案件に対してクエリを作成します。

1. サイトマップ→「ViewCreator」→「クエリ一覧」をクリックします。
2. 「クエリ一覧」で「新規」をクリックします。

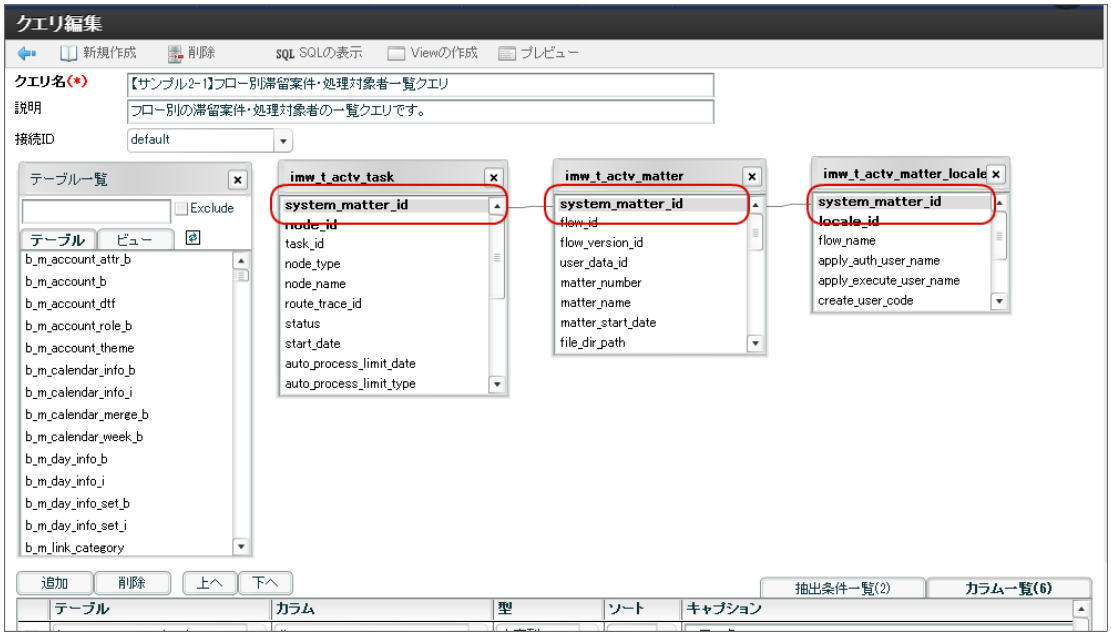
3. 「クエリ名」、「説明」を入力します。



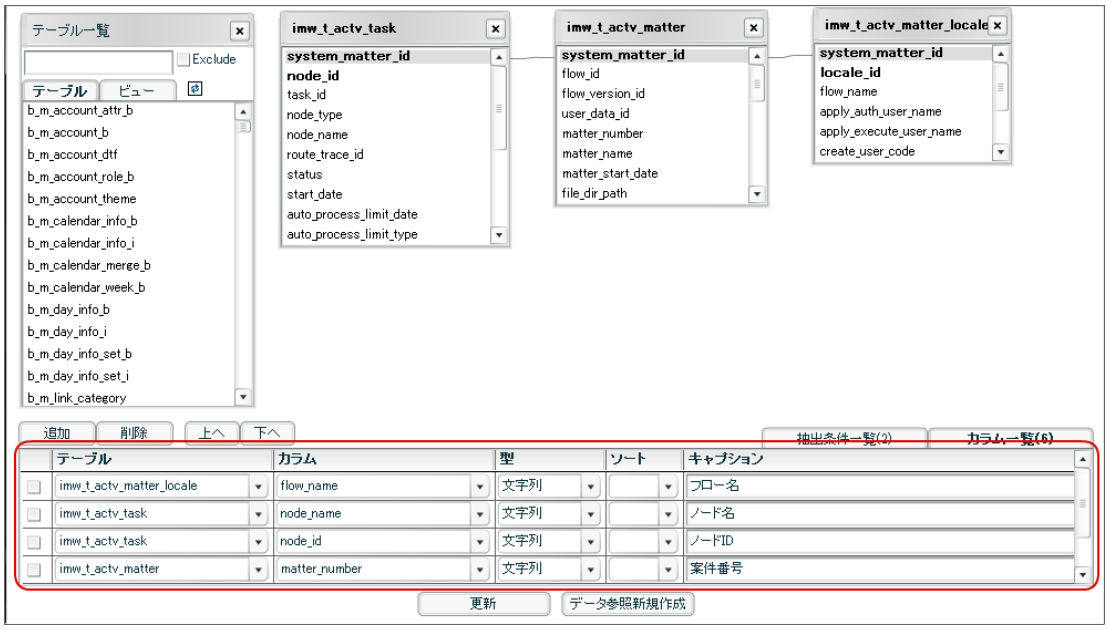
4. 「テーブル一覧」から下記のテーブルを検索し、テーブルをドラッグして右側に配置します。
   - imw_t_actv_task
   - imw_t_actv_matter
   - imw_t_actv_matter_locale



5. 配置したテーブルを下記の通りに結合します。
   - imw_t_actv_task、imw_t_actv_matter
     - システム案件ID（system_matter_id）
   - imw_t_actv_matter、imw_t_actv_matter_locale
     - システム案件ID（system_matter_id）

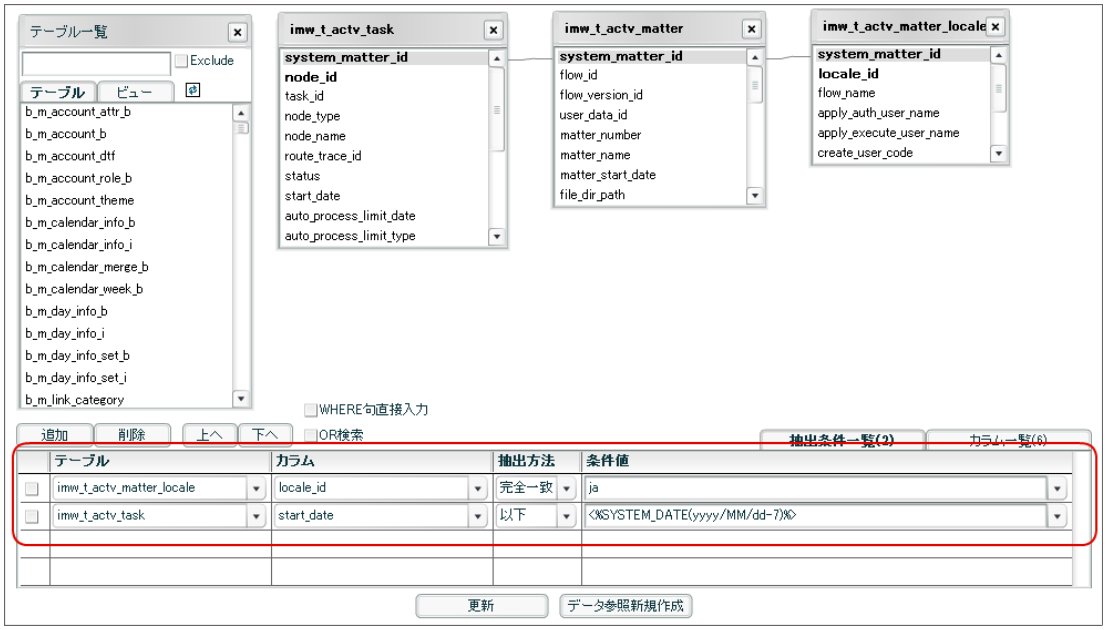


6. 「カラム一覧」に各テーブルから下記のカラムを追加します。
一覧画面に表示するカラム名を変更したい場合には、キャプションに表示したい名称を設定します。
   - imw_t_actv_task
     - システム案件ID（system_matter_id）
     - ノードID（node_id）
     - ノード名（node_name）
   - imw_t_actv_matter
     - 案件番号（matter_number）
     - 案件名（matter_name）
   - imw_t_actv_matter_locale
     - フロー名（flow_name）



7. 「抽出条件一覧」に以下を追加します。

検索カラム	検索条件
ロケールID（locale_id）	ja 日本語を検索
開始日（start_date）	<%SYSTEM_DATE(yyyy/MM/dd-7)%> 7日以上未処理のタスクを検索



8. 追加が終わったら「登録」をクリックします。

9. 以上で、リスト集計のベースとなるクエリが作成できました。

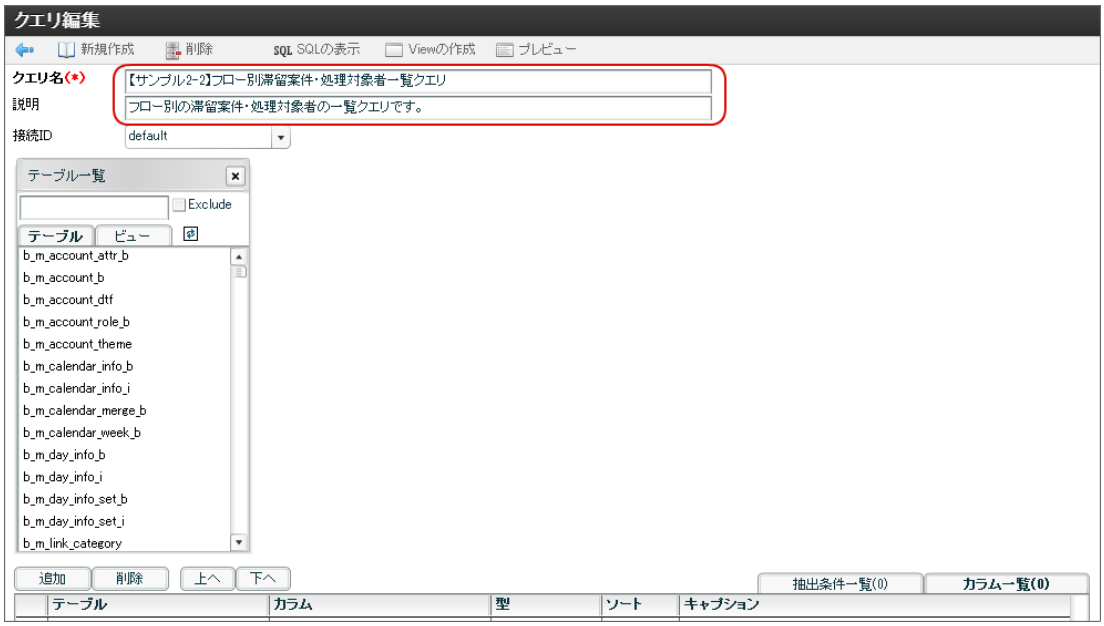
> **コラム**
>
> 案件数が多くリスト集計の表示に時間がかかる場合は、抽出条件を設定することで改善する可能性があります。
> 「抽出条件一覧」で申請基準日を条件に追加し、データ数を制限すること等を検討してください。
> また、申請基準日を条件に追加して改善しない場合、該当カラムにインデックスの設定を検討してください。

クエリを作成する（リンク先画面）

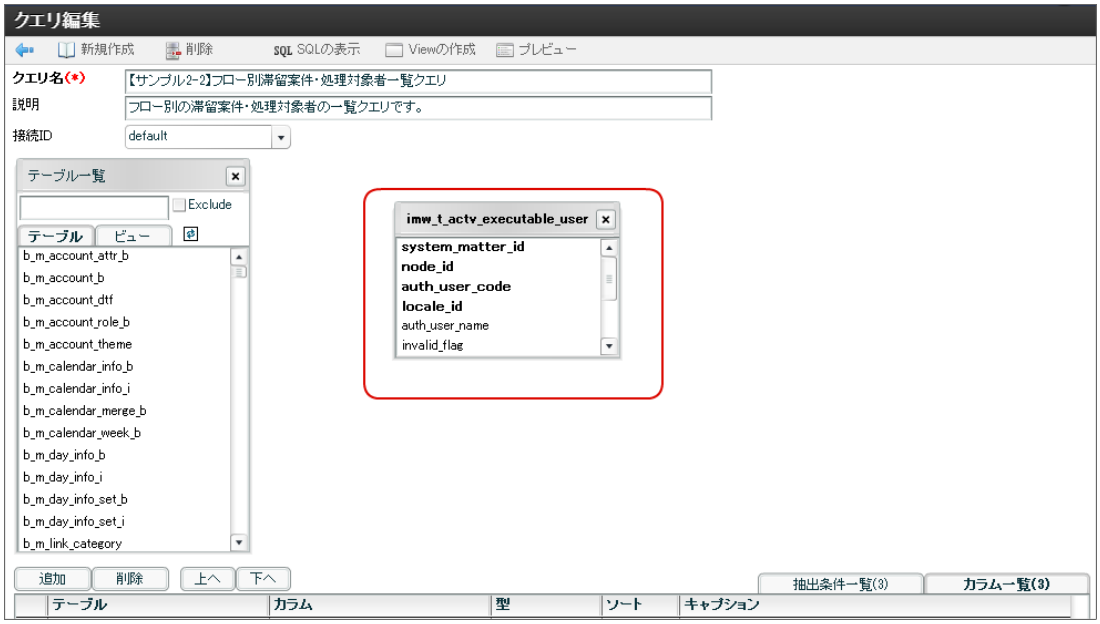
リンク先画面用のクエリを作成します。

1. サイトマップ→「ViewCreator」→「クエリ一覧」をクリックします。
2. 「クエリ一覧」で「新規」をクリックします。

3. 「クエリ名」、「説明」を入力します。

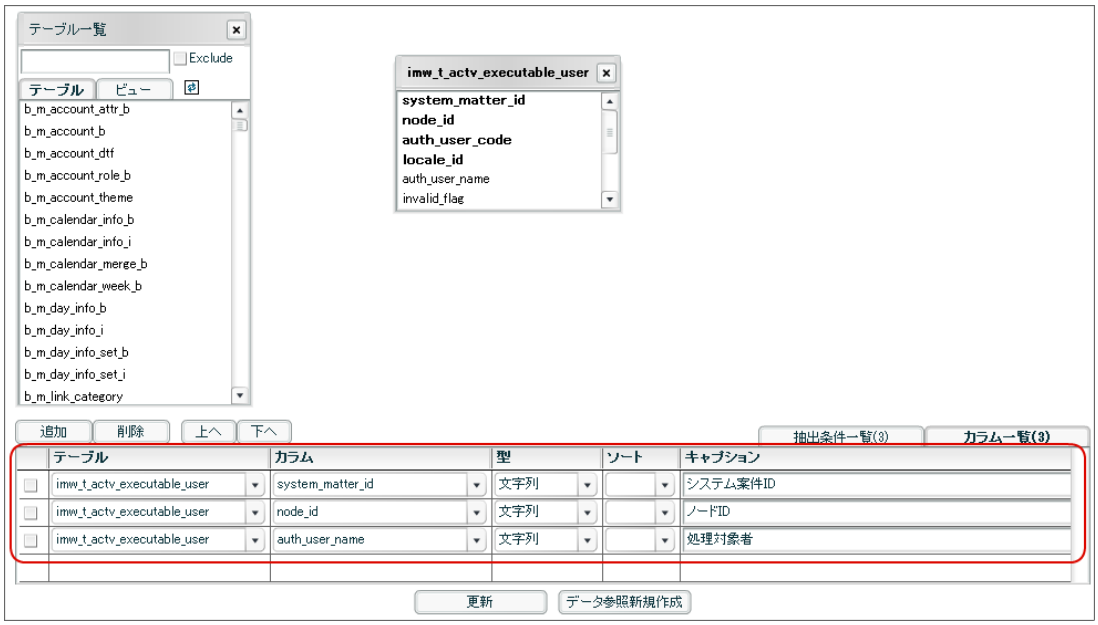


4. 「テーブル一覧」から下記のテーブルを検索し、テーブルをドラッグして右側に配置します。
   - imw_t_actv_executable_user



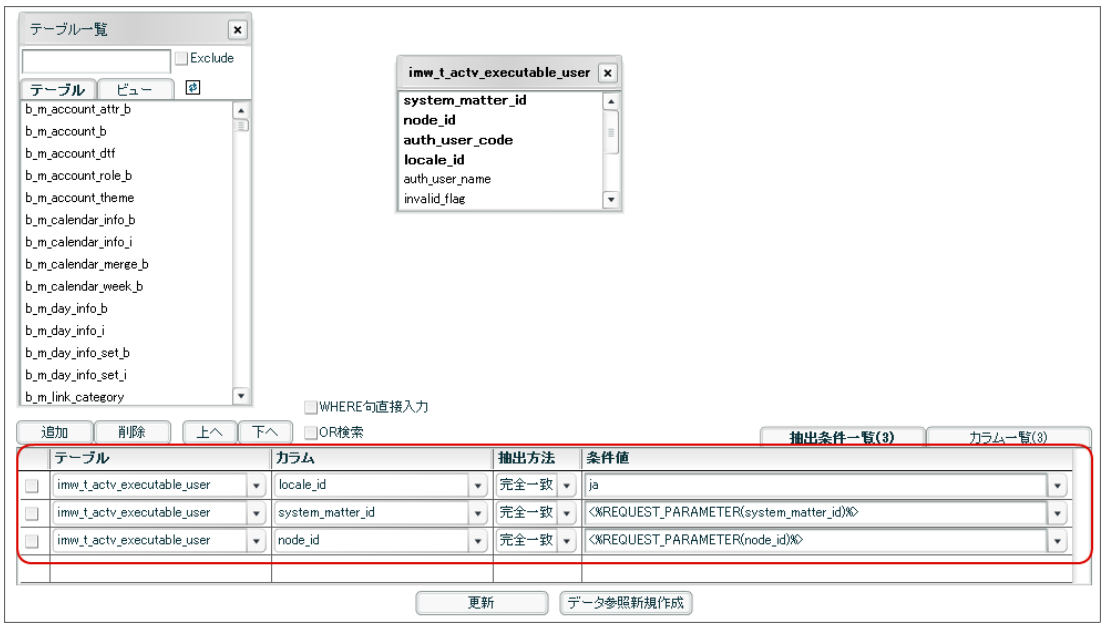
5. 「カラム一覧」に各テーブルから下記のカラムを追加します。
   一覧画面に表示するカラム名を変更したい場合には、キャプションに表示したい名称を設定します。
   - imw_t_actv_executable_user
     - システム案件ID（system_matter_id）
     - ノードID（node_id）

- 処理対象者名（auth_user_name）



6. 「抽出条件一覧」に以下を追加します。

検索カラム	検索条件
ロケールID（locale_id）	ja 日本語を検索
システム案件 ID（system_matter_id）	<%REQUEST_PARAMETER(system_matter_id)%> データ参照画面表示時のリクエストパラメータの値を検索条件に設定
ノードID（node_id）	<%REQUEST_PARAMETER(node_id)%> データ参照画面表示時のリクエストパラメータの値を検索条件に設定



7. 追加が終わったら「登録」をクリックします。

8. 以上で、リンク先画面のベースとなるクエリが作成できました。

リスト集計画面を作成する（リンク先画面）

作成したクエリから「リスト集計」を作成します。
メイン画面にリンク先画面に対するリンクの設定が必要なため、リンク先画面から作成します。
メイン画面からリクエストパラメータを受け取り、対象データを表示できるように設定します。

1. クエリが登録された後に、「登録」（更新）の右の「データ参照新規作成」をクリックします。

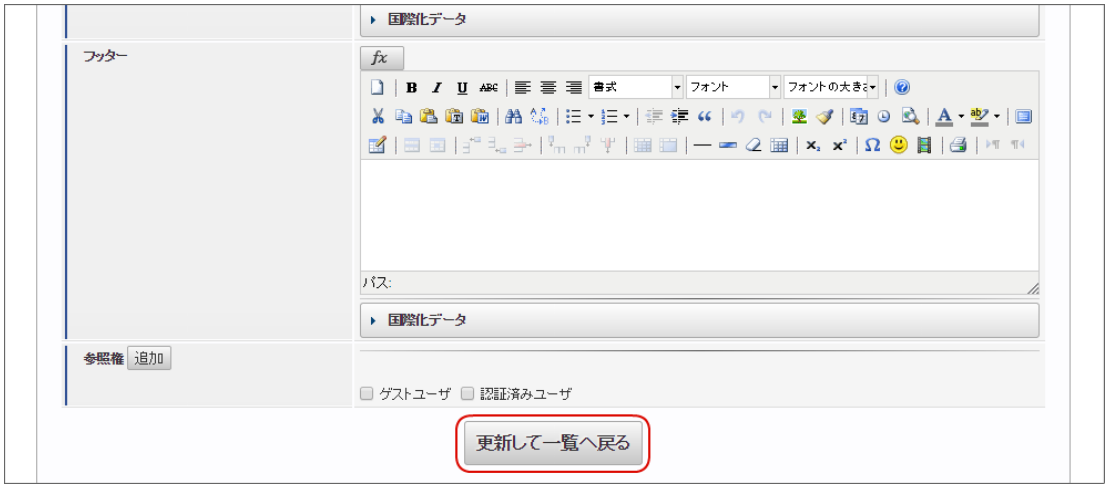
2. データ参照名などの情報を入力します。

3. 一覧に表示する項目を設定するために、表示したい項目の表示のチェックボックスをオンにします。
また、数値や日付項目のフォーマットを「フォーマット」で設定します。

4. 抽出条件を設定します。
   メイン画面からの遷移するときに、リクエストパラメータとして受け取るように設定します。

対象カラム	条件値
システム案件ID	<%REQUEST_PARAMETER(system_matter_id)%>
ノードID	<%REQUEST_PARAMETER(node_id)%>

5. 「登録して一覧へ戻る」をクリックして、リスト集計画面（データ参照）を保存します。



6. 以上で、リンク先画面の作成が完了しました。

リスト集計画面を作成する（メイン画面）

作成したクエリから「リスト集計」を作成します。
リストに表示する項目から 処理対象者をリンク先画面で表示できるように、リンクを設定します。

1. クエリが登録された後に、「登録」（更新）の右の「データ参照新規作成」をクリックします。

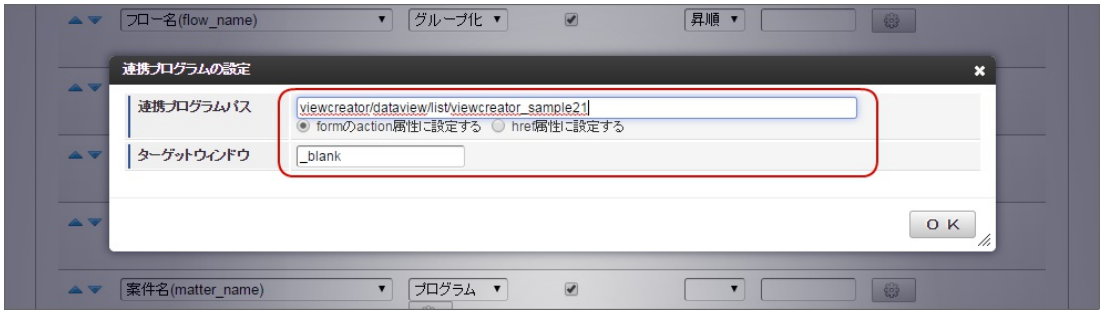
2. データ参照名などの情報を入力します。

3. 一覧に表示する項目を設定するために、表示したい項目の表示のチェックボックスをオンにします。
数値や日付項目のフォーマットを「フォーマット」で設定します。
また、表示データのソート順を「ソート順」で設定します。

4. 案件名のカラム「matter_name」から案件の詳細画面を表示できるように、リンクを設定します。
リンクを設定するために「matter_name」のタイプを「プログラム」に変更します。

5. リンク先として、 IM-Workflow の詳細画面を呼び出すためのパスを設定します。

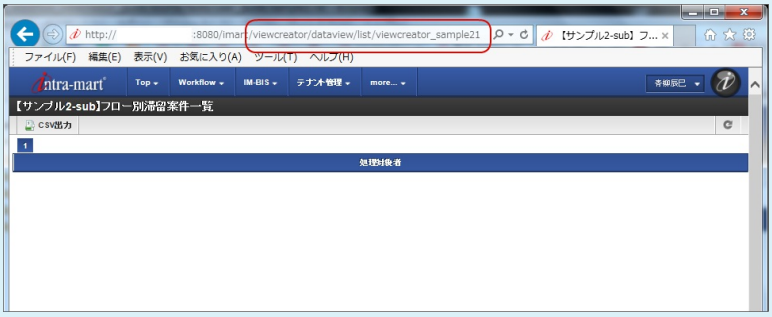
「 」をクリックし、連携プログラムパスにリンクする リンク先画面のパスを入力し、「OK」をクリックします。



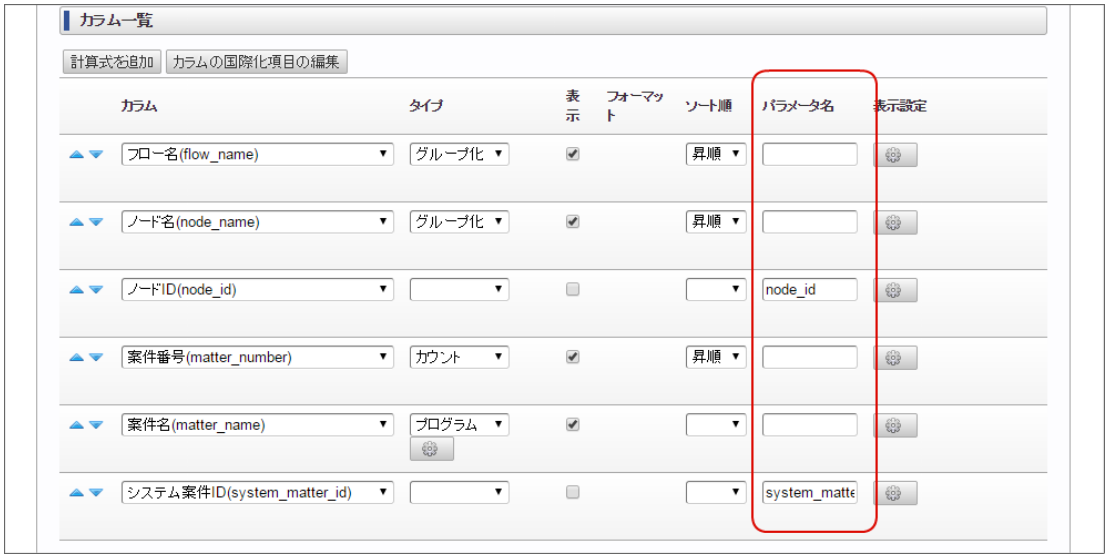
設定する画面	連携プログラムパス
詳細画面	viewcreator/dataview/list/viewcreator_sample21

コラム

リンク先画面のパスは、「ViewCreator」-「データ参照一覧」にてリンク先に設定したいデータ参照を開き、上部のURLを確認してください。

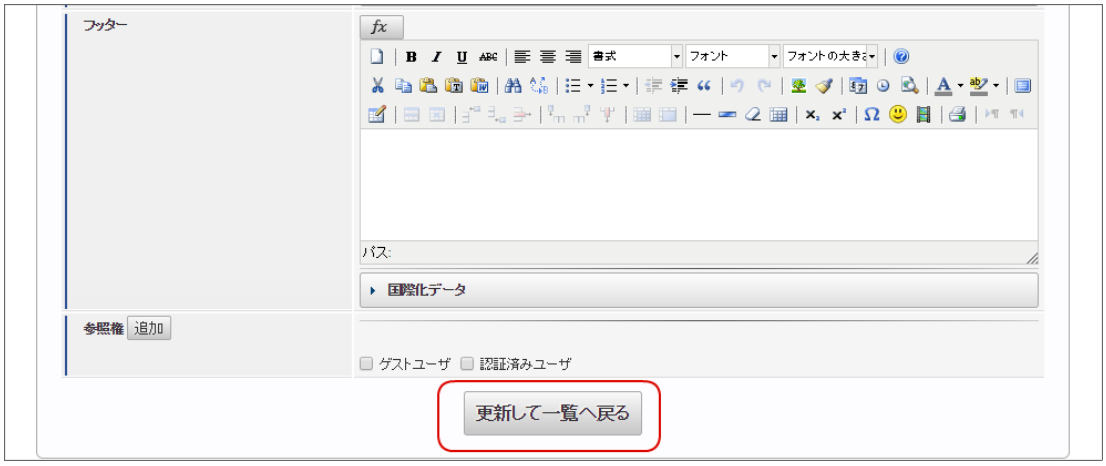


1. リクエストパラメータとして、連携先のプログラムへ渡すパラメータを設定します。
パラメータ名を以下の通りに設定します。



カラム	設定値
ノードID（node_id）	node_id
システム案件ID（system_matter_id）	system_matter_id

2. 「登録して一覧へ戻る」をクリックして、リスト集計画面（データ参照）を保存します。



3. 以上で、メイン画面の作成が完了しました。

> **コラム**
>
> 作成した画面の参照権限の設定方法は、「ViewCreator 管理者操作ガイド - 参照権の設定」を参照ください。

サンプル3 ユーザ別の滞留案件の一覧を作成する

ユーザ別に、滞留案件の一覧を作成します。

- このサンプルについて
- このサンプルで参照するテーブルの情報
- クエリを作成する
- リスト集計画面を作成する

このサンプルについて

このサンプルでは、特定のユーザに対し、処理待ちとなっている案件の一覧を確認できます。

このサンプルで参照するテーブルの情報

このサンプルで利用するテーブルの情報を説明します。

- 未完了案件タスク処理対象者テーブル（imw_t_actv_executable_user）
  処理対象者情報を格納するテーブルです。
  未完了案件未完了タスクテーブルで処理待ちとなっているタスクに対する処理対象者情報が格納されます。

カラム	説明
システム案件ID（system_matter_id）	ワークフロー側が案件を一意に特定するためのIDです。
ノードID（node_id）	ノードを一意に特定するためのIDです。
ロケールID（locale_id）	ロケールを一意に特定するためのID です。
権限者名（auth_user_name）	処理対象者名です。

- 未完了案件テーブル（imw_t_actv_matter）
  未完了案件情報を格納するテーブルです。
  案件毎に1レコード作成されます。
  作成されたレコードは、案件が完了すると削除され、完了案件テーブル（imw_t_cpl_matter）に対応するレコードが作成されます。

カラム	説明
システム案件ID（system_matter_id）	ワークフロー側が案件を一意に特定するためのIDです。
フローID（flow_id）	フロー定義を一意に特定するためのIDです。
ユーザデータID（insert_id）	ユーザコンテンツ側が案件を一意に特定するためのID です。 アプリケーションのテーブルのユーザデータIDと結合するカラムとなります。
案件番号（matter_number）	画面、帳票でユーザが案件を識別するためのIDです。
申請基準日（apply_base_date）	ワークフローが処理を行う際の基準日です。

- 未完了案件未完了タスクテーブル（imw_t_actv_task）
  次に処理するワークフローのタスクが格納されるテーブルです。
  処理待ちとなっているノードのタスクの情報が登録されます。

IM-Workflow の処理は、差戻後の承認のように、同一ノードに対して複数回処理することができます。
タスクテーブルには、ノード上で行われた処理がタスクとして登録されます。

カラム	説明
システム案件ID（system_matter_id）	ワークフロー側が案件を一意に特定するためのIDです。
ノードID（node_id）	ノードを一意に特定するためのIDです。
開始日（start_date）	タスクが登録された日時です。

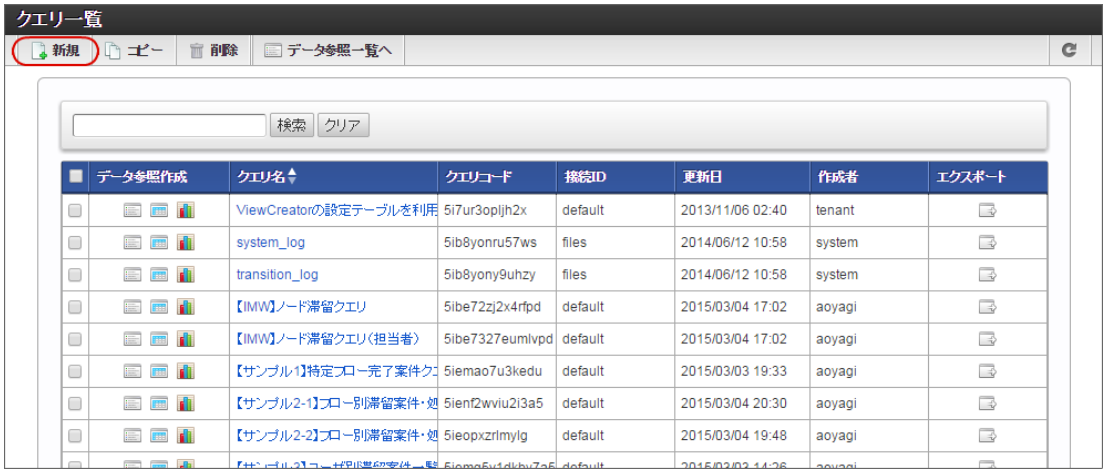
コラム

テーブル定義情報の詳細は、「 IM-Workflow テーブル定義書 」を参照ください。

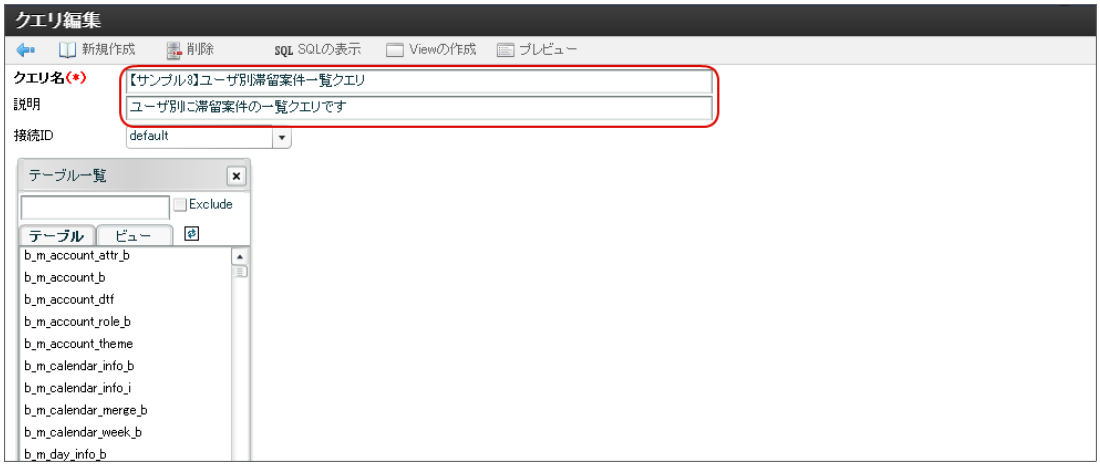
クエリを作成する

IM-Workflow の未完了案件に対するクエリを作成します。

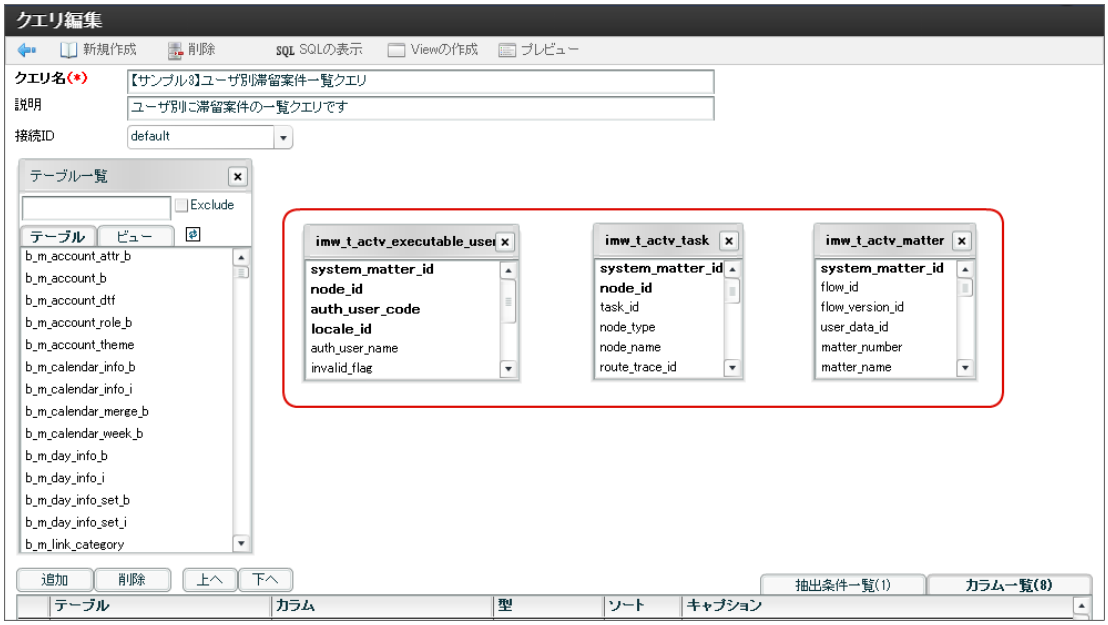
1. サイトマップ→「ViewCreator」→「クエリ一覧」をクリックします。
2. 「クエリ一覧」で「新規」をクリックします。



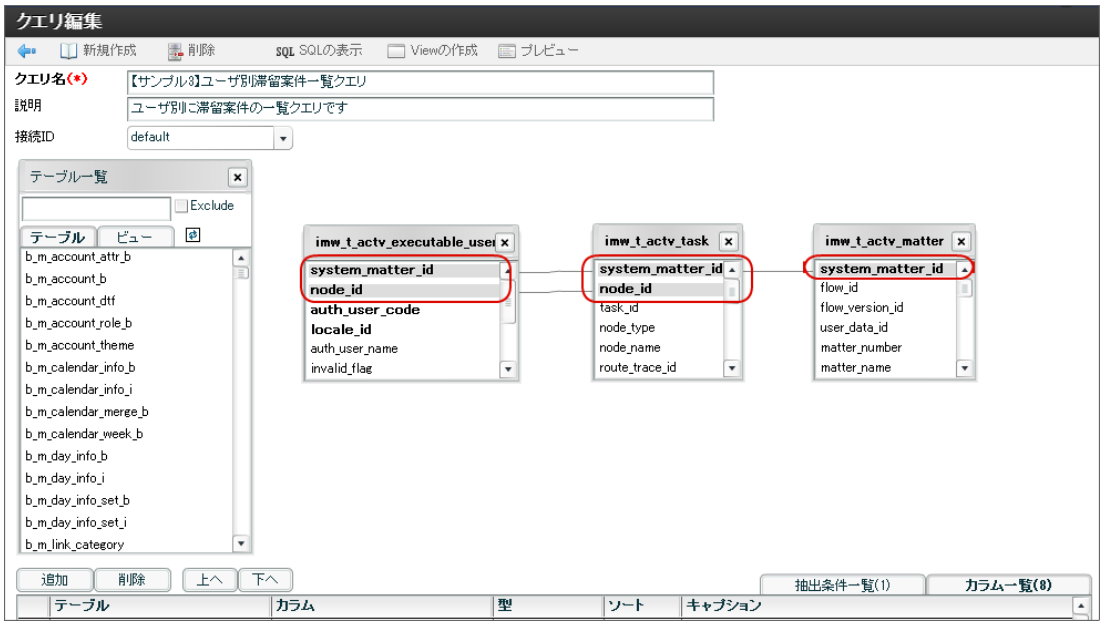
3. 「クエリ名」、「説明」を入力します。



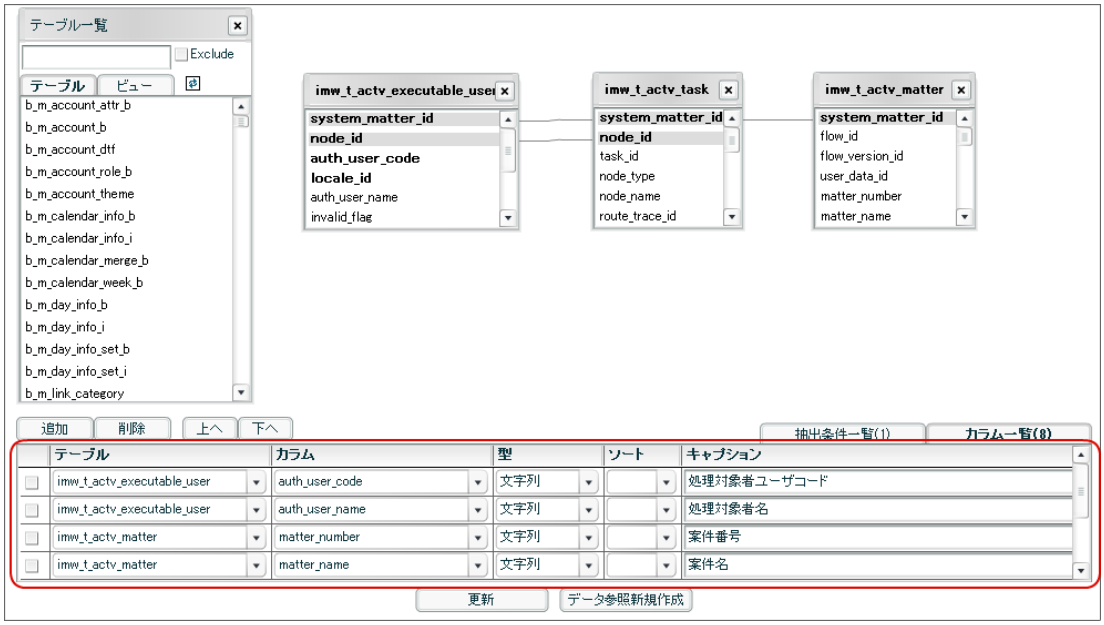
4. 「テーブル一覧」から下記のテーブルを検索し、テーブルをドラッグして右側に配置します。
   - imw_t_actv_executable_user
   - imw_t_actv_task
   - imw_t_actv_matter



5. 配置したテーブルを下記の通りに結合します。
   - imw_t_actv_executable_user、imw_t_actv_task
     - システム案件ID（system_matter_id）
     - ノードID（node_id）
   - imw_t_actv_task、imw_t_actv_matter
     - システム案件ID（system_matter_id）

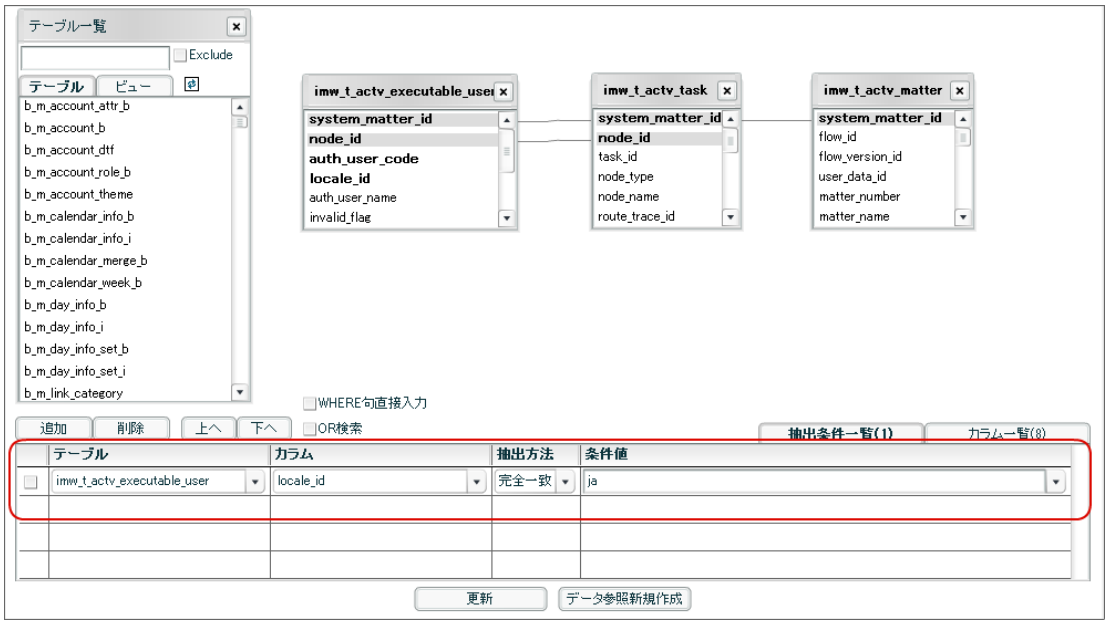


6. 「カラム一覧」に各テーブルから下記のカラムを追加します。
   一覧画面に表示するカラム名を変更したい場合には、キャプションに表示したい名称を設定します。
   - imw_t_actv_executable_user
     - 処理対象者ユーザコード（auth_user_code）
     - 処理対象者ユーザ名（auth_user_name）
   - imw_t_actv_task
     - ノード名（node_name）
   - imw_t_actv_matter
     - 案件番号（matter_number）
     - 案件名（matter_name）

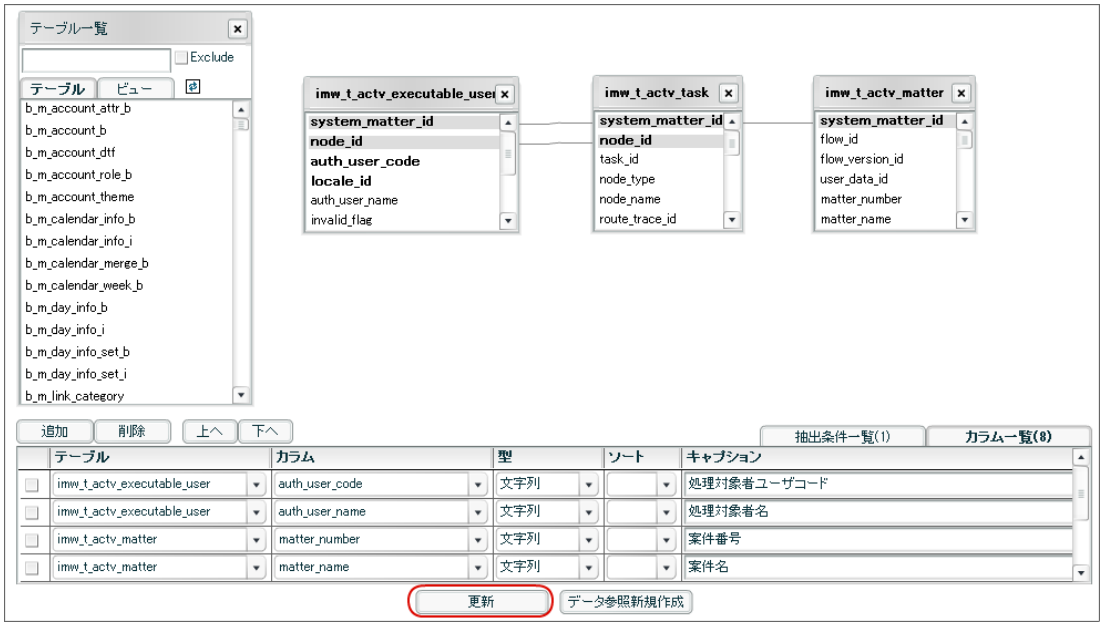


7. 「抽出条件一覧」に以下を追加します。

検索カラム	検索条件
ロケールID（locale_id）	ja 日本語を検索



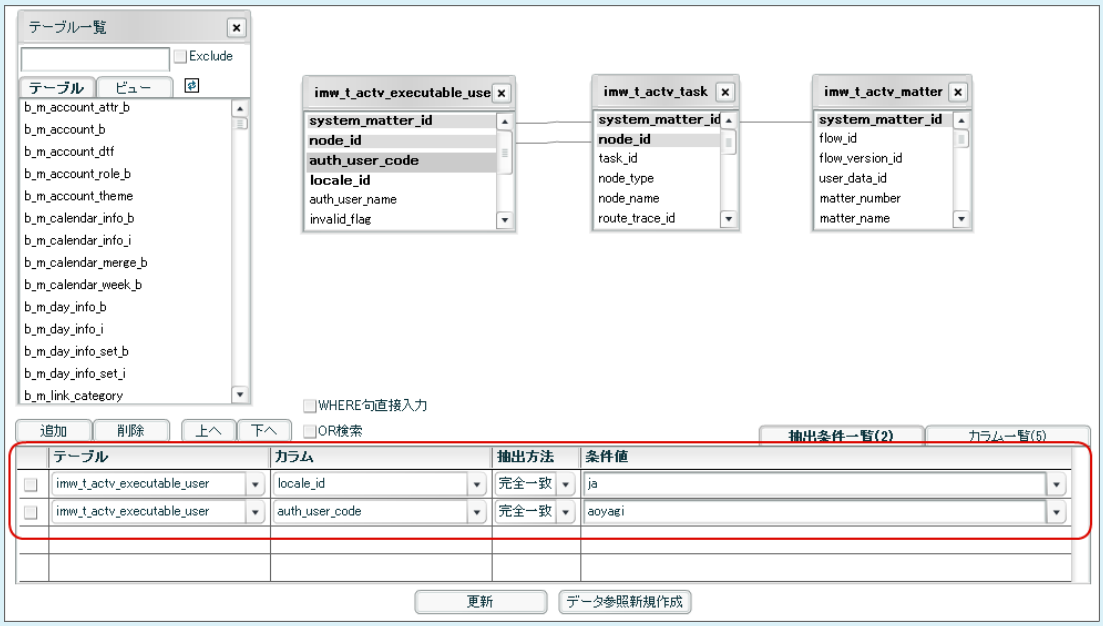
8. 追加が終わったら「登録」をクリックします。



9. 以上で、リスト集計のベースとなるクエリが作成できました。

コラム

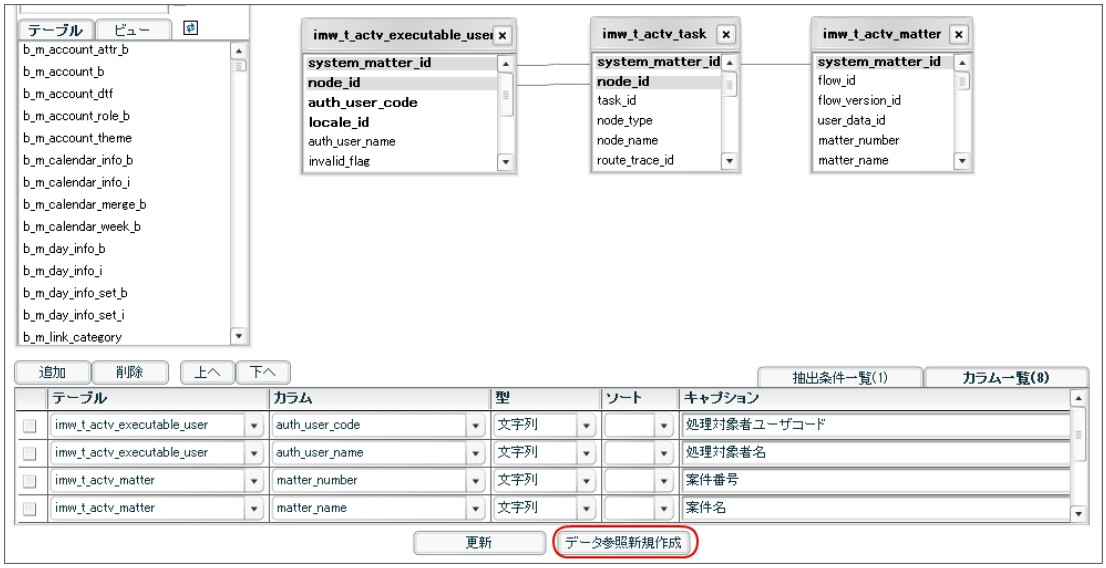
案件数が多くリスト集計の表示に時間がかかる場合は、抽出条件を設定することで改善することができます。
「抽出条件一覧」で処理対象者名を条件に追加すると、リストに表示する案件のデータ数を制限することができます。



リスト集計画面を作成する

作成したクエリから「リスト集計」を作成します。

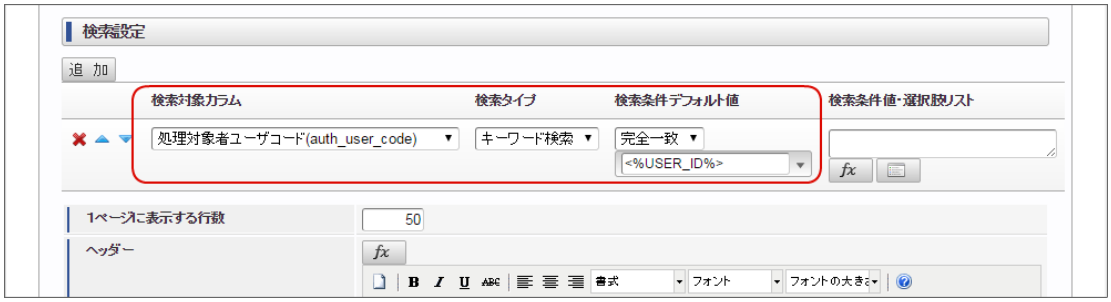
1. クエリが登録された後に、「登録」（更新）の右の「データ参照新規作成」をクリックします。



2. データ参照名などの情報を入力します。

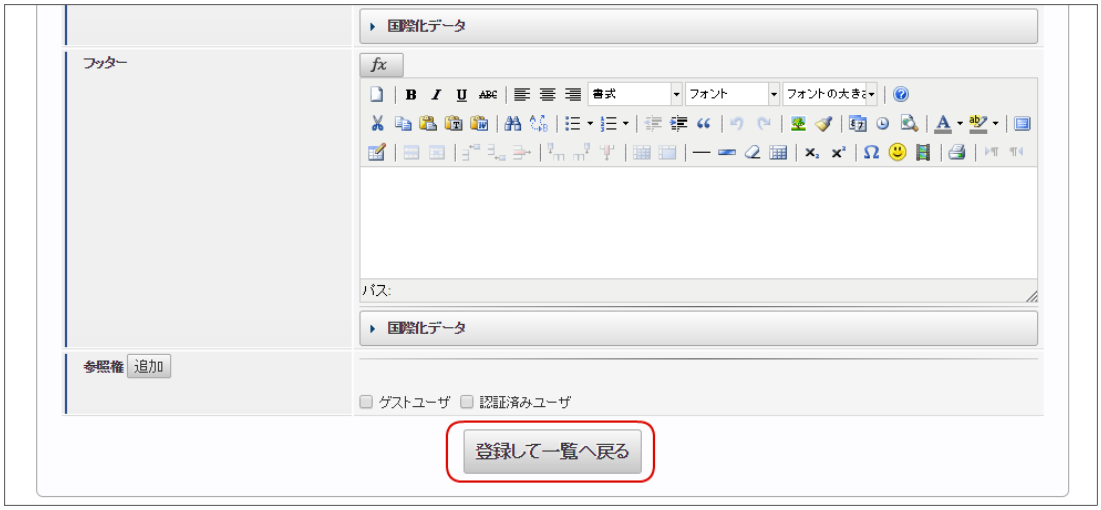
3. 一覧に表示する項目を設定するために、表示したい項目の表示のチェックボックスをオンにします。
数値や日付項目のフォーマットを「フォーマット」で設定します。
また、表示データのソート順を「ソート順」で設定します。

4. ユーザを検索できるように「検索設定」を以下のように設定します。



> **コラム**
>
> 「検索設定」を設定しない場合、リスト集計の表示に時間がかかる可能性があります。
> リスト集計の表示に時間がかかる場合は、「検索設定」の設定をするようにお願いします。

1. 「登録して一覧へ戻る」をクリックして、リスト集計画面（データ参照）を保存します。



2. 以上で、リスト集計画面の作成が完了しました。

> **コラム**
>
> 作成した画面の参照権限の設定方法は、「 ViewCreator 管理者操作ガイド - 参照権の設定 」を参照ください。

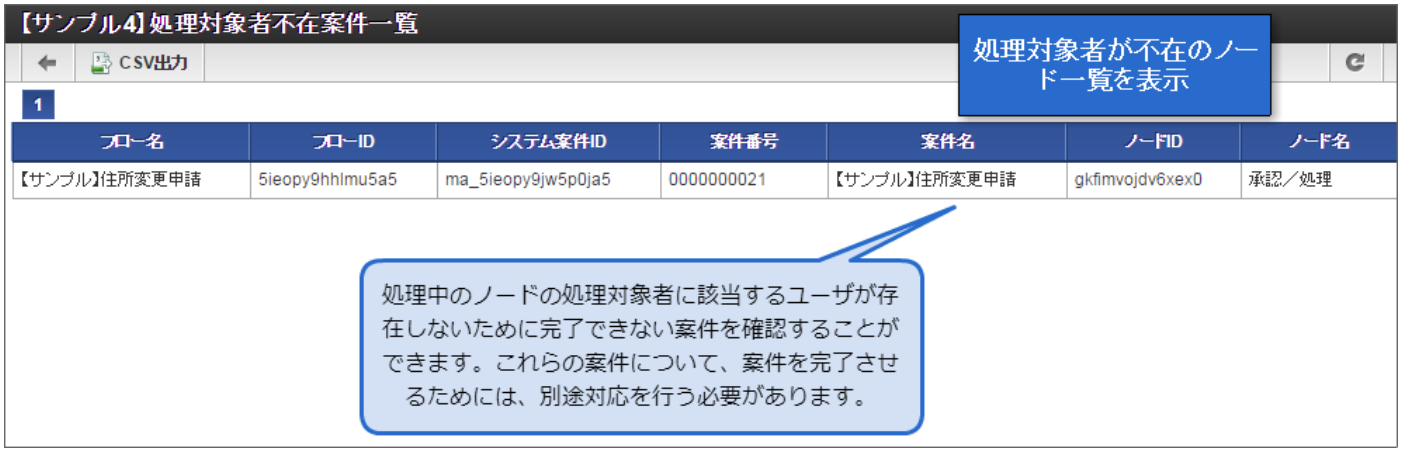
サンプル4 処理対象者が不在の案件一覧を作成する

処理対象者が不在の案件の一覧を作成します。

- このサンプルについて
- このサンプルで参照するテーブルの情報
- クエリを作成する
- リスト集計画面を作成する

このサンプルについて

このサンプルでは、処理対象者が不在で、案件を完了できなくなった案件の一覧を確認できます。



このサンプルで参照するテーブルの情報

このサンプルで利用するテーブルの情報を説明します。

- 未完了案件タスク処理対象者テーブル（imw_t_actv_executable_user）
  処理対象者情報を格納するテーブルです。
  未完了案件未完了タスクテーブルで処理待ちとなっているタスクに対する処理対象者情報が格納されます。

カラム	説明
システム案件ID（system_matter_id）	ワークフロー側が案件を一意に特定するためのIDです。
ノードID（node_id）	ノードを一意に特定するためのIDです。
ロケールID（locale_id）	ロケールを一意に特定するためのID です。
権限者名（auth_user_name）	処理対象者名です。

- 未完了案件テーブル（imw_t_actv_matter）
  未完了案件情報を格納するテーブルです。
  案件毎に1レコード作成されます。
  作成されたレコードは、案件が完了すると削除され、完了案件テーブル（imw_t_cpl_matter）に対応するレコードが作成されます。

カラム	説明
システム案件ID（system_matter_id）	ワークフロー側が案件を一意に特定するためのIDです。
フローID（flow_id）	フロー定義を一意に特定するためのIDです。
ユーザデータID（insert_id）	ユーザコンテンツ側が案件を一意に特定するためのID です。 アプリケーションのテーブルのユーザデータIDと結合するカラムとなります。
案件番号（matter_number）	画面、帳票でユーザが案件を識別するためのIDです。
申請基準日（apply_base_date）	ワークフローが処理を行う際の基準日です。

- 未完了案件未完了タスクテーブル（imw_t_actv_task）
  次に処理するワークフローのタスクが格納されるテーブルです。
  処理待ちとなっているノードのタスクの情報が登録されます。
  IM-Workflow の処理は、差戻後の承認のように、同一ノードに対して複数回処理することができます。
  タスクテーブルには、ノード上で行われた処理がタスクとして登録されます。

カラム	説明
システム案件ID（system_matter_id）	ワークフロー側が案件を一意に特定するためのIDです。
ノードID（node_id）	ノードを一意に特定するためのIDです。
開始日（start_date）	タスクが登録された日時です。

- 未完了案件案件ロケールテーブル（imw_t_actv_matter_locale）
  ロケール毎に保持する情報を格納するテーブルです。
  申請時点でロケール毎に1レコード作成されます。
  フロー名を取得するために利用します。

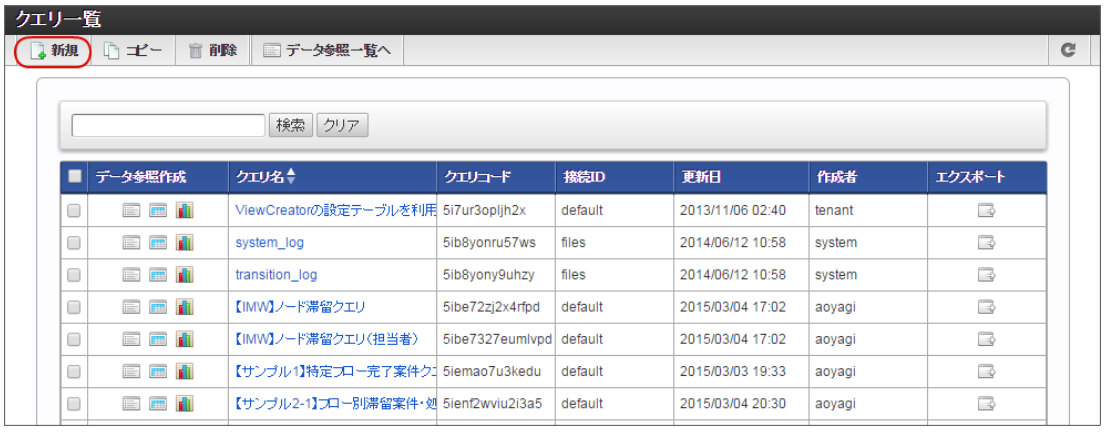
カラム	説明
システム案件ID（system_matter_id）	ワークフロー側が案件を一意に特定するためのIDです。
ロケールID（locale_id）	ロケールを一意に特定するためのID です。
フロー名（flow_name）	フロー名です。

> コラム
>
> テーブル定義情報の詳細は、「 IM-Workflow テーブル定義書 」を参照ください。

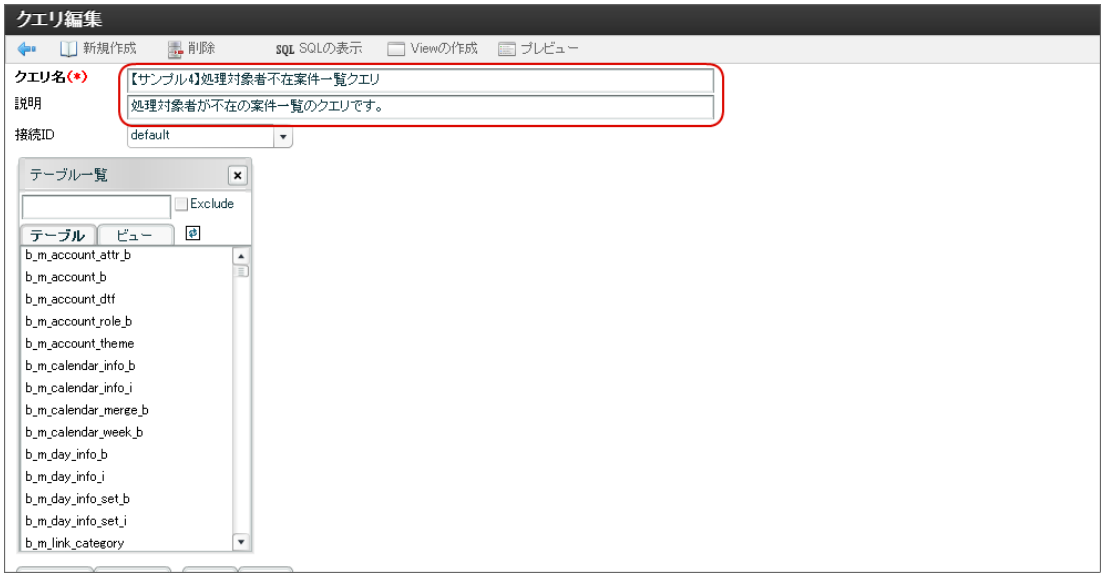
クエリを作成する

IM-Workflow の未完了案件に対するクエリを作成します。

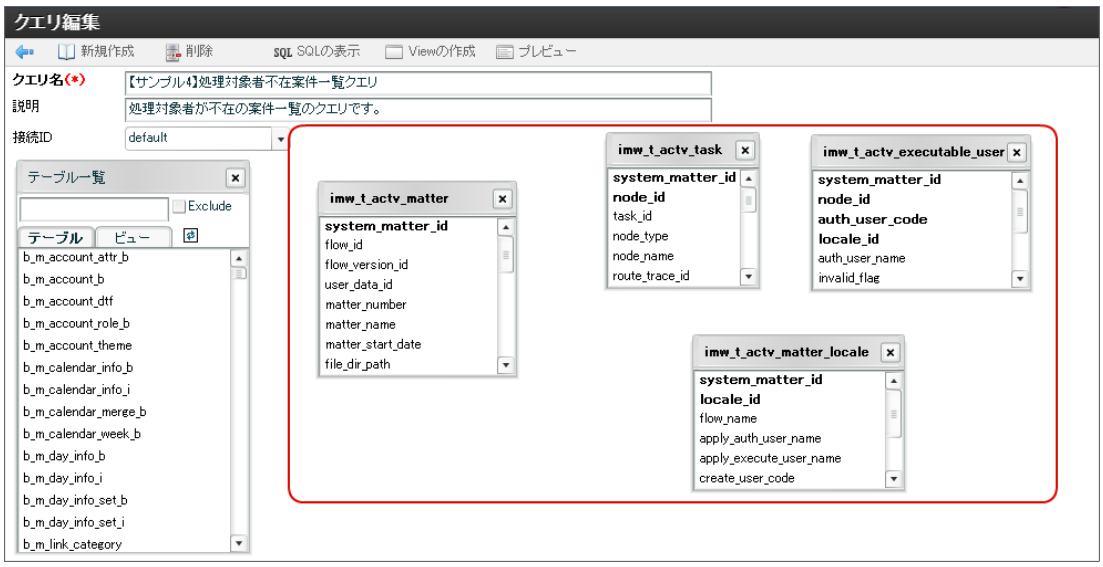
1. サイトマップ→「ViewCreator」→「クエリ一覧」をクリックします。
2. 「クエリ一覧」で「新規」をクリックします。



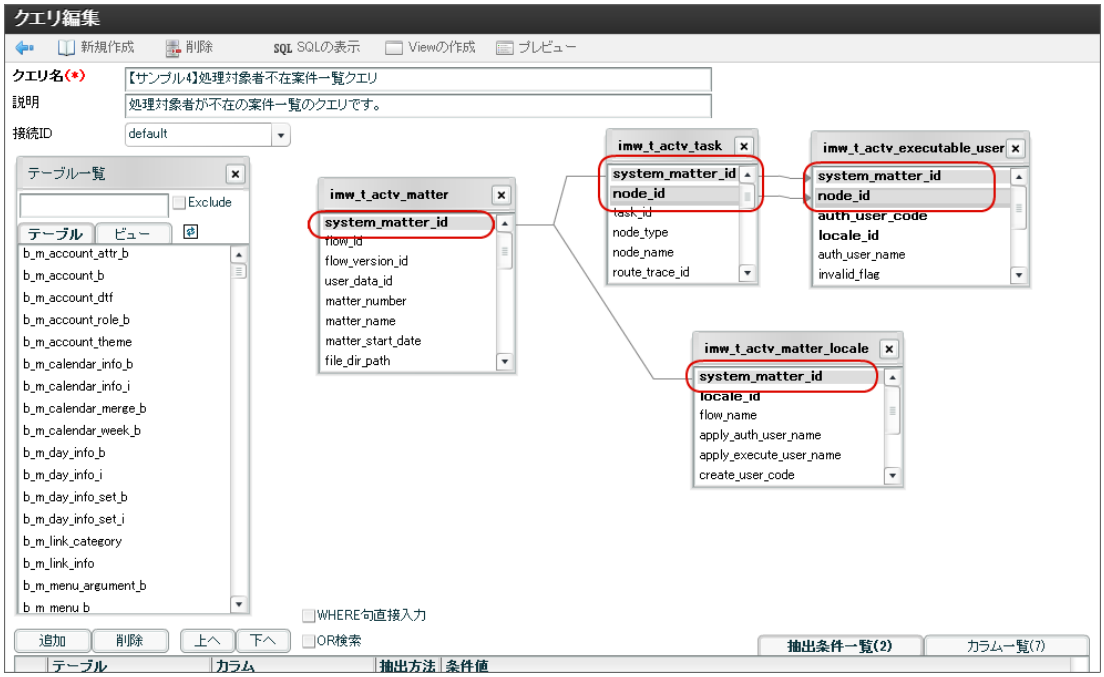
3. 「クエリ名」、「説明」を入力します。



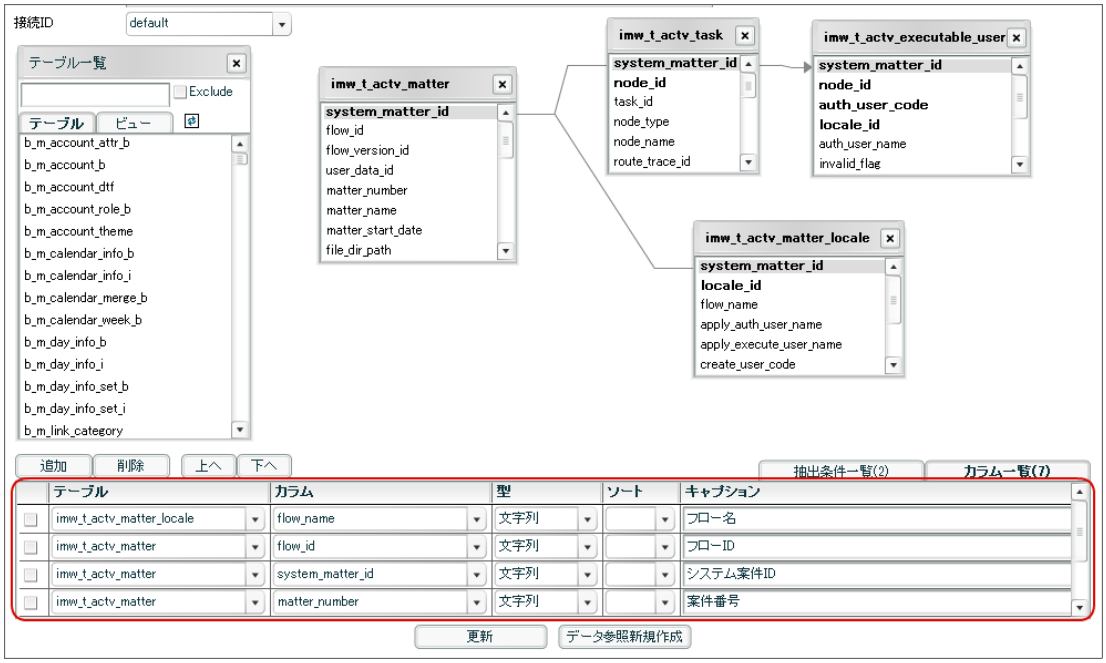
4. 「テーブル一覧」から下記のテーブルを検索し、テーブルをドラッグして右側に配置します。
   - imw_t_actv_executable_user
   - imw_t_actv_task
   - imw_t_actv_matter
   - imw_t_actv_matter_locale



5. 配置したテーブルを下記の通りに結合します。
   - imw_t_actv_matter、imw_t_actv_task
     - システム案件ID（system_matter_id）
   - imw_t_actv_executable_user、imw_t_actv_task
     （左結合で結合）
     - システム案件ID（system_matter_id）
     - ノードID（node_id）
   - imw_t_actv_matter、imw_t_actv_matter_locale
     - システム案件ID（system_matter_id）



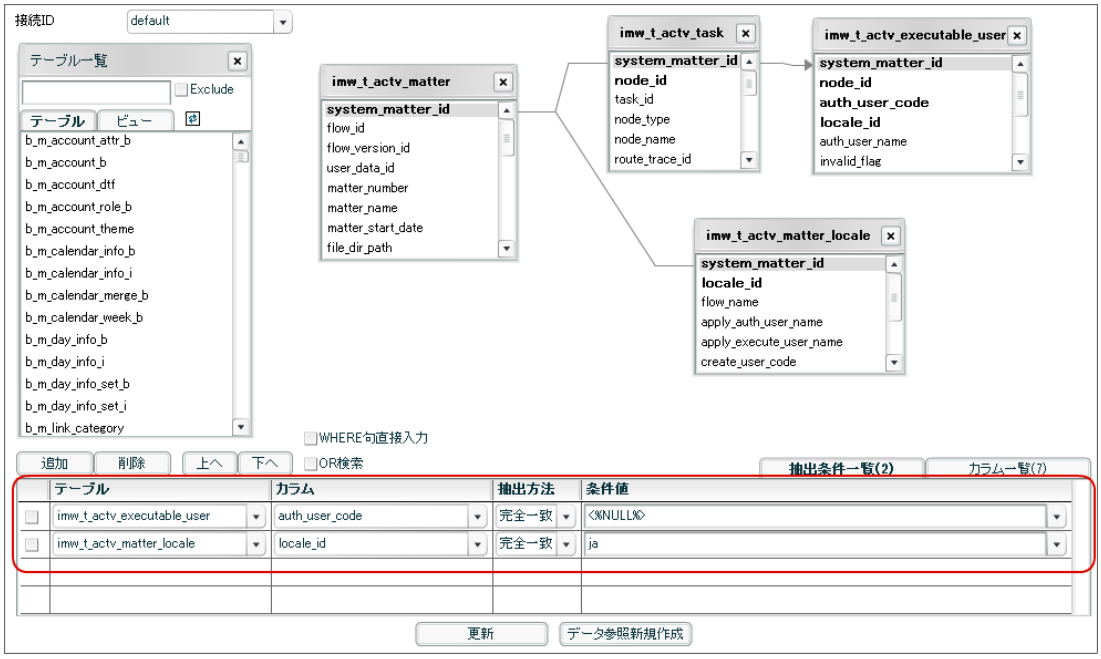
6. 「カラム一覧」に各テーブルから下記のカラムを追加します。
一覧画面に表示するカラム名を変更したい場合には、キャプションに表示したい名称を設定します。
   - imw_t_actv_matter_locale
     - フロー名（flow_name）
   - imw_t_actv_task
     - ノード名（node_name）
     - ノードID（node_id）
   - imw_t_actv_matter
     - システム案件ID（system_matter_id）
     - フローID（flow_id）
     - 案件番号（matter_number）
     - 案件名（matter_name）



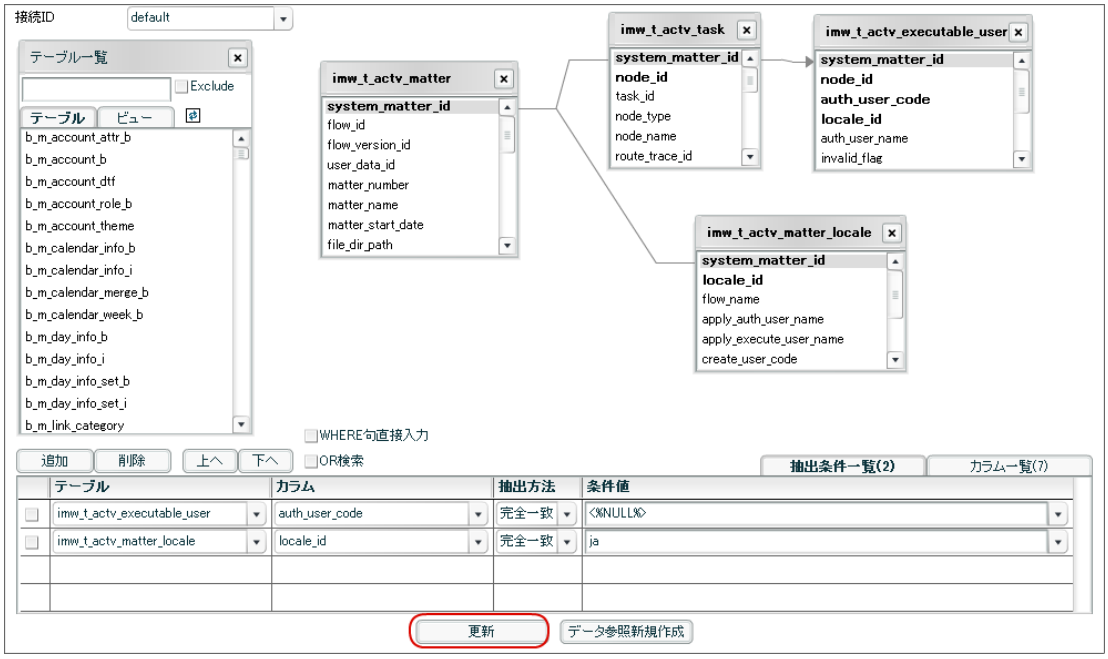
7. 「抽出条件一覧」に以下を追加します。

検索カラム	検索条件
ロケールID（locale_id）	ja 日本語を検索

検索カラム	検索条件
処理対象者コード （auth_user_code）	<%NULL%> 処理対象者が不在の場合はレコード無



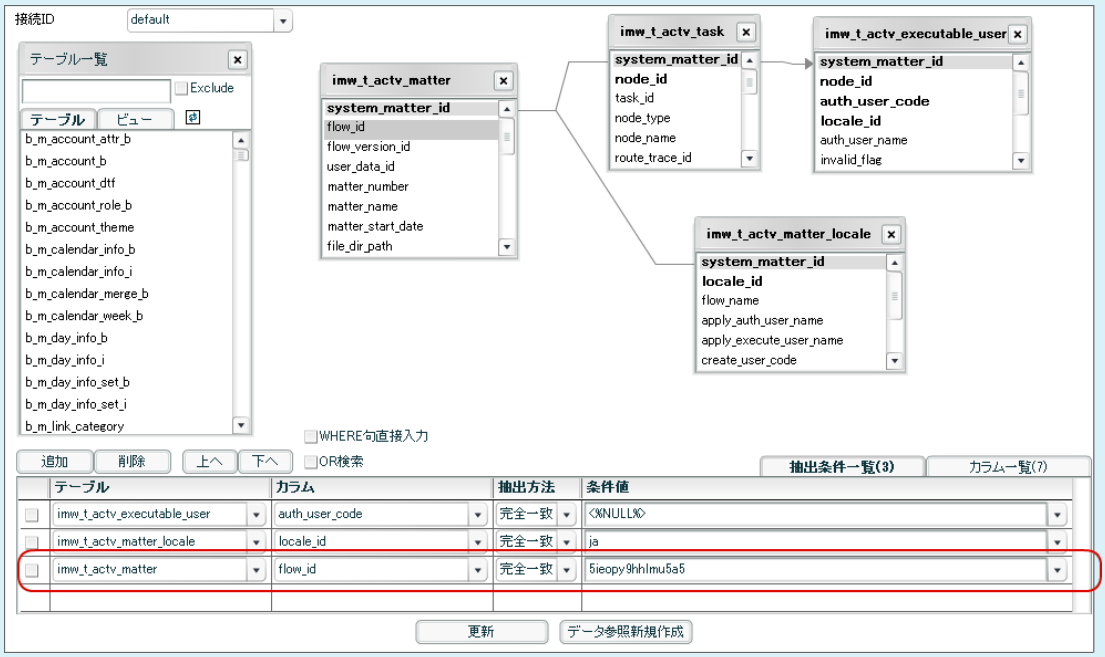
8. 追加が終わったら「登録」をクリックします。



9. 以上で、リスト集計のベースとなるクエリが作成できました。

コラム

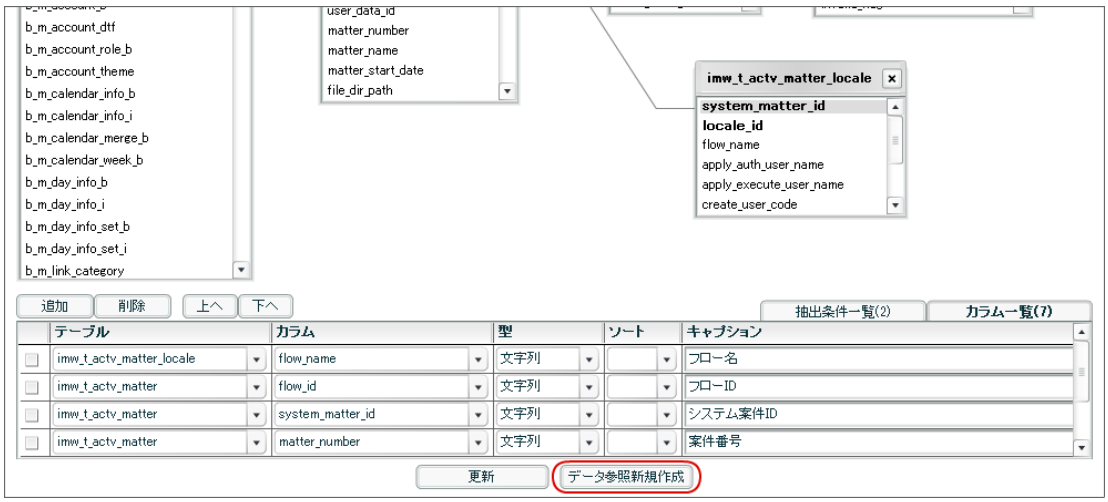
案件数が多くリスト集計の表示に時間がかかる場合は、抽出条件を設定することで改善することができます。
「抽出条件一覧」でフローIDを条件に追加すると、リストに表示する案件のデータ数を制限することができます。
また、フローIDを条件に追加して改善しない場合、該当カラムにインデックスの設定を検討してください。



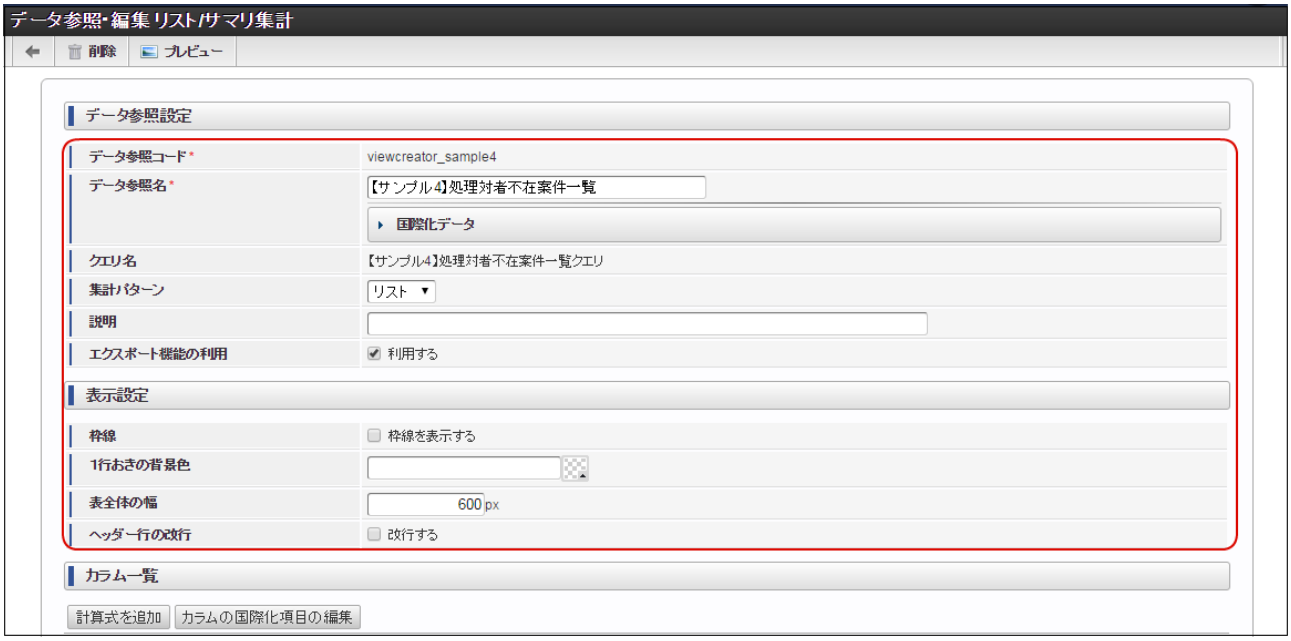
リスト集計画面を作成する

作成したクエリから「リスト集計」を作成します。

1. クエリが登録された後に、「登録」（更新）の右の「データ参照新規作成」をクリックします。

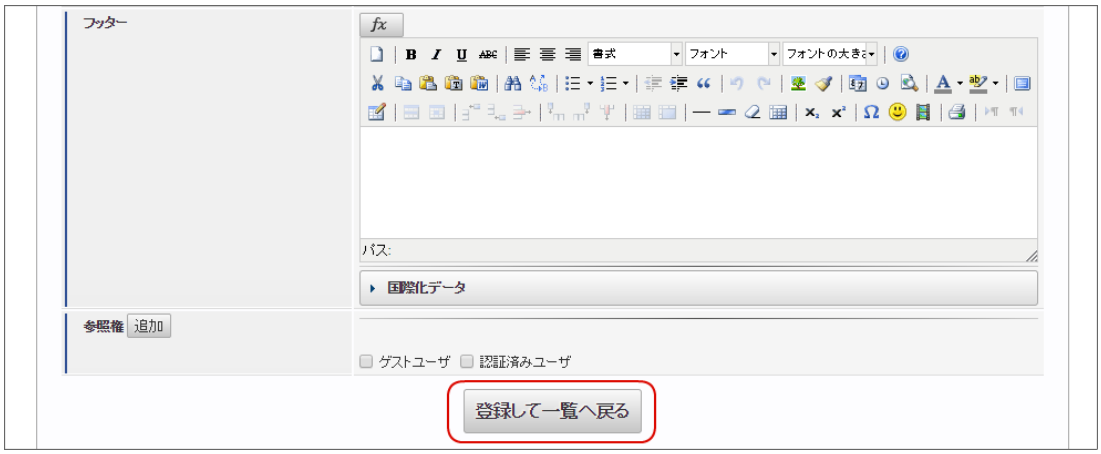


2. データ参照名などの情報を入力します。



3. 一覧に表示する項目を設定するために、表示したい項目の表示のチェックボックスをオンにします。
数値や日付項目のフォーマットを「フォーマット」で設定します。
また、表示データのソート順を「ソート順」で設定します。

4. 「登録して一覧へ戻る」をクリックして、リスト集計画面（データ参照）を保存します。



5. 以上で、リスト集計画面の作成が完了しました。

コラム

作成した画面の参照権限の設定方法は、「ViewCreator 管理者操作ガイド - 参照権の設定」を参照ください。

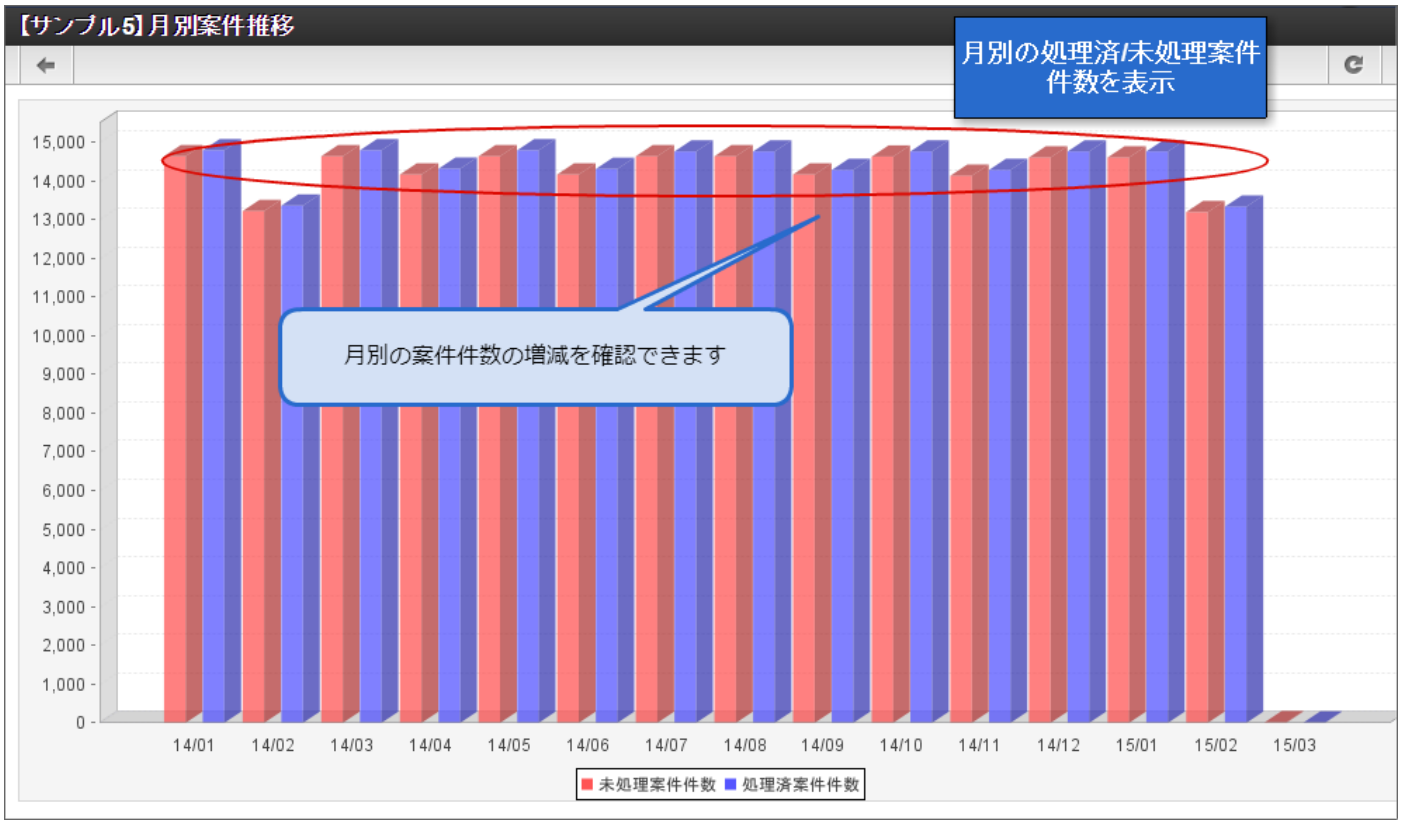
サンプル5 月別の案件推移グラフを作成する

月別の案件推移グラフを作成します。

- このサンプルについて
- このサンプルで参照するテーブルの情報
- クエリを作成する
- グラフ集計画面を作成する

このサンプルについて

このサンプルでは、月別の案件処理件数の推移を確認できます。
対象は全フローの完了、未完了案件となります。



このサンプルで参照するテーブルの情報

このサンプルで利用するテーブルの情報を説明します。

- 未完了案件テーブル（imw_t_actv_matter）
  未完了案件情報を格納するテーブルです。
  案件毎に1レコード作成されます。
  作成されたレコードは、案件が完了すると削除され、完了案件テーブル（imw_t_cpl_matter）に対応するレコードが作成されます。

カラム	説明
システム案件ID（system_matter_id）	ワークフロー側が案件を一意に特定するためのIDです。
フローID（flow_id）	フロー定義を一意に特定するためのIDです。

カラム	説明
ユーザデータID（insert_id）	ユーザコンテンツ側が案件を一意に特定するためのID です。 アプリケーションのテーブルのユーザデータIDと結合するカラムとなります。
案件番号（matter_number）	画面、帳票でユーザが案件を識別するためのIDです。
申請基準日（apply_base_date）	ワークフローが処理を行う際の基準日です。

- 完了案件テーブル（imw_t_cpl_matter）
  完了案件情報を格納するテーブルです。
  案件毎に1レコード作成されます。

カラム	説明
システム案件 ID（system_matter_id）	ワークフロー側が案件を一意に特定するためのIDです。
ユーザデータID（insert_id）	ユーザコンテンツ側が案件を一意に特定するためのID です。 アプリケーションのテーブルのユーザデータIDと結合するカラムとなります。
案件番号（matter_number）	画面、帳票でユーザが案件を識別するためのIDです。
申請基準日（apply_base_date）	ワークフローが処理を行う際の基準日です。

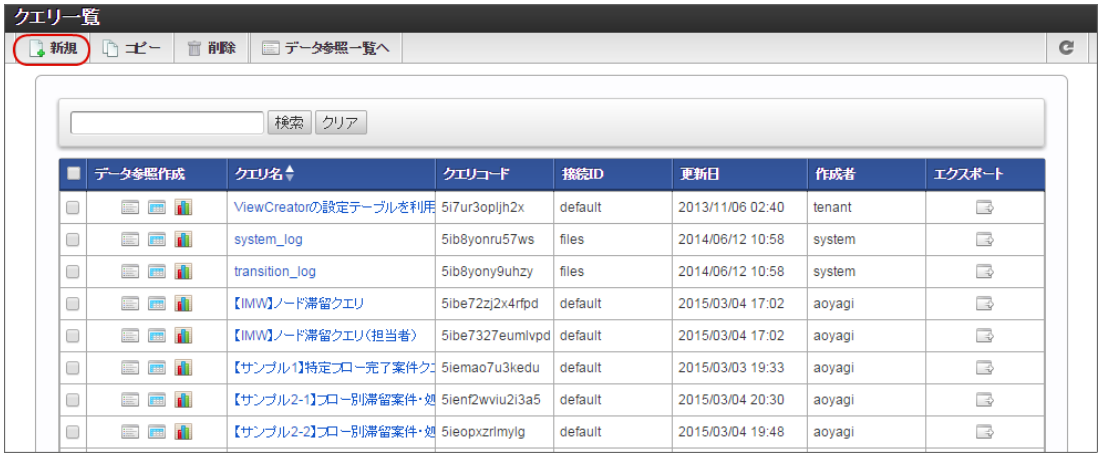
- 月別案件数ビュー（imw_v_matter）
  月別の未処理、処理済案件数を表示するビューです。
  「 *サンプル5 月別案件推移グラフ* 」よりDDLをダウンロードして、ご利用の環境のDBに登録してください。

> **コラム**
>
> テーブル定義情報の詳細は、「 IM-Workflow テーブル定義書 」を参照ください。

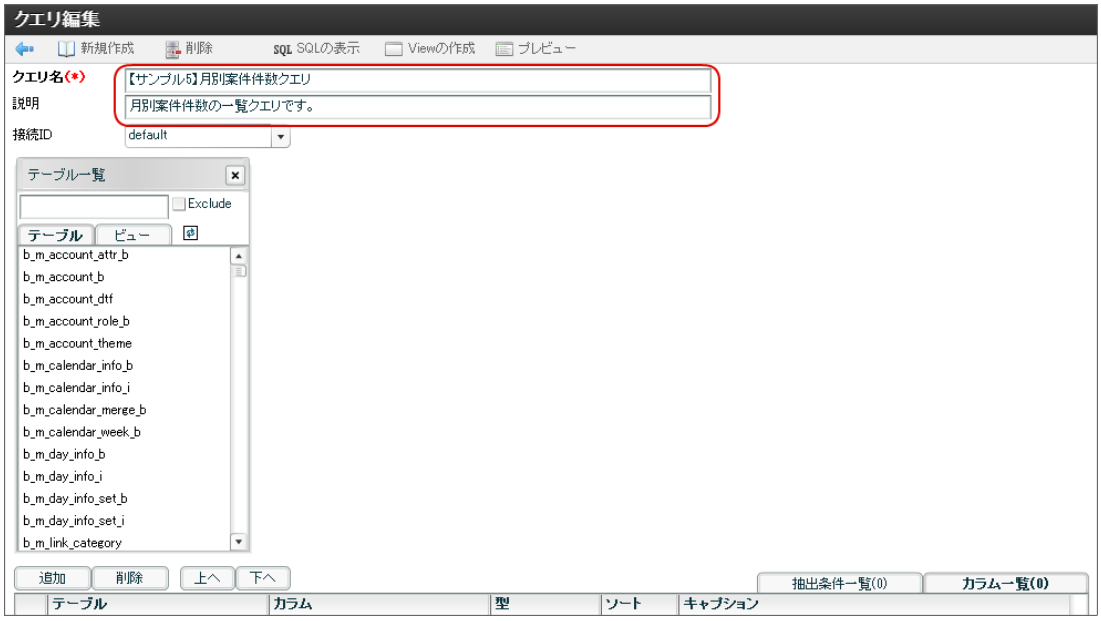
クエリを作成する

IM-Workflow の完了案件、未完了案件に対するクエリを作成します。

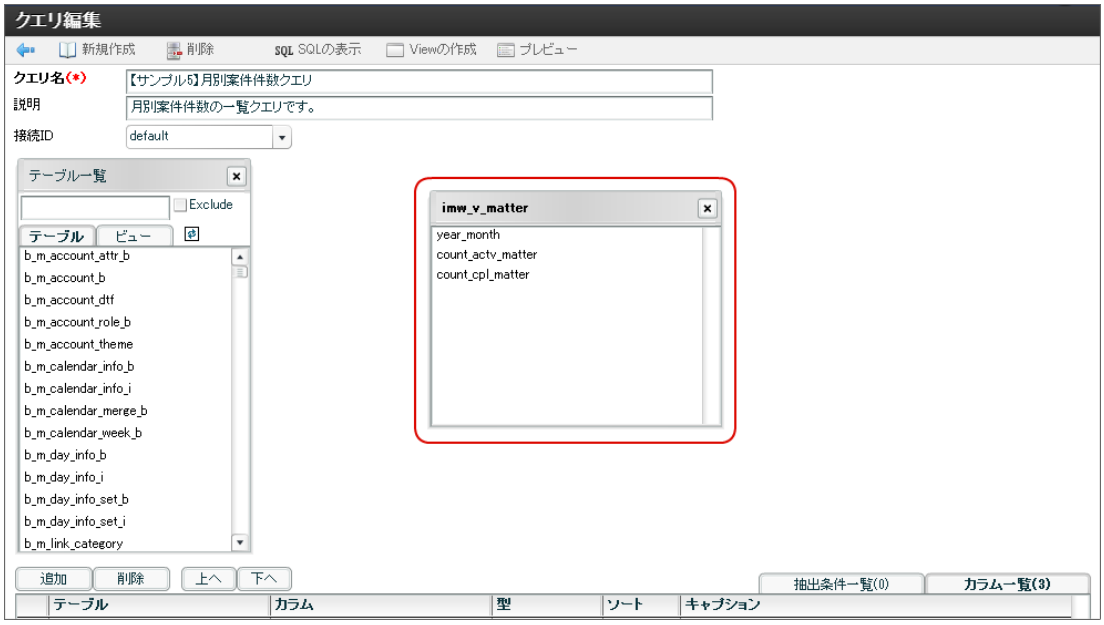
1. サイトマップ→「ViewCreator」→「クエリ一覧」をクリックします。
2. 「クエリ一覧」で「新規」をクリックします。



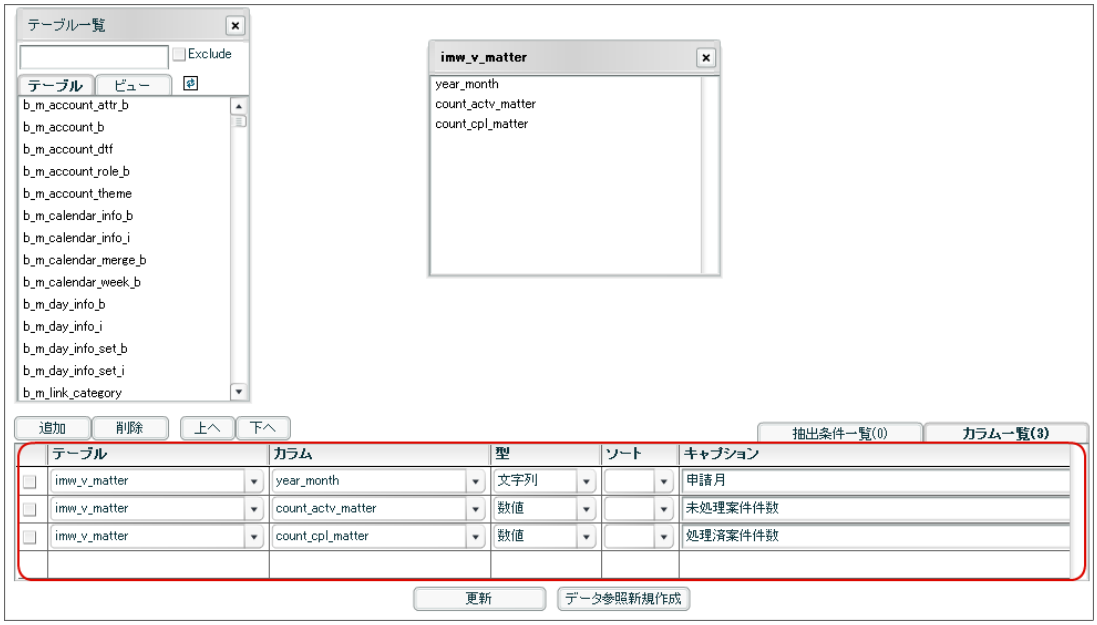
3. 「クエリ名」、「説明」を入力します。



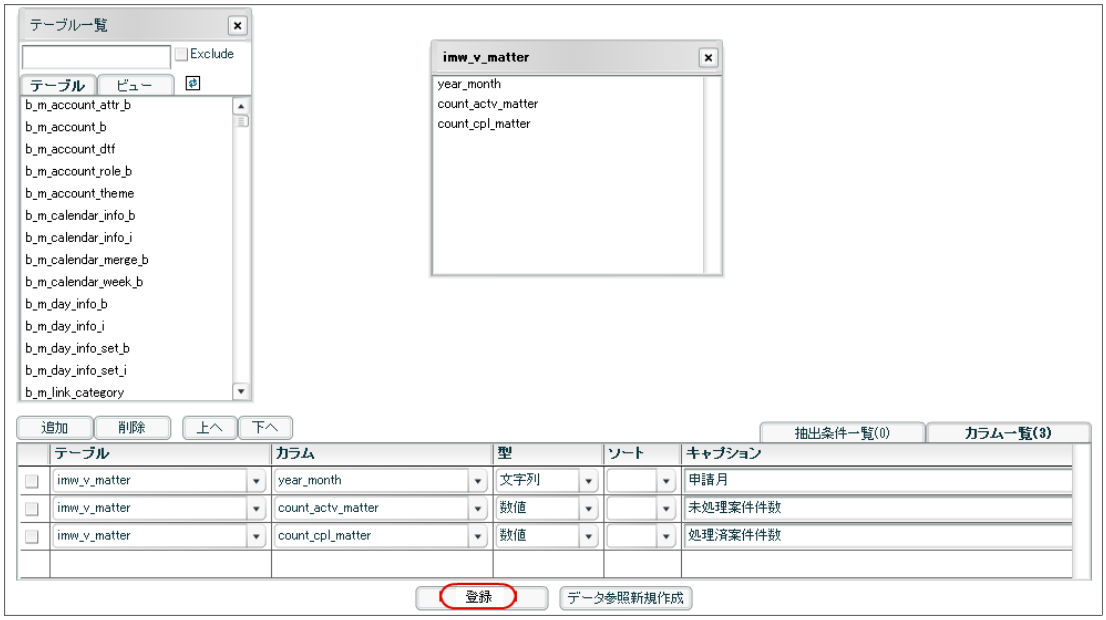
4. 「テーブル一覧」のビュータブから下記のビューを検索し、ドラッグして右側に配置します。
   - imw_v_matter



5. 「カラム一覧」に下記のカラムを追加します。
   一覧画面に表示するカラム名を変更したい場合には、キャプションに表示したい名称を設定します。
   - imw_v_matter
     - 申請月（year_month）
     - 未処理案件件数（count_actv_matter）
     - 処理済案件件数（count_cpl_matter）



6. 追加が終わったら「登録」をクリックします。



7. 以上で、グラフ集計のベースとなるクエリが作成できました。

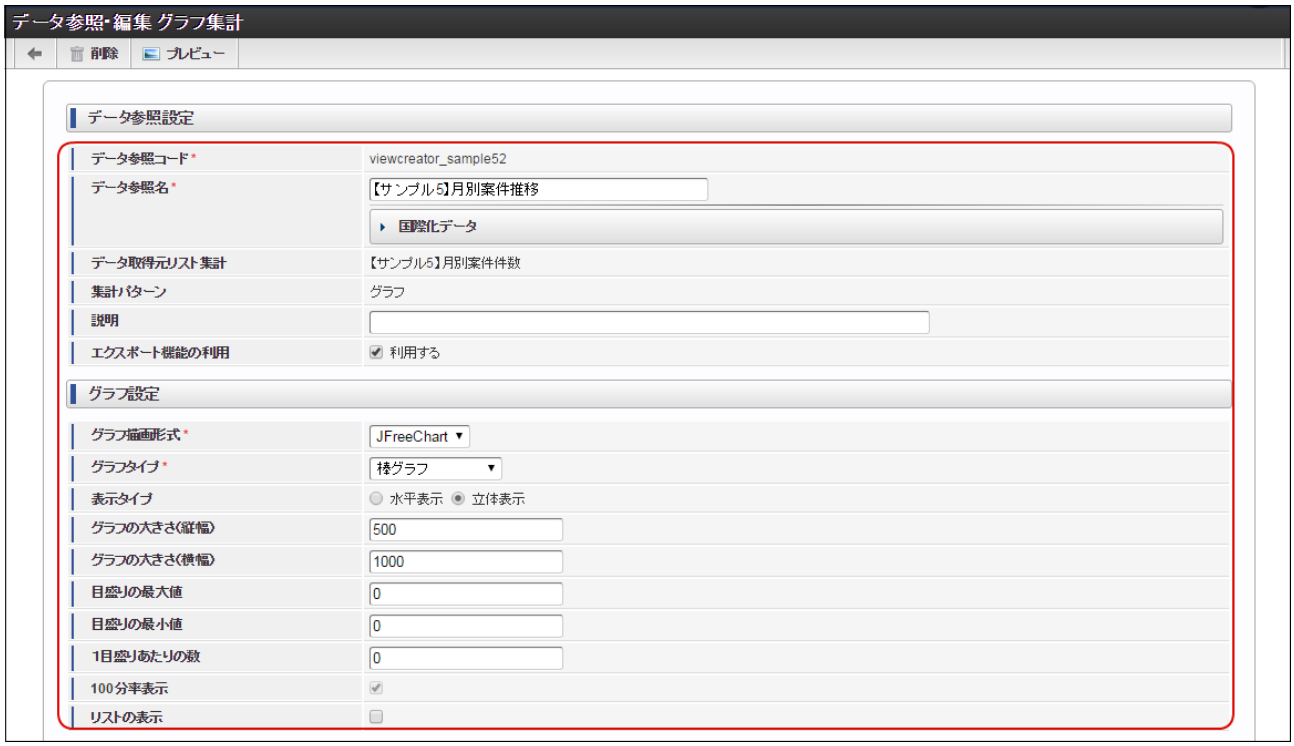
> **コラム**
>
> 案件数が多くグラフ集計の表示に時間がかかる場合は、バッチ処理にてビューで表示している月別案件件数を、別テーブルに格納することを検討してください。

グラフ集計画面を作成する

作成したクエリから「グラフ集計」を作成します。

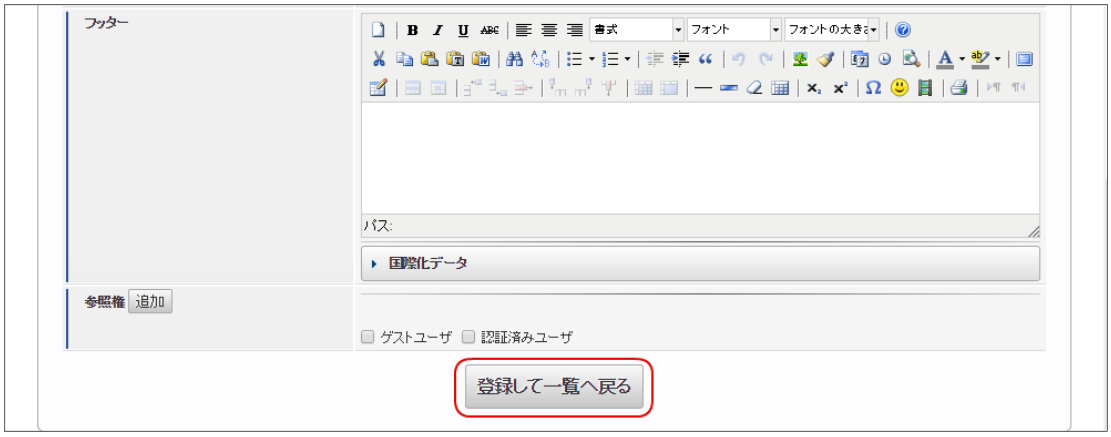
1. 「クエリ一覧」-「データ参照作成」から、「 」をクリックします。

2. データ参照名などの情報を入力します。



3. グラフに凡例を表示するために、「凡例ラベルカラム」を設定します。

4. 「登録して一覧へ戻る」をクリックして、グラフ集計画面（データ参照）を保存します。



5. 以上で、グラフ集計画面の作成が完了しました。

コラム

作成した画面の参照権限の設定方法は、「ViewCreator 管理者操作ガイド - 参照権の設定」を参照ください。

ViewCreator / IM-BIS を連携して活用する方法をご紹介します。

サンプル6 BAM情報からノード別の平均作業時間の一覧を作成する

IM-BIS のBAM情報からノード別の平均作業時間の一覧を作成します。

- このサンプルについて
- このサンプルでできること
- このサンプルで参照するテーブルの情報
- クエリを作成する
- リスト集計画面を作成する

このサンプルについて

このサンプルでは、完了案件に対し、ノード毎の平均ウエイト時間、作業時間を算出します。

フローID	フロー名	ノードID	ノード名	ウエイト時間(平均)	作業時間(平均)
5ibgqyp05zqr6a5	【サンプル】サンプルユーザ情報変更申請	6t9q20l0g16j9ix	承認	3.7	8.9
5ibgqyp05zqr6a5	【サンプル】サンプルユーザ情報変更申請	9rgd4y9s8dud8th	申請	0	9.5
5ieoqec2z3dosa5	備品申請	cm2wfgb9bvyr0oi	承認／処理	2.2	8.1
5ieoqec2z3dosa5	備品申請	se9s7v4a5zojyrr	承認／処理	589	594.5
5ieoqec2z3dosa5	備品申請	npbab80qzbt7n60	申請／処理開始	0	112.5
5ienqkooi53s8a5	稟議書	yi7qbgqbvisqqhv	承認／処理	21.2	54.9
5ienqkooi53s8a5	稟議書	8pdbm3ed1lskzo5	申請／処理開始	0	13
				59.9	85.2

このサンプルでできること

- 各フローに対し、処理時間が長いノードを確認することができます。
- 各フローに対し、処理の着手が遅いノードを確認することができます。

このサンプルで参照するテーブルの情報

このサンプルで利用するテーブルの情報を説明します。

- BAM時間テーブル（imbis_t_bam_time）
  処理者、処理開始日時、作業開始日時、処理終了日時の情報を格納するテーブルです。
  ワークフローのタスク単位に1レコード作成されます。

カラム	説明
処理実行者コード（exec_user_code）	処理実行者のユーザコードが格納されます。
処理開始日時（process_start_time）	対象のタスク（ノード）に到達した時点の日時が格納されます。
作業開始日時（task_start_time）	処理実行者が画面を表示した日時が格納されます。
処理終了日時（process_end_time）	対象のタスク（ノード）の処理が終了した日時が格納されます。

- 完了案件テーブル（imw_t_cpl_matter）
  完了案件情報を格納するテーブルです。
  案件毎に1レコード作成されます。

カラム	説明
システム案件ID（system_matter_id）	ワークフロー側が案件を一意に特定するためのIDです。
ユーザデータID（insert_id）	ユーザコンテンツ側が案件を一意に特定するためのID です。 アプリケーションのテーブルのユーザデータIDと結合するカラムとなります。
案件番号（matter_number）	画面、帳票でユーザが案件を識別するためのIDです。
申請基準日（apply_base_date）	ワークフローが処理を行う際の基準日です。

- 完了案件タスクテーブル（imw_t_cpl_matter_task）
  完了案件のワークフローのタスクが格納されるテーブルです。

カラム	説明
システム案件ID（system_matter_id）	ワークフロー側が案件を一意に特定するためのIDです。
ノードID（node_id）	ノードを一意に特定するためのIDです。
開始日（start_date）	タスクが登録された日時です。

- 完了案件ロケールテーブル（imw_t_cpl_matter_locale）
  ロケール毎に保持する情報を格納するテーブルです。
  申請時点でロケール毎に1レコード作成されます。
  フロー名を取得するために利用します。

カラム	説明
システム案件ID（system_matter_id）	ワークフロー側が案件を一意に特定するためのIDです。
ロケールID（locale_id）	ロケールを一意に特定するためのID です。
フロー名（flow_name）	フロー名です。

- BAM処理時間ビュー（imbis_v_bam_time）
  BAM時間テーブルからウエイト時間、処理時間を算出するビューです。
  ウエイト時間は、該当ノードの処理が可能になってから処理を開始するまでの時間になります。
  処理時間は、該当ノードの処理が可能になってから処理を完了するまでの時間になります。
  「 *サンプル6　（BAM情報）ノード別平均作業時間* 」よりDDLをダウンロードして、ご利用の環境のDBに登録してください。

> **コラム**
> ワークフローのテーブル定義情報の詳細は、「 IM-Workflow テーブル定義書 」を参照ください。

> **コラム**
> BAMのテーブル定義情報の詳細は、「 BAMのテーブル情報 」を参照ください。

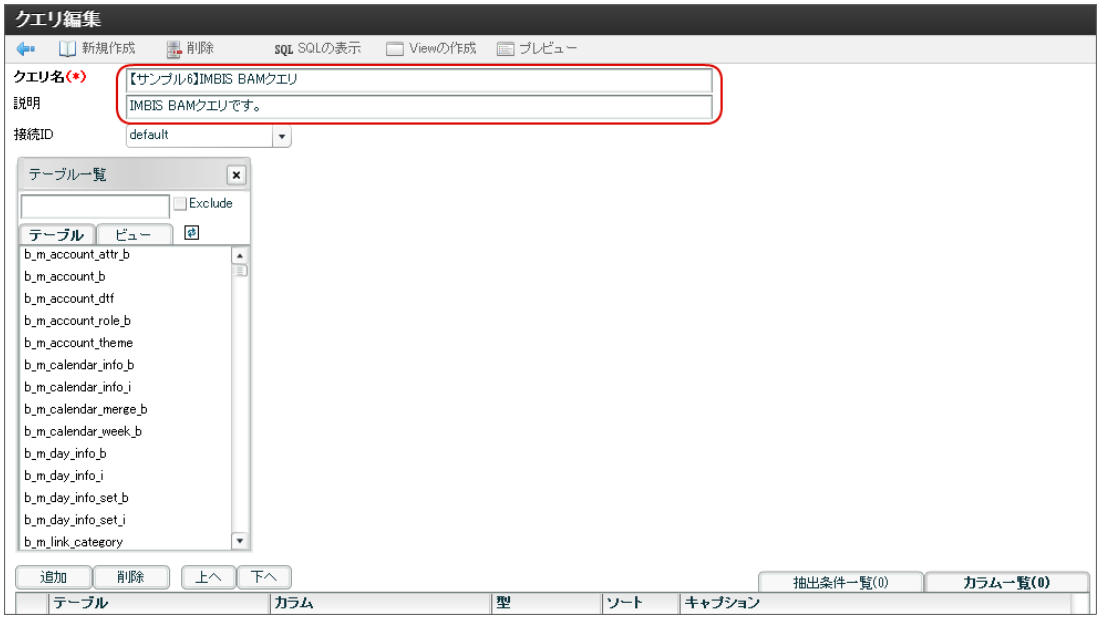
クエリを作成する

IM-BIS のBAM情報に対してクエリを作成します。

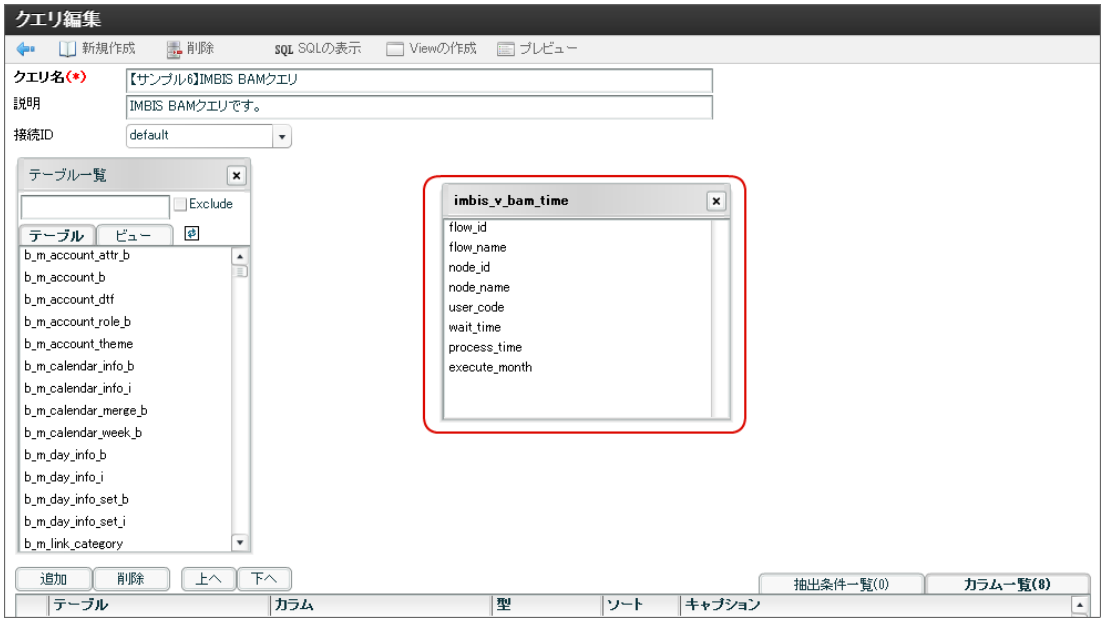
1. サイトマップ→「ViewCreator」→「クエリ一覧」をクリックします。

2. 「クエリ一覧」で「新規」をクリックします。

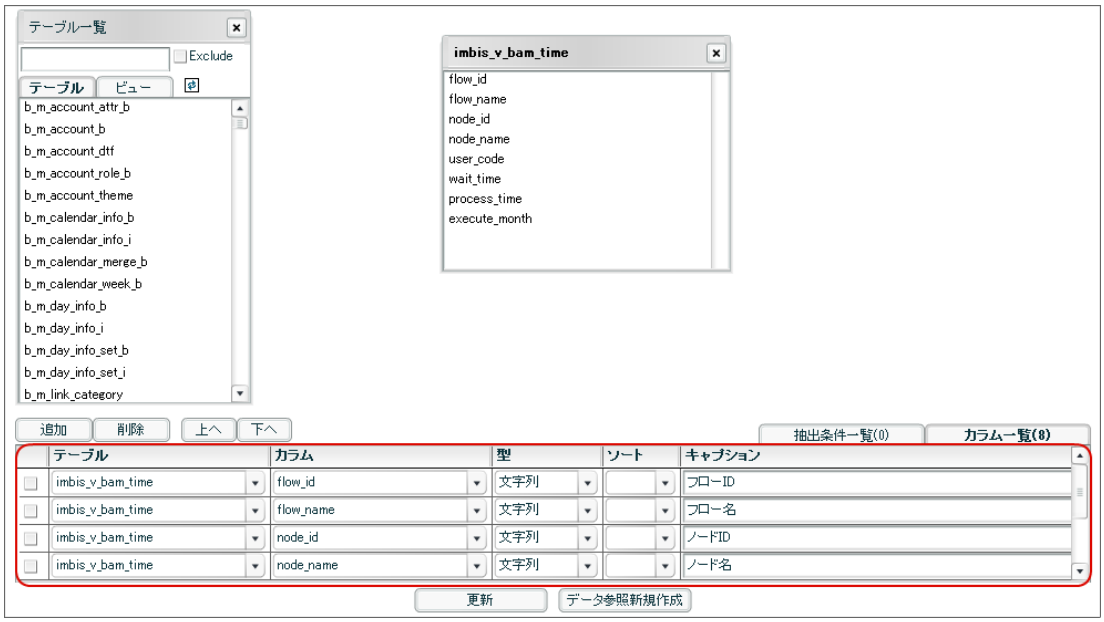
3. 「クエリ名」、「説明」を入力します。



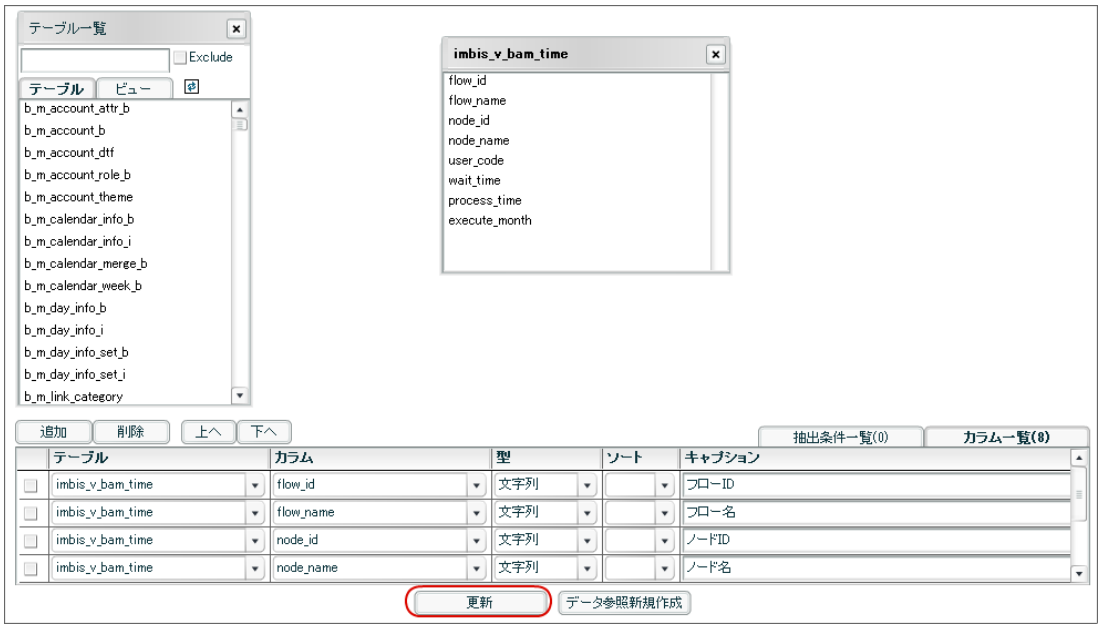
4. 「テーブル一覧」のビュータブから下記のビューを検索し、ドラッグして右側に配置します。
   - imbis_v_bam_time



5. 「カラム一覧」に下記のカラムを追加します。
   一覧画面に表示するカラム名を変更したい場合には、キャプションに表示したい名称を設定します。
   - imbis_v_bam_time
     - フローID（year_month）
     - フロー名（flow_name）
     - ノードID（node_id）
     - ノード名（node_name）
     - ユーザコード（user_code）
     - ウエイト時間（wait_time）
     - 作業時間（process_time）
     - 作業完了月（execute_month）



6. 追加が終わったら「登録」をクリックします。



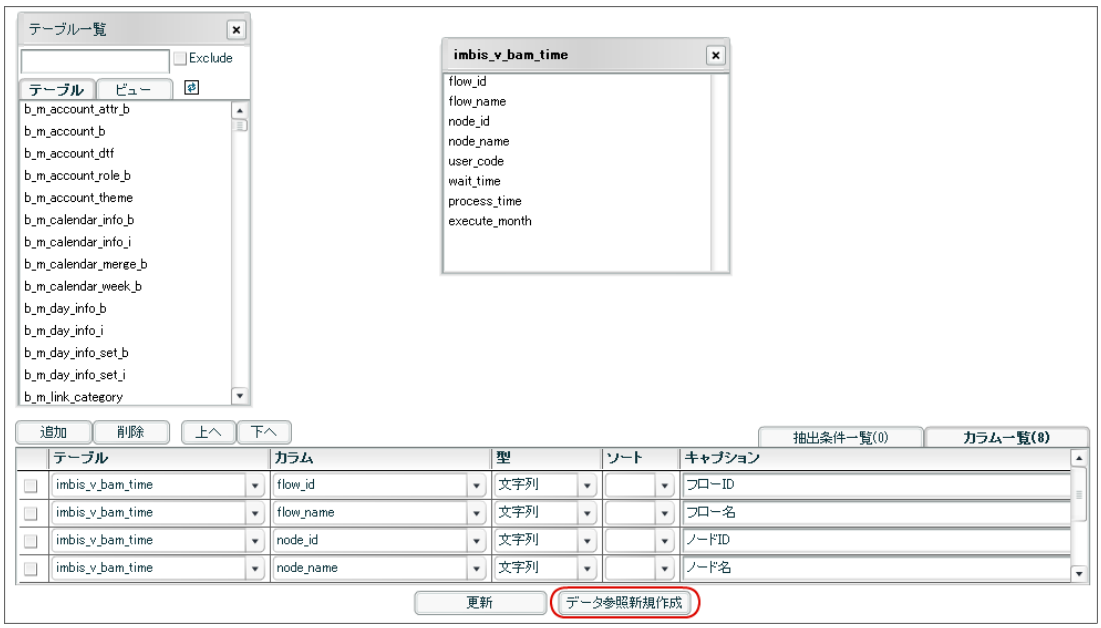
7. 以上で、リスト集計のベースとなるクエリが作成できました。

> **コラム**
>
> 案件数が多くリスト集計の表示に時間がかかる場合は、バッチ処理にてビューで表示しているBAM処理時間を、別テーブルに格納することを検討してください。

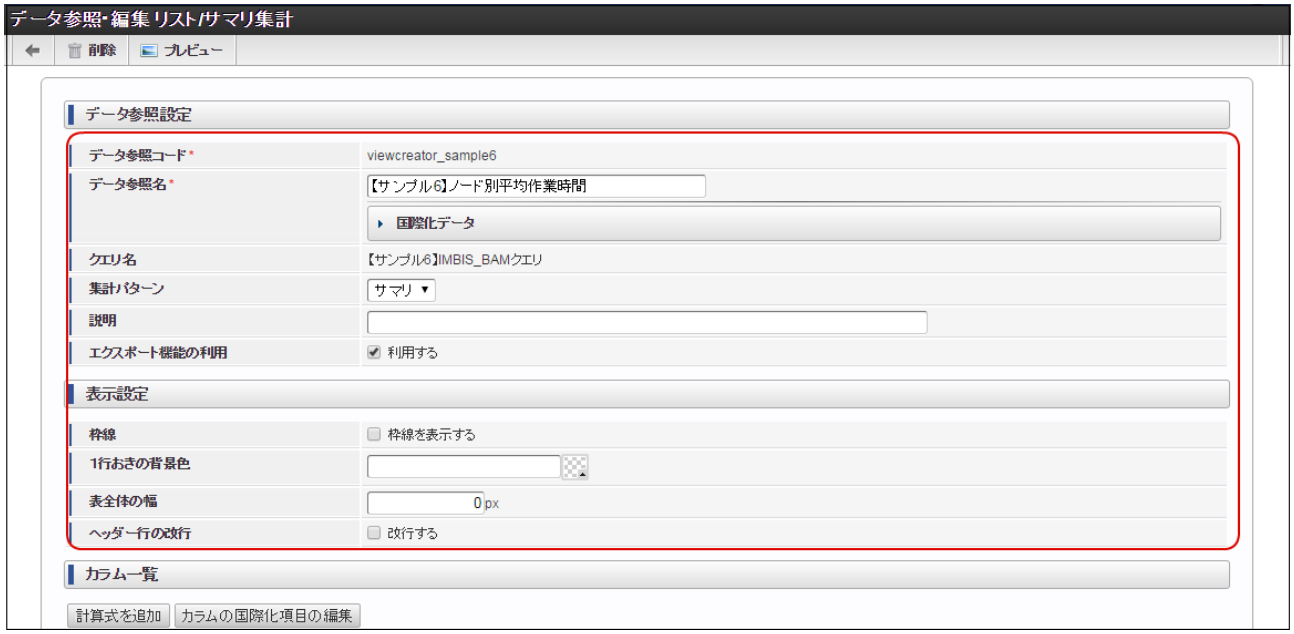
リスト集計画面を作成する

作成したクエリから「リスト集計」を作成します。

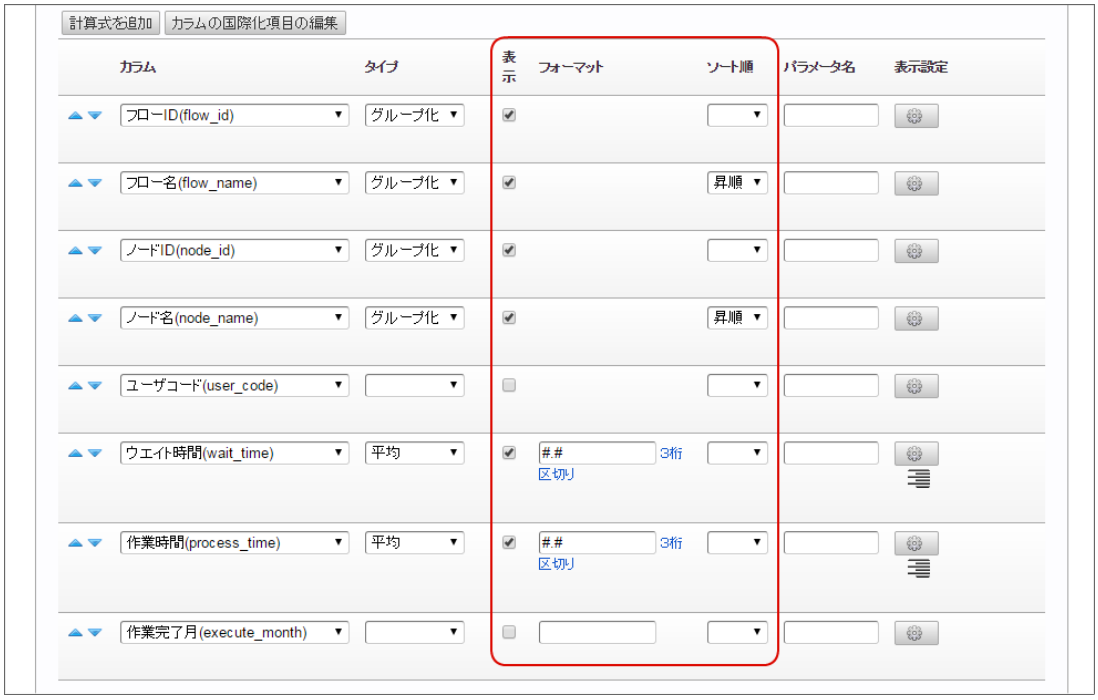
1. クエリが登録された後に、「登録」（更新）の右の「データ参照新規作成」をクリックします。



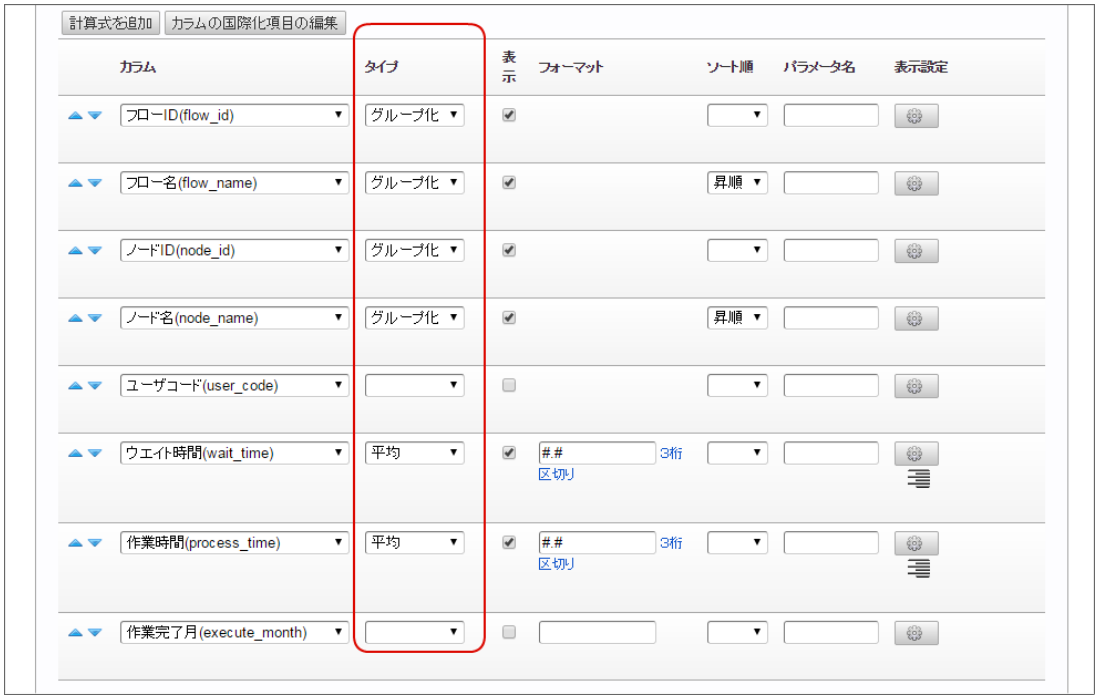
2. データ参照名などの情報を入力します。
   平均時間を算出するため、「集計パターン」を「サマリ」に変更します。



3. 一覧に表示する項目を設定するために、表示したい項目の表示のチェックボックスをオンにします。
   数値や日付項目のフォーマットを「フォーマット」で設定します。
   また、表示データのソート順を「ソート順」で設定します。

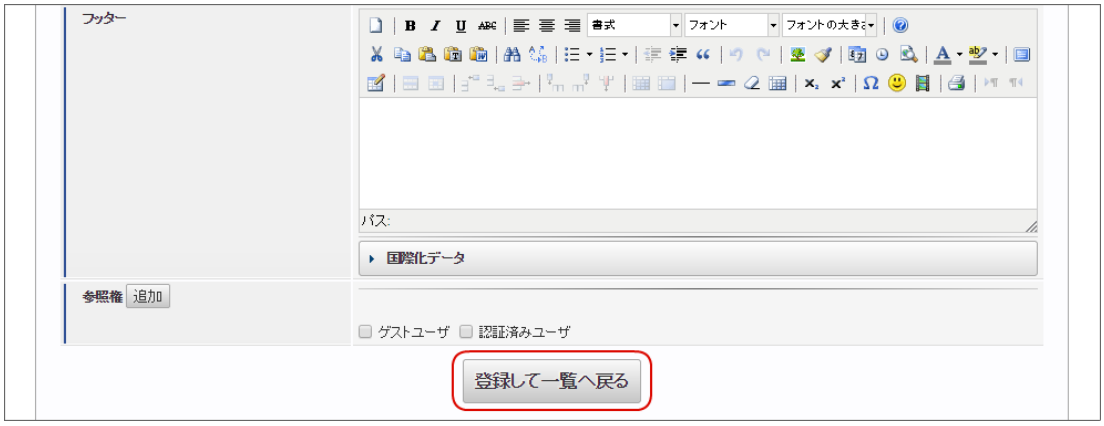


4. ノード単位平均を算出するため、「タイプ」を設定します。
   フロー名、フローID、ノード名、ノードIDを「グループ化」に変更します。
   ノード別に表示するため、「グループ化」対象の中で、ノード名を最も下の行となるように変更します。
   ウエイト時間、作業時間を「平均」に変更します。



> **コラム**
>
> 「表示設定」で、処理時間が長いカラムの文字色変更や表示非表示等の設定をすることができます。
> 詳細な設定方法は、「 ViewCreator 管理者操作ガイド 」を参照ください。

1. 「登録して一覧へ戻る」をクリックして、リスト集計画面（データ参照）を保存します。



2. 以上で、リスト集計画面の作成が完了しました。

> **コラム**
>
> 作成した画面の参照権限の設定方法は、「ViewCreator 管理者操作ガイド - 参照権の設定」を参照ください。

サンプル7 BAM情報から担当者別の平均作業時間の一覧を作成する

IM-BIS のBAM情報から担当者別の平均作業時間の一覧を作成します。

- このサンプルについて
- このサンプルでできること
- クエリを作成する
- リスト集計画面を作成する

このサンプルについて

このサンプルでは、完了案件に対し、担当者毎の平均ウエイト時間、作業時間を算出します。

フローID	フロー名	ノードID	ノード名	ユーザコード	ウエイト時間(平均)	処理時間(平均)
5ibgqyp05zqr6a5	【サンプル】業務フローA	6t9q20l0g16j9ix	タスク1	aoyagi	0	114.7
5ibgqyp05zqr6a5	【サンプル】業務フローA	6t9q20l0g16j9ix	タスク1	ikuta	0	275.4
5ibgqyp05zqr6a5	【サンプル】業務フローA	9rgd4y9s8dud8th	タスク2	katayama	1526	300.6
5ienqkooi53s8a5	【サンプル】稟議書	yi7qbgqbvisqqhv	上長承認	katayama	370	16.6
5ienqkooi53s8a5	【サンプル】稟議書	yi7qbgqbvisqqhv	上長承認	maruyama	400	31.8
5ienqkooi53s8a5	【サンプル】稟議書	8pdbm3ed1lskzo5	申請	aoyagi	0	28
5ienqkooi53s8a5	【サンプル】稟議書	8pdbm3ed1lskzo5	申請	ikuta	0	29
					312	103.2

このサンプルでできること

- 各フローに対し、処理時間が長い担当者を確認することができます。
- 各フローに対し、処理の着手が遅い担当者を確認することができます。

クエリを作成する

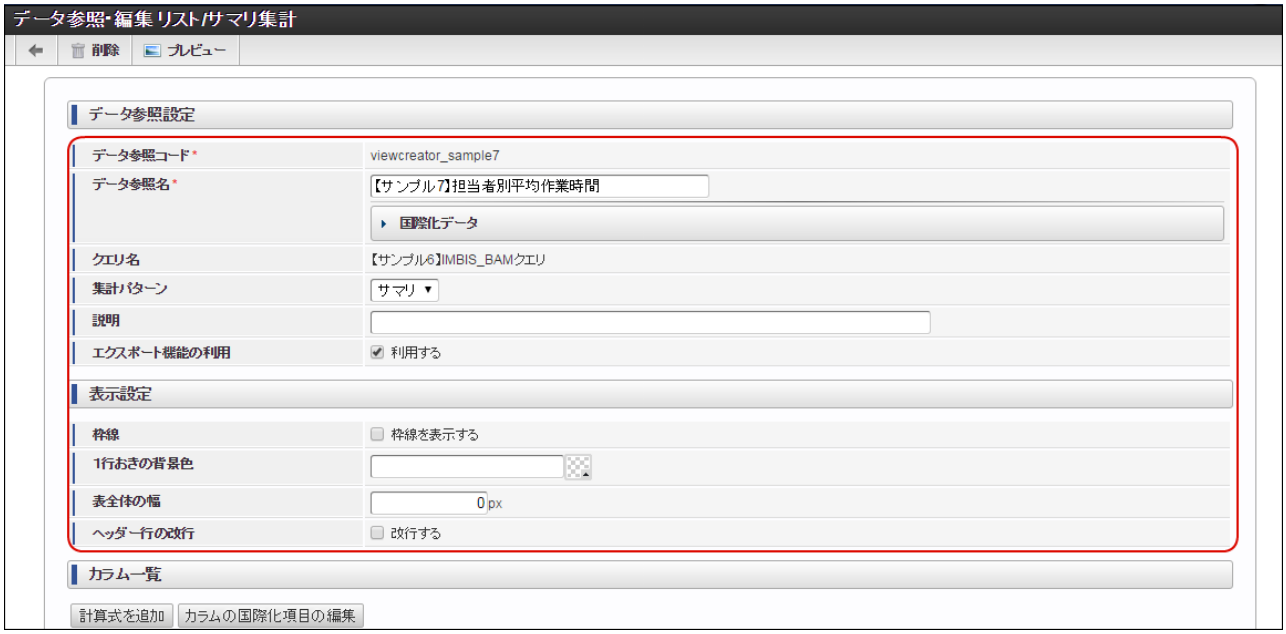
サンプル6と同様のクエリを利用します。
作成方法は、「 *クエリを作成する* 」を参照ください。

リスト集計画面を作成する

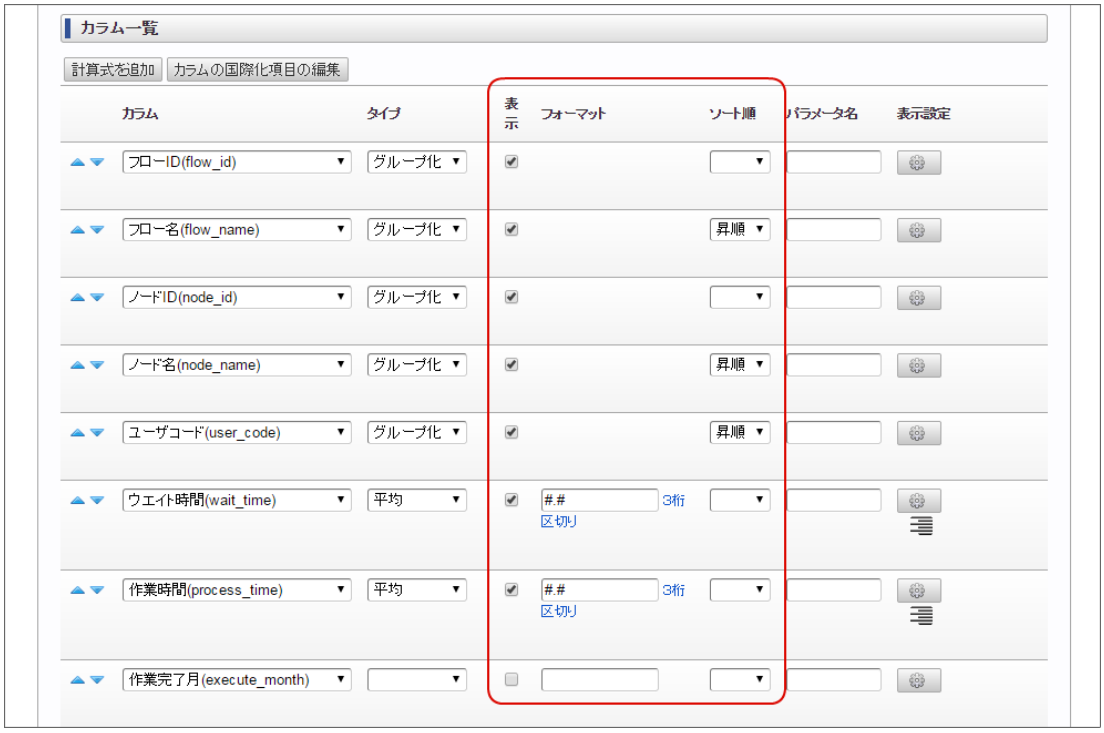
作成したクエリから「リスト集計」を作成します。

1. クエリが登録された後に、「登録」（更新）の右の「データ参照新規作成」をクリックします。

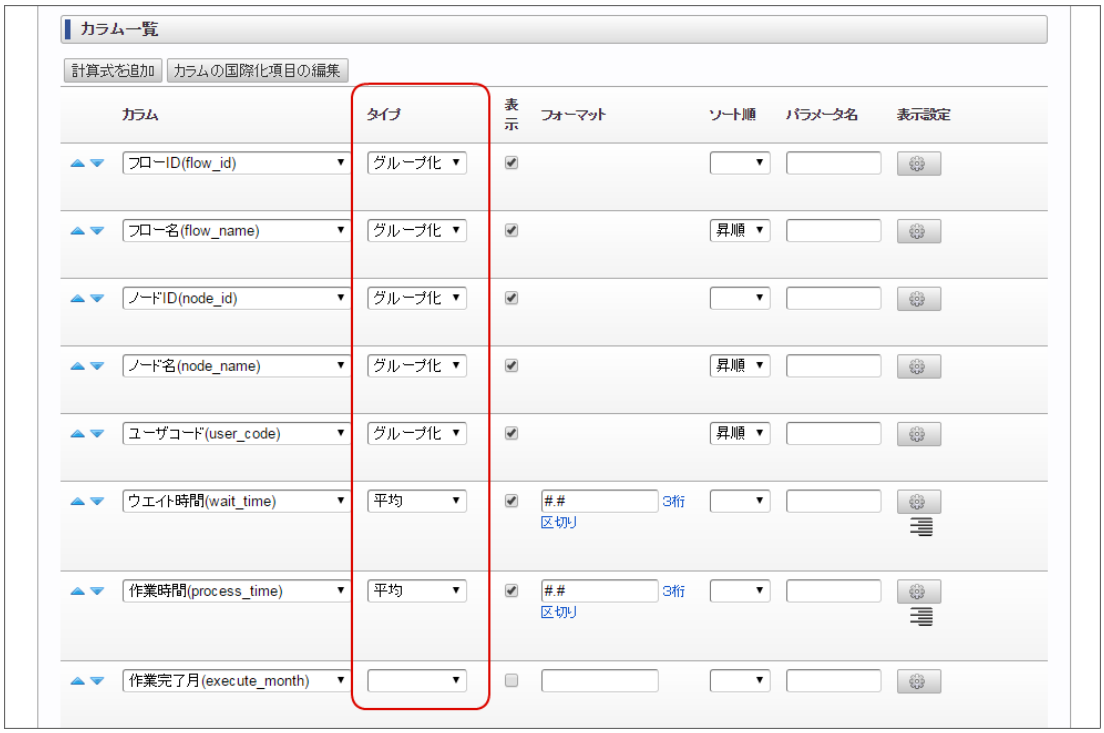
2. データ参照名などの情報を入力します。
   平均時間を算出するため、「集計パターン」を「サマリ」に変更します。



3. 一覧に表示する項目を設定するために、表示したい項目の表示のチェックボックスをオンにします。
   数値や日付項目のフォーマットを「フォーマット」で設定します。
   また、表示データのソート順を「ソート順」で設定します。

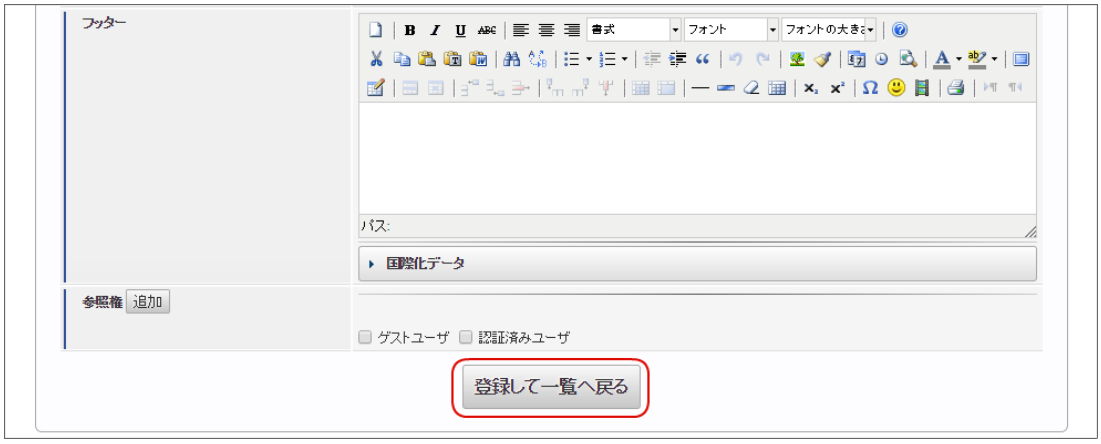


4. 担当者単位平均を算出するため、「タイプ」を設定します。
   フロー名、フローID、ノード名、ノードID、ユーザコードを「グループ化」に変更します。
   ユーザ別に表示するため、「グループ化」対象の中で、ユーザコードを最も下の行となるように変更します。
   ウエイト時間、作業時間を「平均」に変更します。



> **コラム**
>
> 「表示設定」で、処理時間が長いカラムの文字色変更や表示非表示等の設定をすることができます。
> 詳細な設定方法は、「 ViewCreator 管理者操作ガイド 」を参照ください。

1. 「登録して一覧へ戻る」をクリックして、リスト集計画面（データ参照）を保存します。



2. 以上で、リスト集計画面の作成が完了しました。

> **コラム**
>
> 作成した画面の参照権限の設定方法は、「ViewCreator 管理者操作ガイド - 参照権の設定」を参照ください。

サンプル8 BAM情報から月別の平均作業時間の一覧を作成する

IM-BIS のBAM情報から月別の平均作業時間の一覧を作成します。

- このサンプルについて
- このサンプルでできること
- クエリを作成する
- リスト集計画面を作成する

このサンプルについて

このサンプルでは、完了案件に対し、月別の平均ウエイト時間、作業時間を算出します。

フローID	フロー名	ノードID	ノード名	作業完了月	ウエイト時間(平均)	処理時間(平均)
5ibgqyp05zqr6a5	【サンプル】業務フローA	6t9q20l0g16j9ix	タスク1	2014/10	0	155.6
5ibgqyp05zqr6a5	【サンプル】業務フローA	6t9q20l0g16j9ix	タスク1	2014/11	0	234.6
5ibgqyp05zqr6a5	【サンプル】業務フローA	9rgd4y9s8dud8th	タスク2	2014/10	1051	230.1
5ibgqyp05zqr6a5	【サンプル】業務フローA	9rgd4y9s8dud8th	タスク2	2014/11	2001	371
5ienqkooi53s8a5	【サンプル】稟議書	yi7qbgqbvisqqhv	上長承認	2014/10	270	12
5ienqkooi53s8a5	【サンプル】稟議書	yi7qbgqbvisqqhv	上長承認	2014/11	325	34.8
5ienqkooi53s8a5	【サンプル】稟議書	yi7qbgqbvisqqhv	上長承認	2014/12	750.1	35
5ienqkooi53s8a5	【サンプル】稟議書	8pdbm3ed1lskzo5	申請	2014/10	0	23.2
5ienqkooi53s8a5	【サンプル】稟議書	8pdbm3ed1lskzo5	申請	2014/11	0	27.2
5ienqkooi53s8a5	【サンプル】稟議書	8pdbm3ed1lskzo5	申請	2014/12	0	41
						103.2

このサンプルでできること

- 各フローに対し、処理時間の月遷移での増減を確認できます。

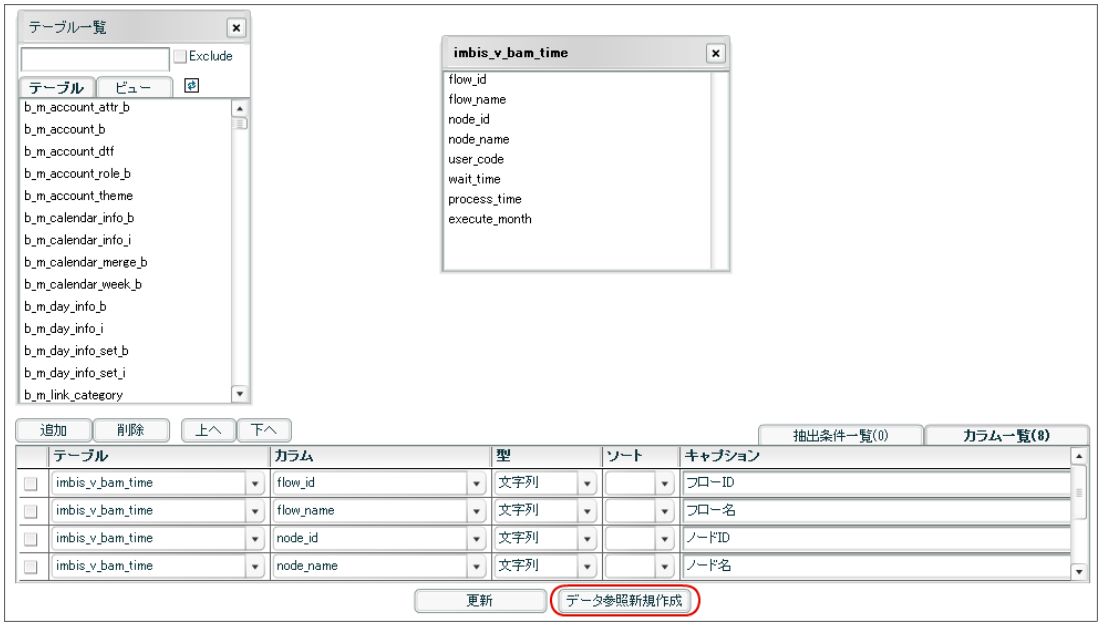
クエリを作成する

サンプル6と同様のクエリを利用します。
作成方法は、「 *クエリを作成する* 」を参照ください。

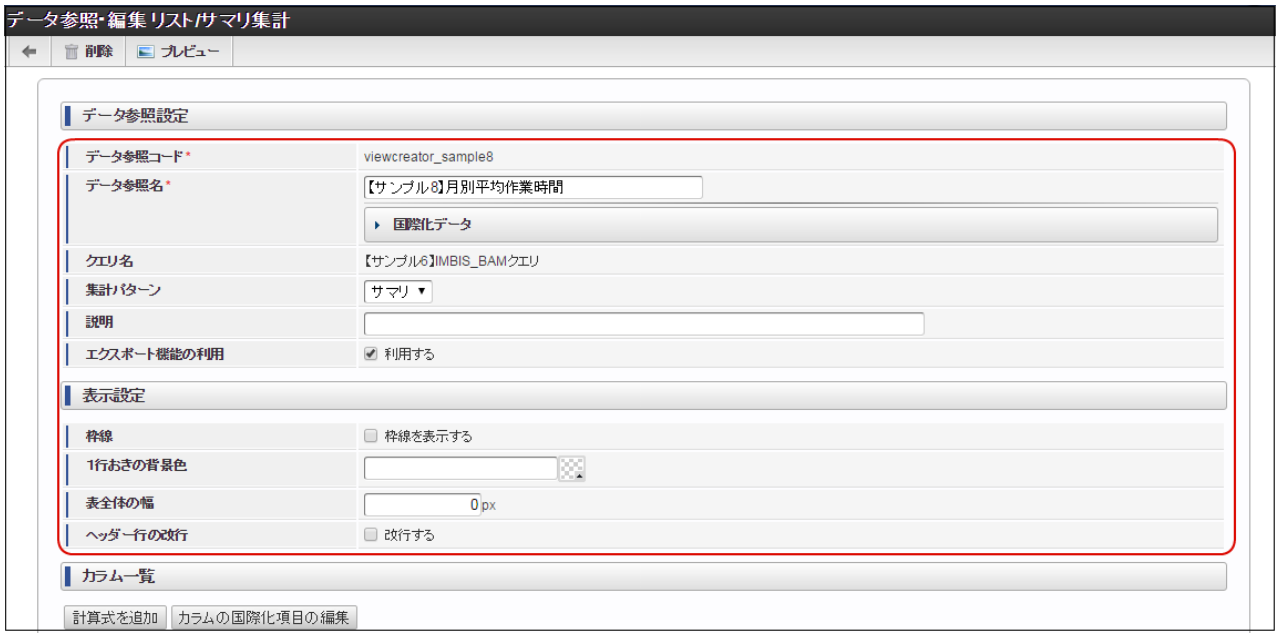
リスト集計画面を作成する

作成したクエリから「リスト集計」を作成します。

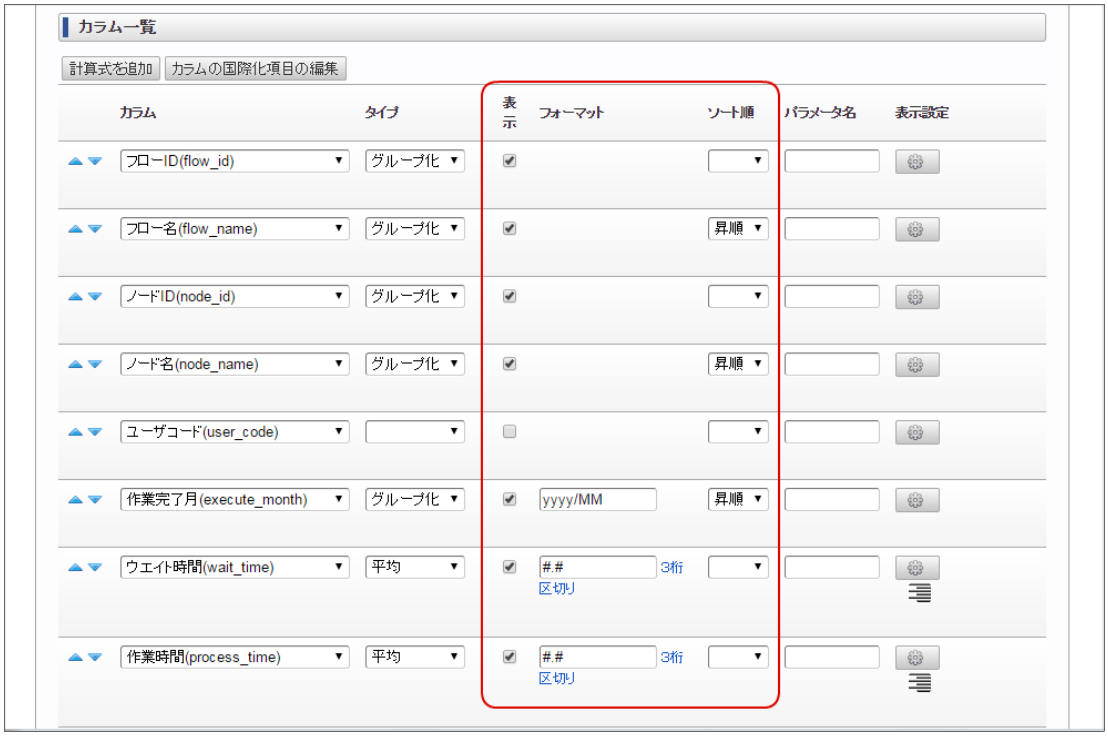
1. クエリが登録された後に、「登録」（更新）の右の「データ参照新規作成」をクリックします。



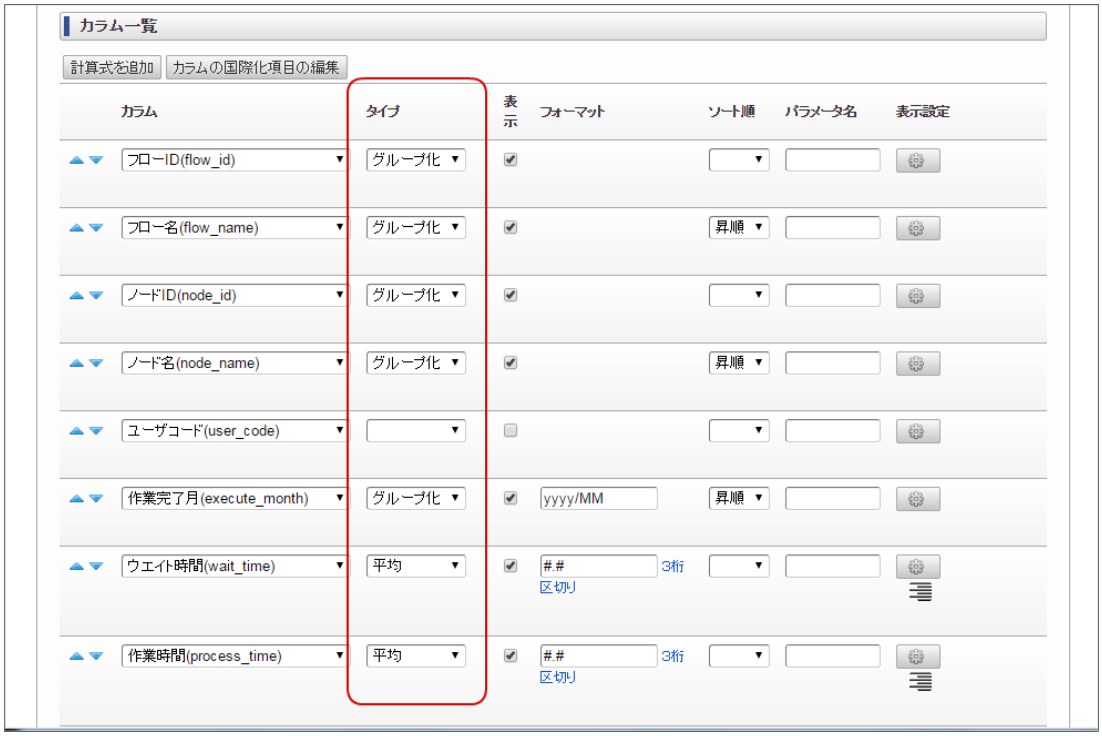
2. データ参照名などの情報を入力します。
   平均時間を算出するため、「集計パターン」を「サマリ」に変更します。



3. 一覧に表示する項目を設定するために、表示したい項目の表示のチェックボックスをオンにします。
   数値や日付項目のフォーマットを「フォーマット」で設定します。
   また、表示データのソート順を「ソート順」で設定します。

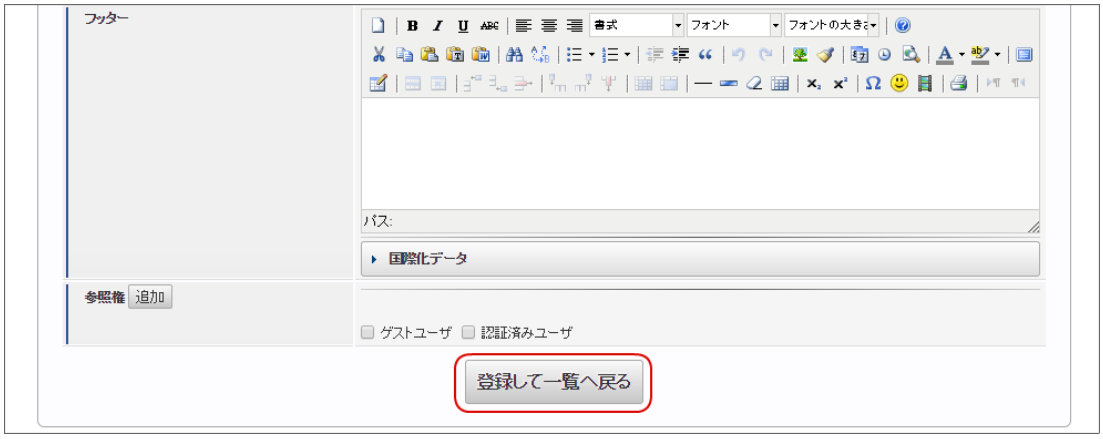


4. 担当者単位平均を算出するため、「タイプ」を設定します。
   フロー名、フローID、ノード名、ノードID、作業完了月を「グループ化」に変更します。
   月別に表示するため、「グループ化」対象の中で、作業完了月を最も下の行となるように変更します。
   ウエイト時間、作業時間を「平均」に変更します。



> **コラム**
>
> 「表示設定」で、処理時間が長いカラムの文字色変更や表示非表示等の設定をすることができます。
> 詳細な設定方法は、「 ViewCreator 管理者操作ガイド 」を参照ください。

1. 「登録して一覧へ戻る」をクリックして、リスト集計画面（データ参照）を保存します。



2. 以上で、リスト集計画面の作成が完了しました。

コラム

作成した画面の参照権限の設定方法は、「ViewCreator 管理者操作ガイド - 参照権の設定」を参照ください。

ViewCreator / IM-FormaDesigner を連携する

ViewCreator / IM-FormaDesigner を連携して活用する方法をご紹介します。

サンプル9 Formaアプリの登録データの一覧を作成する

IM-FormaDesigner アプリの登録データの一覧を作成します。

- このサンプルについて
- このサンプルでできること
- クエリを作成する
- リスト集計画面を作成する

このサンプルについて

このサンプルでは、特定の Formaアプリの登録データの一覧を ViewCreator で作成します。
作成した一覧の項目に、Formaアプリの更新・参照画面へのリンクを設定すると、リンクから案件の更新・参照画面を表示することができます。
本項では、Formaアプリのサンプルとして登録されている「【サンプル】備品管理(v8)」を例として、一覧を作成します。

このサンプルでできること

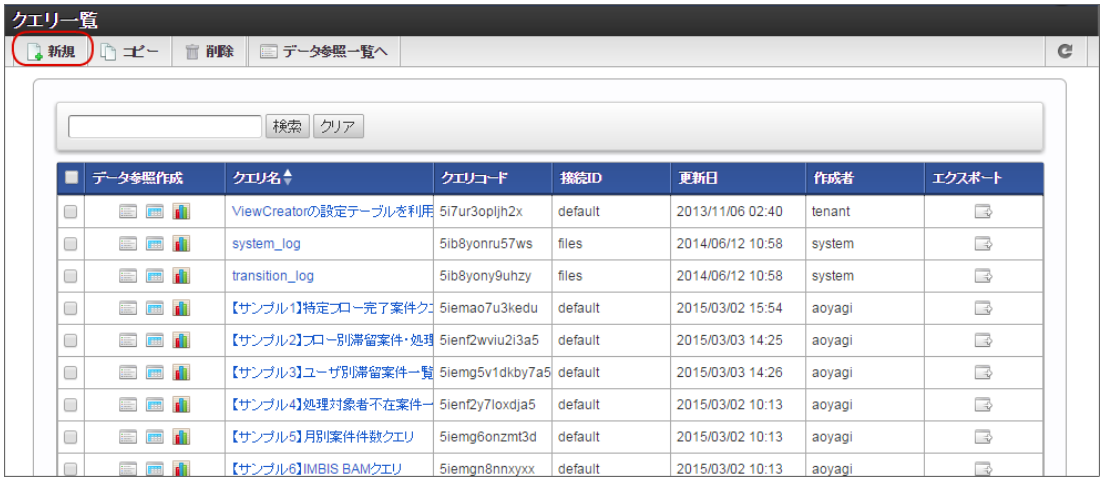
- ViewCreator から Formaアプリの更新・参照画面を表示するリンクを張ることができるようになります。
- Formaアプリの登録データに対し、任意項目を表示し、サマリやグラフの表示ができるようになります。

クエリを作成する

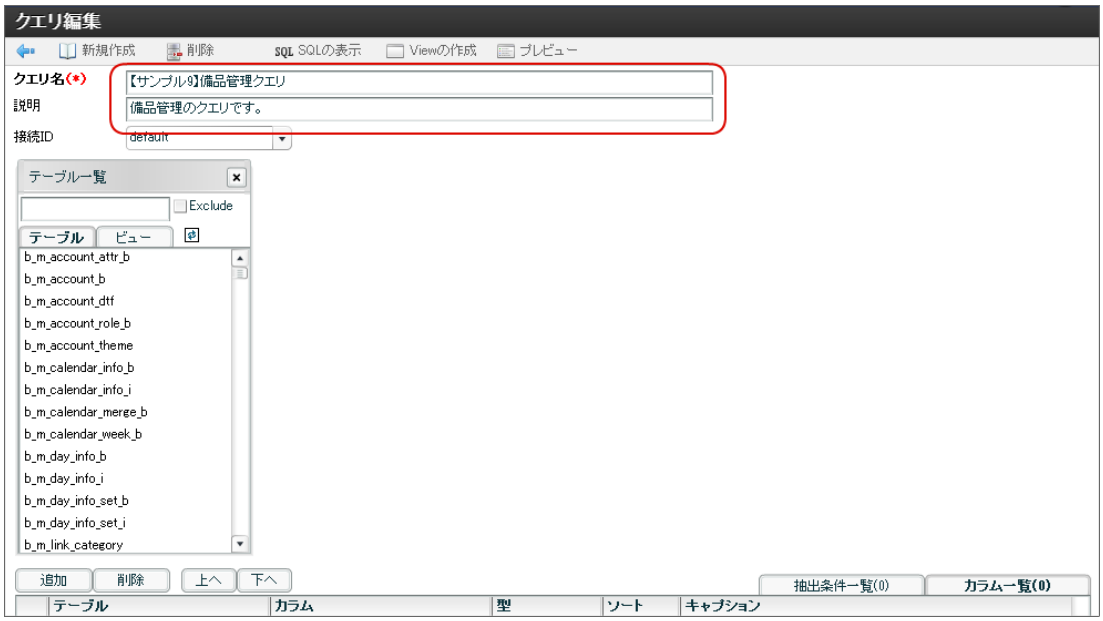
アプリケーションをViewCreatorから参照するために、ViewCreatorのクエリを作成します。

1. サイトマップ→「ViewCreator」→「クエリ一覧」をクリックします。

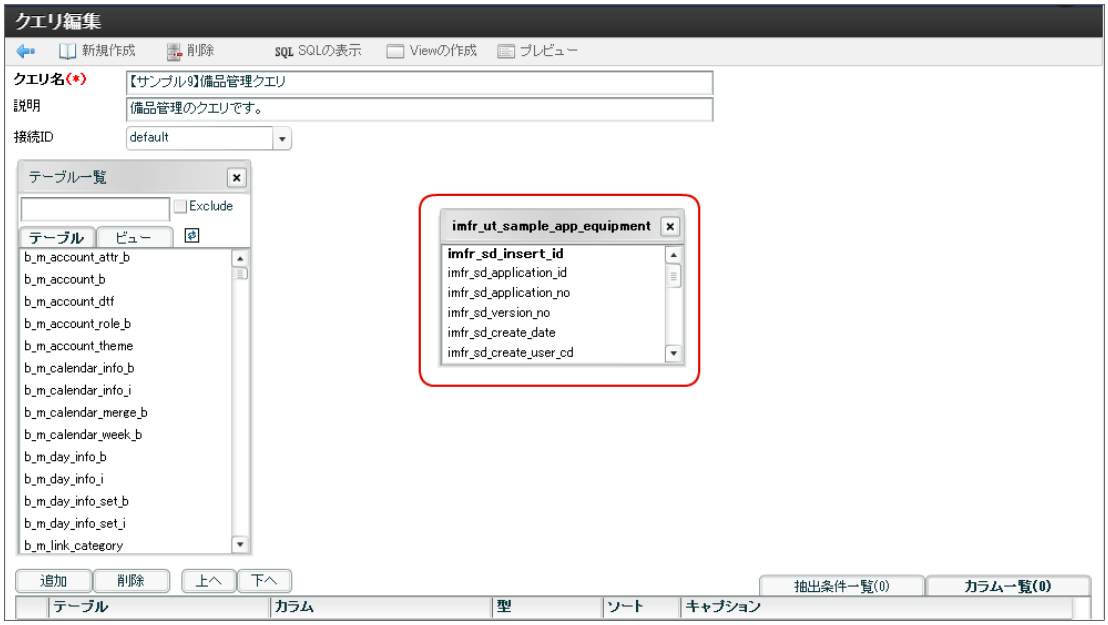
2. 「クエリ一覧」で「新規」をクリックします。



3. 「クエリ名」、「説明」を入力します。

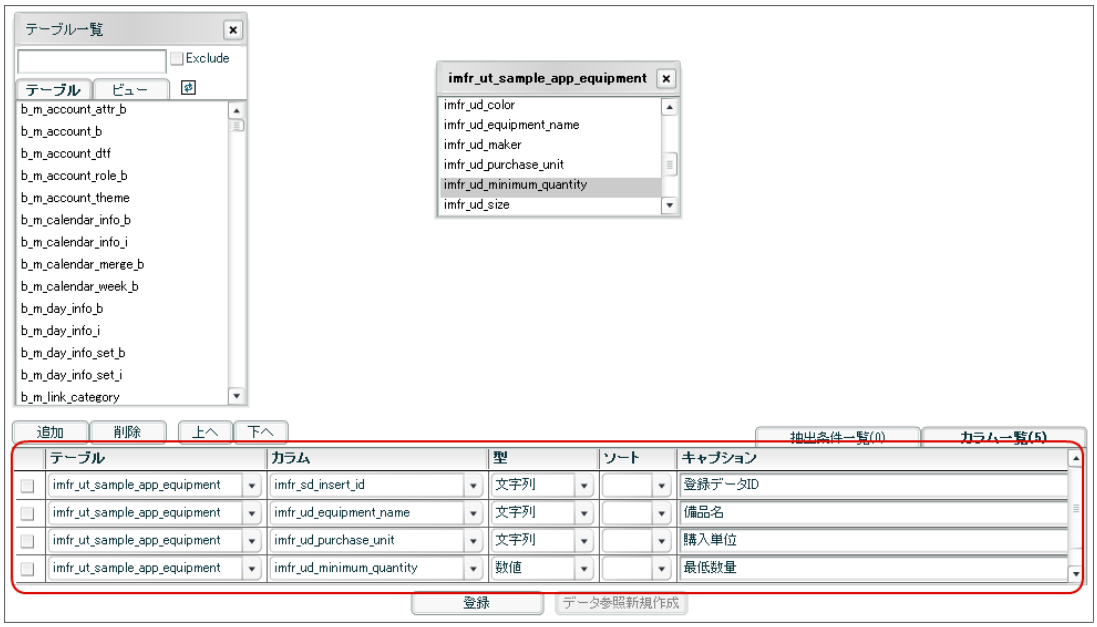


4. 「テーブル一覧」から下記のアプリケーションのテーブルを検索し、テーブルをドラッグして右側に配置します。
   - imfr_ut_sample_app_equipment



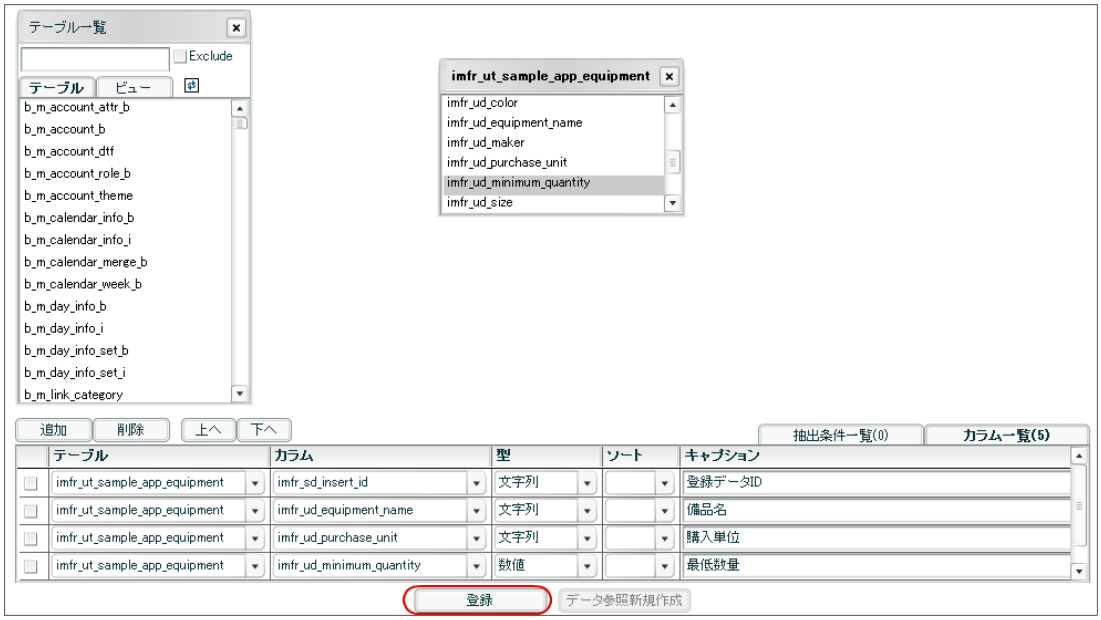
> **コラム**
>
> アプリケーションのテーブル名の確認方法は、「 *アプリケーションのテーブル情報を確認する* 」を参照ください。

5. 「カラム一覧」に各テーブルから下記のカラムを追加します。
   一覧画面に表示するカラム名を変更したい場合には、キャプションに表示したい名称を設定します。
   - imfr_ut_sample_app_equipment
     - データ登録ID（imfr_sd_insert_id）
     - その他に一覧に表示したい項目に対応する入力項目のカラム



> **コラム**
>
> 「imfr_sd_insert_id」は、 IM-FormaDesigner のアプリケーションのテーブルの「データ登録ID」が格納されるカラムです。
> ViewCreatorのリスト集計画面を表示する場合には、このカラムの値に基づいてリンクさせる必要があります。

6. 追加が終わったら「登録」をクリックします。



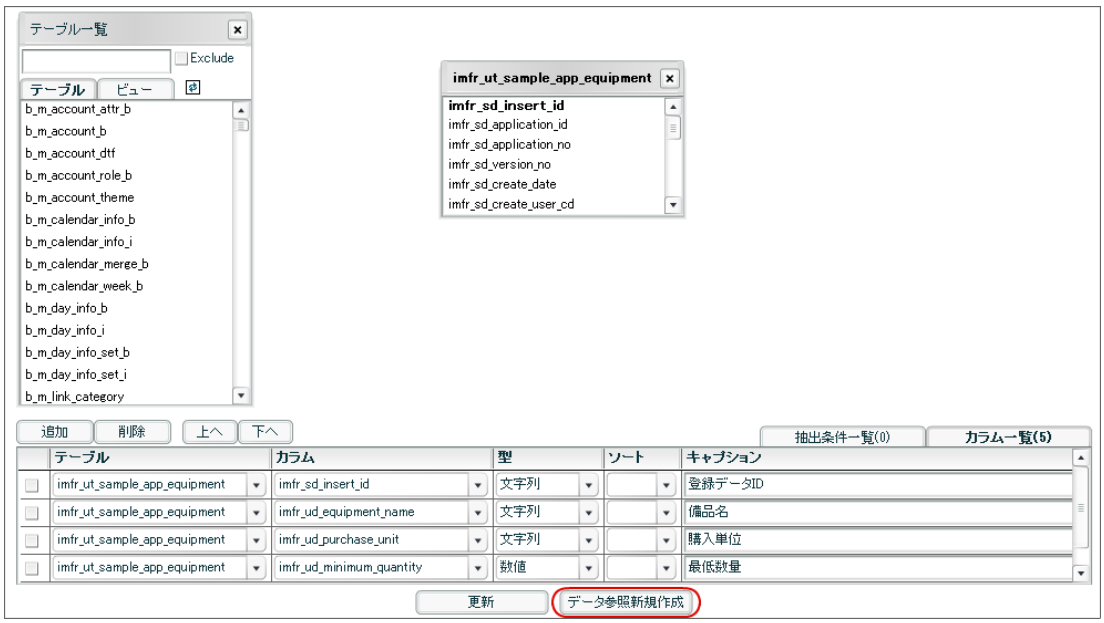
7. 以上で、リスト集計のベースとなるクエリが作成できました。

リスト集計画面を作成する

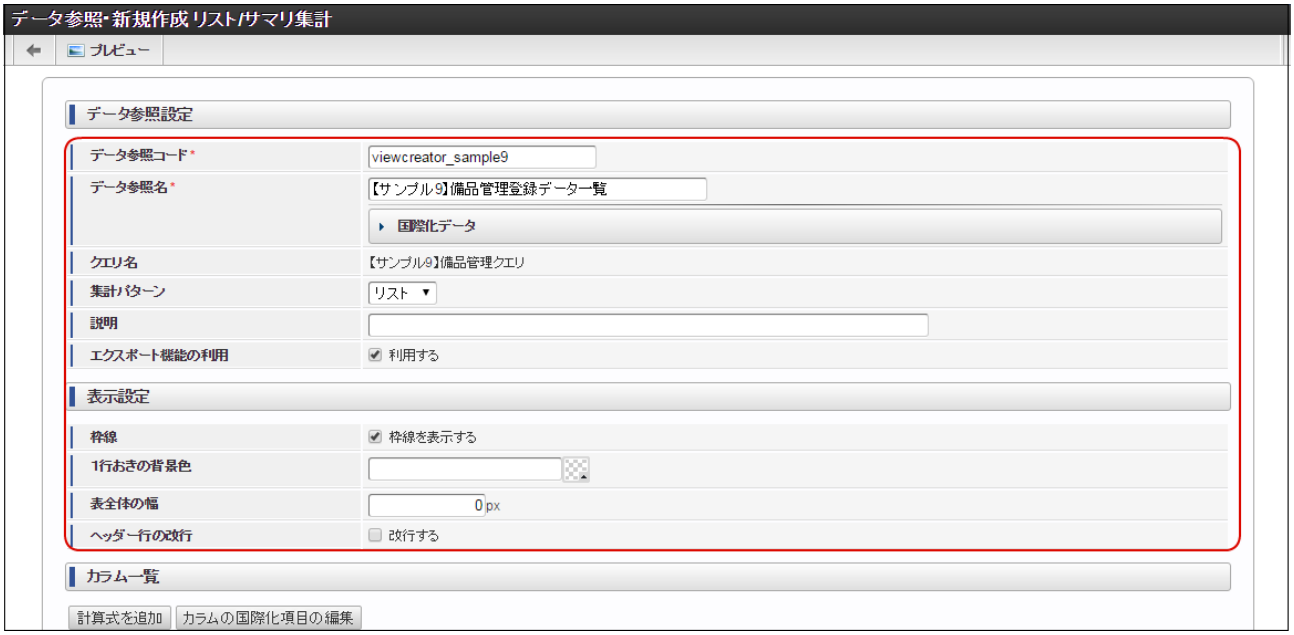
作成したクエリから「リスト集計」を作成します。

リストに表示する項目から IM-FormaDesigner の更新・参照画面を表示できるように、リンクを設定します。

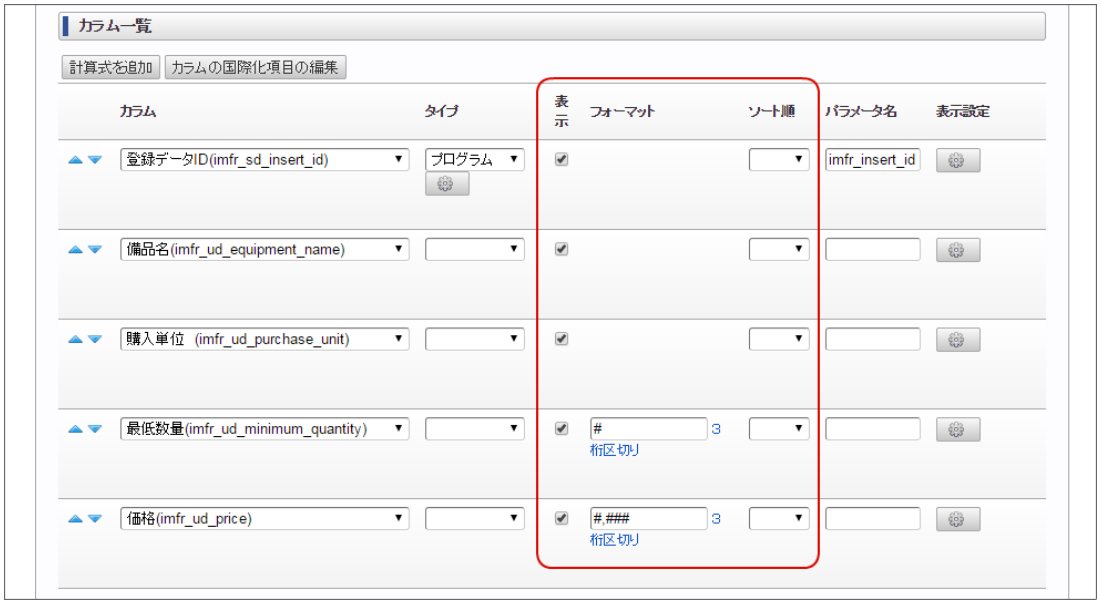
1. クエリが登録された後に、「登録」（更新）の右の「データ参照新規作成」をクリックします。



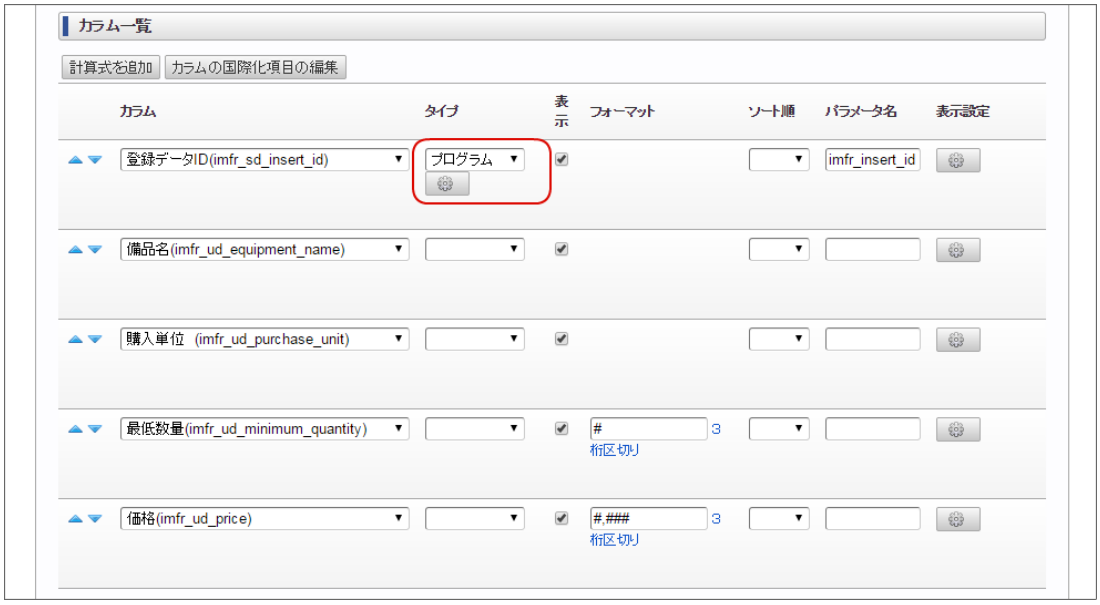
2. データ参照名などの情報を入力します。



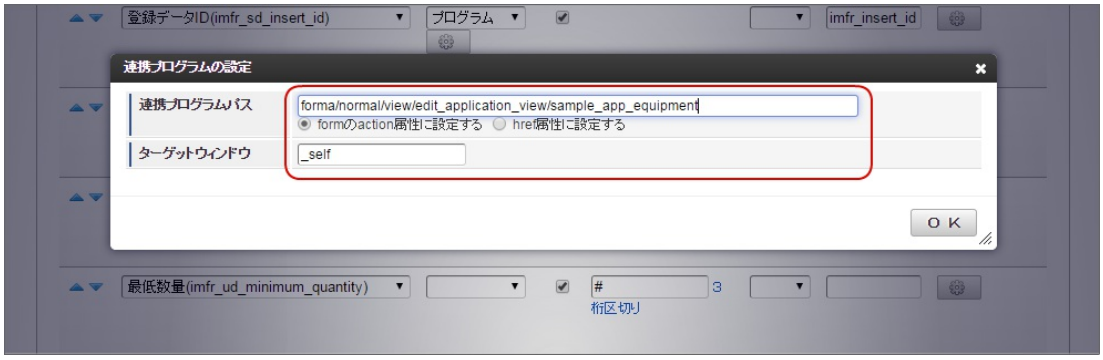
3. 一覧に表示する項目を設定するために、表示したい項目の表示のチェックボックスをオンにします。
   また、数値や日付項目のフォーマットを「フォーマット」で設定します。



4. 登録データIDのカラム「imfr_sd_insert_id」から IM-FormaDesigner の更新・参照画面画面を表示できるように、リンクを設定します。
   リンクを設定するために「imfr_sd_insert_id」のタイプを「プログラム」に変更します。



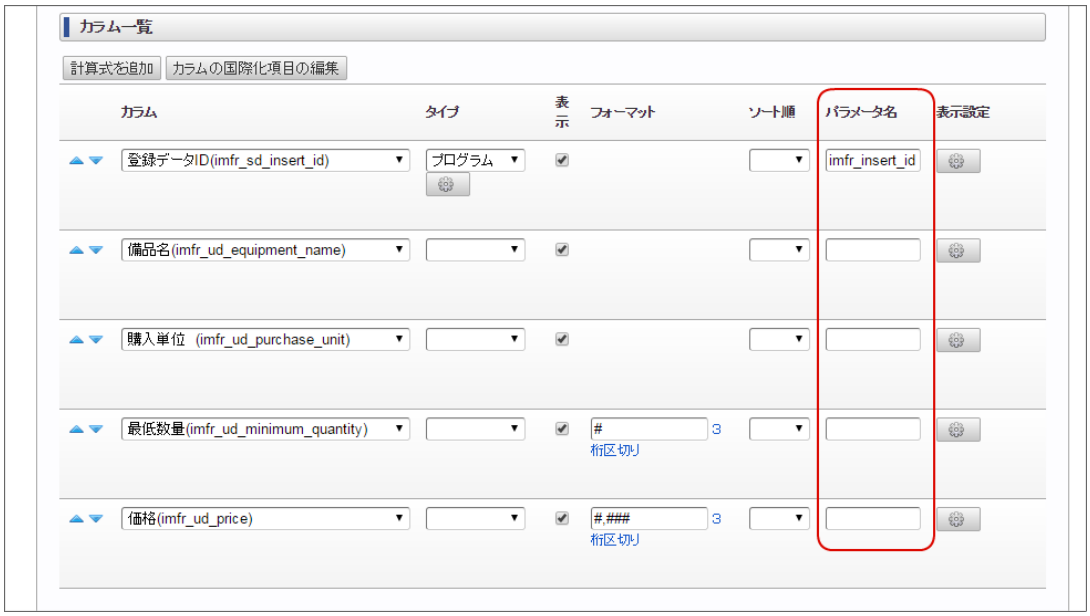
5. リンク先として、 IM-FormaDesigner の更新・参照画面を呼び出すためのパスを設定します。
   「 」をクリックし、連携プログラムパスにリンクする IM-FormaDesigner の更新・参照画面のパスを入力し、「OK」をクリックします。



設定する画面	連携プログラムパス
更新画面	forma/normal/view/edit_application_view/%アプリケーションID%

設定する画面	連携プログラムパス
参照画面	forma/normal/view/refer_application_view/%アプリケーションID%

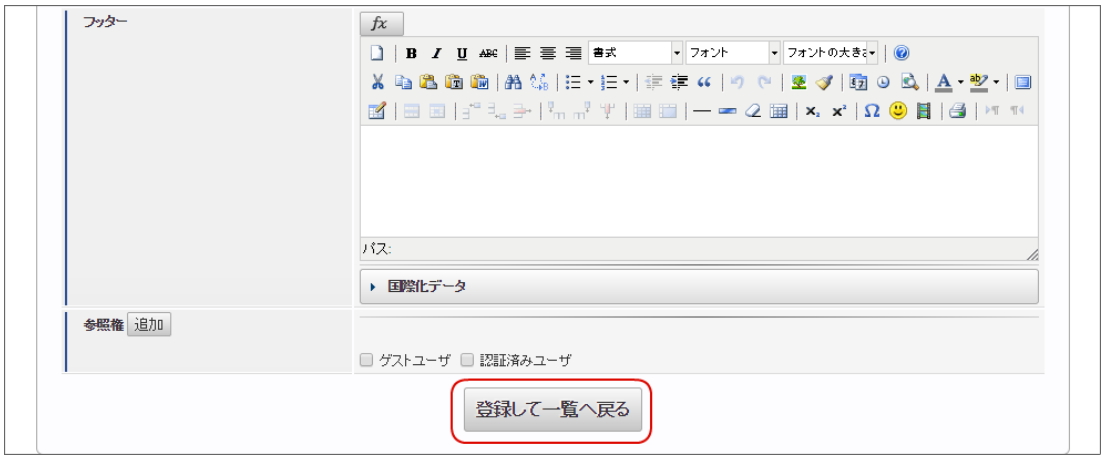
6. パラメータ名を以下の通りに設定します。



カラム	設定値
データ登録ID（imfr_sd_insert_id）	imfr_insert_id

コラム
- パラメータ名は大文字・小文字を区別しています。
- パラメータ名は必ず小文字で「imfr_sd_insert_id」または「imfr_insert_id」を設定してください。大文字で、もしくは異なる名称で設定した場合には、リンクが正しく生成されません。

7. 「登録して一覧へ戻る」をクリックして、リスト集計画面（データ参照）を保存します。



8. 以上で、リスト集計画面の作成が完了しました。

注意
- IM-FormaDesigner で作成された標準アプリケーションの参照画面を呼び出した際に、そのユーザに対象の IM-FormaDesigner のアプリケーションの参照権限がない場合、参照画面は表示されません。
- ViewCreator のデータ参照画面から IM-FormaDesigner の参照画面へ遷移した後、 IM-FormaDesigner の戻るリンクや戻るボタンによってViewCreator のデータ参照画面に戻ることはできません。

コラム

作成した画面の参照権限の設定方法は、「 ViewCreator 管理者操作ガイド - 参照権の設定 」を参照ください。

ViewCreator の設定データダウンロード

ViewCreator の設定データをダウンロードすることができます。
Zipファイル形式で圧縮しておりますので、解凍してからご利用ください。
設定データのインポート方法は、「 ViewCreator 管理者操作ガイド 」を参照ください。

> コラム
>
> クエリの設定データの接続IDは「default」になっています。
> インポート後に、ご利用の環境に合わせて、接続先IDを変更してください。

> コラム
>
> このサンプルは、フロー名、同一フローで作成された案件名、また、同一ルート内のノード名が一意となっていることを前提としています。
> 同一の名称を利用している場合、ViewCreatorのデータ参照編集画面のグループ化設定で、同一グループと判断されます。
> 意図しないグループ化がされている場合は、リスト集計画面にて、グループ化の設定を見直してください。

> コラム
>
> このサンプルは、未完了案件20万件、完了案件20万件のデータが存在する想定で、動作を確認しています。
> データ件数が想定より多く、表示に時間がかかる場合は、各サンプルの作成手順内に記載されている改善を検討してください。

> 注意
>
> このサンプルは、 intra-mart Accel Platform 2014 Winter以降のバージョンの環境で利用することができます。

サンプル1 特定フロー完了案件一覧

「 *サンプル1 特定のフローの完了案件一覧を作成する* 」にて作成した設定データ

- クエリの設定データ

  query_sample1.zip

- データ参照の設定データ

  viewcreator_sample1.zip

サンプル2 フロー別滞留案件一覧

「 *サンプル2 フロー別の滞留案件の一覧を作成する* 」にて作成した設定データ

- クエリの設定データ

  query_sample2.zip

- データ参照の設定データ

  viewcreator_sample2.zip

サンプル3 ユーザ別滞留案件一覧

「 *サンプル3 ユーザ別の滞留案件の一覧を作成する* 」にて作成した設定データ

- クエリの設定データ

query_sample3.zip

- データ参照の設定データ

  viewcreator_sample3.zip

サンプル4 処理対象者不在案件一覧

「 *サンプル4 処理対象者が不在の案件一覧を作成する* 」にて作成した設定データ

- クエリの設定データ

  query_sample4.zip

- データ参照の設定データ

  viewcreator_sample4.zip

サンプル5 月別案件推移グラフ

「 *サンプル5 月別の案件推移グラフを作成する* 」にて作成した設定データ

- DDL（各DB環境用のDDLを利用してViewを作成）

  sample5-ddl.zip

- クエリの設定データ

  query_sample5.zip

- データ参照の設定データ

  viewcreator_sample5.zip

サンプル6 （BAM情報）ノード別平均作業時間

「 *サンプル6 BAM情報からノード別の平均作業時間の一覧を作成する* 」にて作成した設定データ

- DDL（各DB環境用のDDLを利用してViewを作成）

  sample6-ddl.zip

- クエリの設定データ

  query_sample6.zip

- データ参照の設定データ

  viewcreator_sample6.zip

サンプル7 （BAM情報）担当者別平均作業時間

「 *サンプル7 BAM情報から担当者別の平均作業時間の一覧を作成する* 」にて作成した設定データ

- データ参照の設定データ

  viewcreator_sample7.zip

サンプル8 （BAM情報）月別平均作業時間

「 *サンプル8 BAM情報から月別の平均作業時間の一覧を作成する* 」にて作成した設定データ

- データ参照の設定データ

  viewcreator_sample8.zip

「 *サンプル9 Formaアプリの登録データの一覧を作成する* 」にて作成した設定データ

- クエリの設定データ

  query_sample9.zip

- データ参照の設定データ

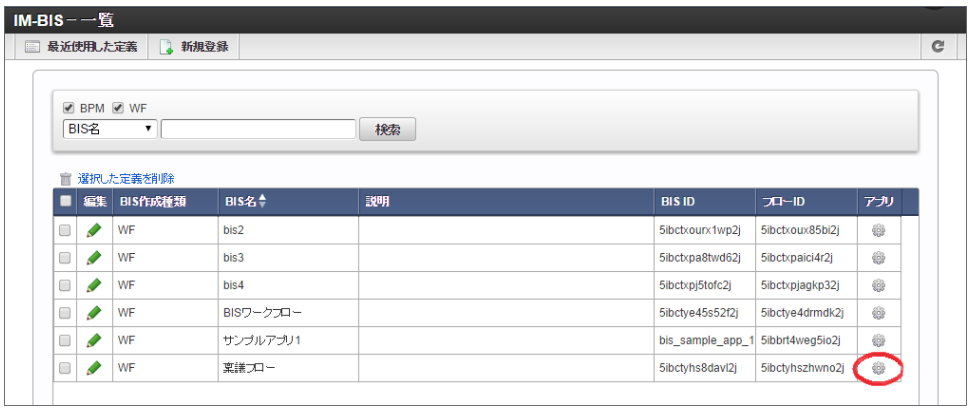
  viewcreator_sample9.zip

IM-BIS のフローの案件データのテーブル情報を確認する

フローの案件データのテーブル情報を確認します。

1. サイトマップ→「IM-BIS」→「IM-BIS作成」→「IM-BIS」をクリックします。
2. 「一覧」をクリックします。

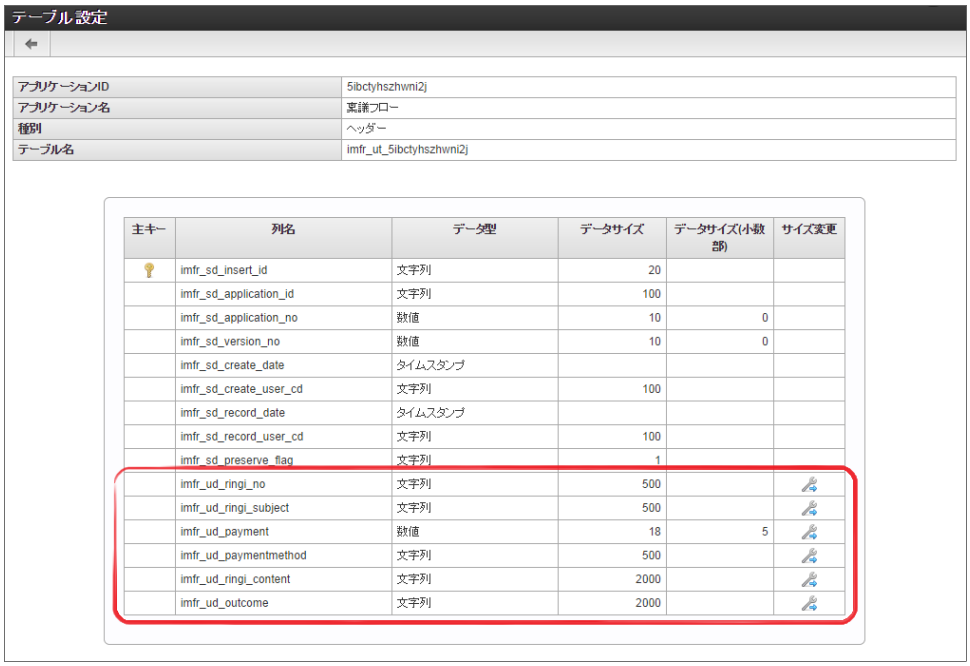
3. 対象のフローの をクリックします。



4. 「テーブル設定」をクリックします。

5. 「参照」をクリックします。

6. テーブル名、データを取得する対象の列名を確認します。



アプリケーションのテーブル情報を確認する

Formaアプリケーションのテーブル情報を確認します。

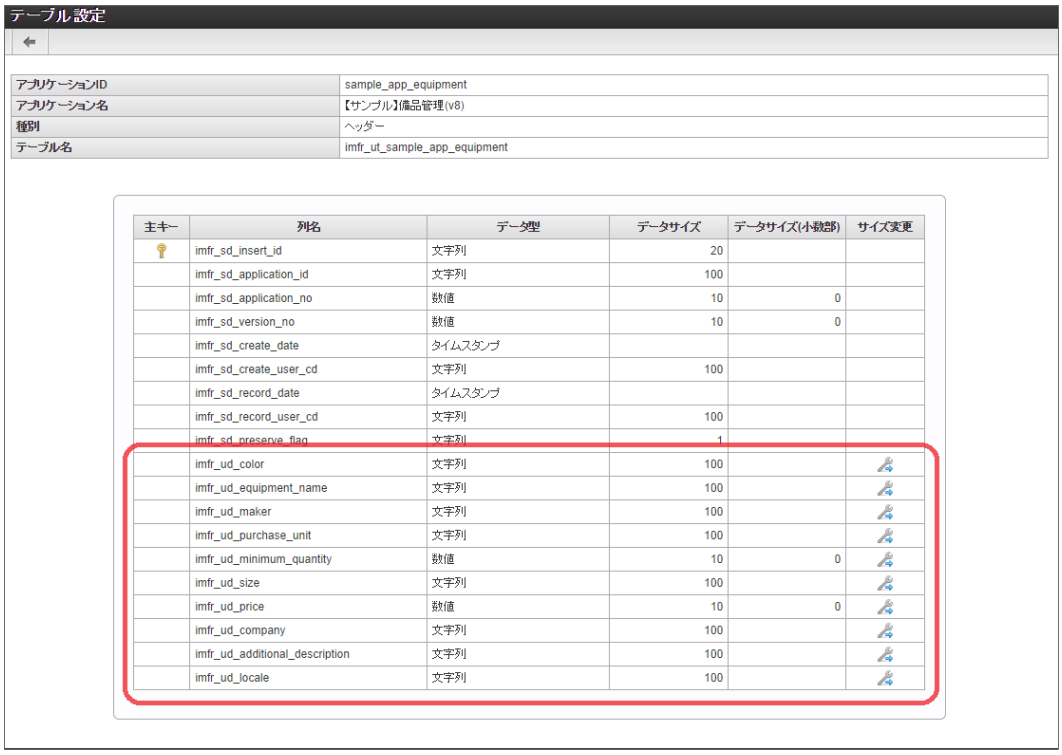
1. サイトマップ→「Forma管理画面」→「Formaアプリ作成」→「アプリ一覧」をクリックします。

2. 対象のアプリの をクリックします。

3. 「テーブル設定」をクリックします。

4. 「参照」をクリックします。

5. テーブル名、データを取得する対象の列名を確認します。



IM-Workflow の詳細画面への遷移URL

IM-Workflow の詳細画面へのリンクを設定するためのリクエストURLについて説明します。
リクエストパラメータのページ種別によって、遷移先画面を変更することができます。

- リクエストURL

```
im_workflow/common/switch/switch_content_detail
```

- リクエストパラメータ

KEY	設定値	説明
imwSystemMatterId	システム案件ID	遷移したい案件のシステム案件ID
imwUserDataId	データ登録ID （ユーザデータID）	遷移したい案件のデータ登録ID
imwPageType	ページ種別	遷移したい詳細画面の種別

コラム

システム案件IDとデータ登録IDについては、「 IM-Workflow プログラミングガイド 」-「3.1 ユーザアプリケーションデータとIM-Workflow の関係」を参照してください。

- 詳細画面のページ種別

設定値	説明
6	処理詳細画面
7	参照詳細画面
8	確認詳細画面
9	過去案件詳細

コラム

各ユーザ画面については、「 IM-Workflow 仕様書 」-「3.4 ユーザ画面」を参照ください。

注意

「案件の処理者」または「参照者」のみ詳細画面の参照が可能です。
「管理者権限」のみを持っているユーザでは、ワークフロー画面以外からの参照はできません。

IM-BIS の履歴画面への遷移URL

IM-BIS の履歴画面へのリンクを設定するためのリクエストURLについて説明します。

- リクエストURL

```
bis/common/parts/history/history
```

- リクエストパラメータ

KEY	設定値	説明
imwSystemMatterId	システム案件ID	遷移したい案件のシステム案件ID

コラム

IM-BIS の履歴画面については、「 IM-BIS ユーザ 操作ガイド 」-「 履歴を参照する 」を参照ください。

注意

「案件の処理者」または「参照者」のみ履歴画面の参照が可能です。
「管理者権限」のみを持っているユーザでは、ワークフロー画面以外からの参照はできません。